

「市民満足度調査」

集計・分析結果報告書

平成29年 6月

千 曲 市

目 次

1. 調査の概要

- 1 調査の目的
- 2 調査方法
- 3 調査票の配布及び回収結果
- 4 集計結果の取り扱いについて

2. 回答者の属性

- 1 性別
- 2 年齢
- 3 職業
- 4 居住区域
- 5 居住年数
- 6 住みやすさについて
- 7 今後の居留意向

3. 調査の結果

- 1 市政への関心
- 2 市政への満足度と重要度
- 3 市政への要望
- 4 市政に対する不満
- 5 「協働のまちづくり」について
- 6 「議会本会議」について
- 7 市職員の応対について
- 8 土地利用について

4. 平成 20 年度との比較

- 1 満足度・重要度の推移
- 2 満足度・重要度の変動
- 3 満足度・重要度の推移の一覧表
- 4 満足度・重要度の推移(第一次千曲市総合計画の基本目標ごと)

1. 調査の概要

1 調査の目的

市民満足度調査は、平成 19 年 4 月に策定した「千曲市総合計画」に掲げた 32 項目の達成方針について、市民の皆さんがどの項目を重要と考えているのか、また、現状に対する各項目の満足度はどの程度かをお聴きし、今後の市政運営に役立てるため、平成 20 年度から毎年実施しています。

また、平成 21 年度からは行政評価(施策評価)に当たって、市民満足度調査の結果を絡めて評価しています。

2 調査方法

- (1) 調査対象 満 18 歳以上の市民
- (2) 標本数 2,000 人
- (3) 調査区域 千曲市全域
- (4) 抽出方法 住民基本台帳から無作為抽出
- (5) 調査方法 郵送方式(料金受取人払いの返信用封筒を添えて郵送)
Web 方式(インターネットを使用して回答)
- (6) 調査期間 平成 29 年 5 月 17 日～平成 29 年 5 月 31 日

3 調査票の配布及び回収結果

- (1) 調査票配布数 2,000 票
- (2) 有効回収数 953 票(うち Web 回答数 98 票)
- (3) 有効回収率 47.7%(うち Web 回答率 4.9%)

前回(平成 28 年度)配布及び回収結果

- (1) 調査票配布数 2,000 票
- (2) 有効回収数 977 票(うち Web 回答数 129 票)
- (3) 有効回収率 48.9%(うち Web 回答率 6.5%)

4 集計結果の取り扱いについて

- (1) 各項目の集計結果は百分率で表示し、個々の項目はそれぞれ小数点第2位を四捨五入して算出した。したがって、比率の合計が必ずしも 100%にならないことがある。
- (2) 「18・19 歳」の回答者数が極端に少ない為、集計結果が必ずしも調査目的に対して正しく反映されているとは限らない点もあるが、参考として表示するものとする。

2. 回答者の属性

(1) 性別

性別では、「男性」が 48.3%、「女性」が 51.1%であった。

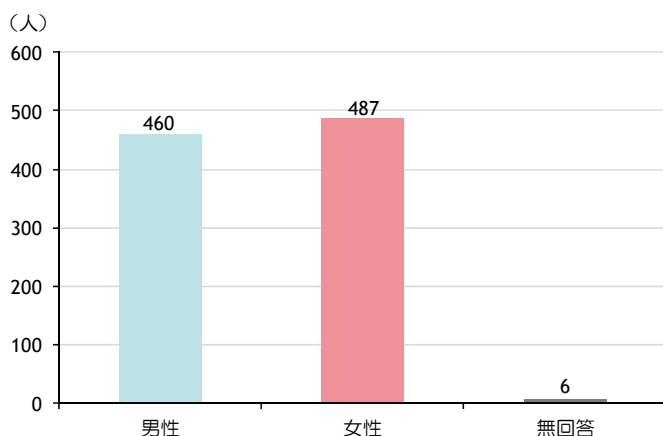
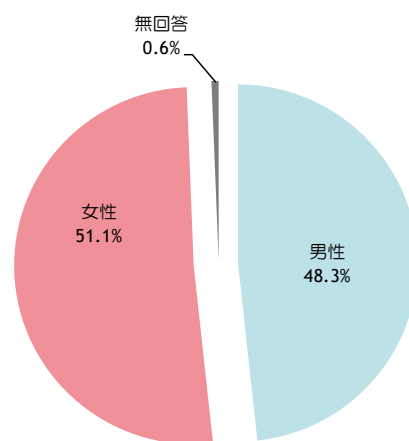


図 2-1-1 性別回答数



(n=953)

図 2-1-2 性別回答割合

(2) 年齢

年齢別では、「60～69 歳」が 27.1%、「70 歳以上」が 21.9%となっており、60 歳以上の回答者が全体の半数近くを占めている。

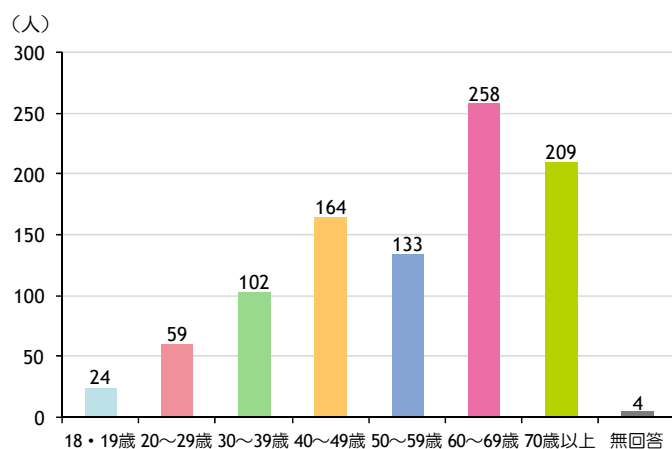
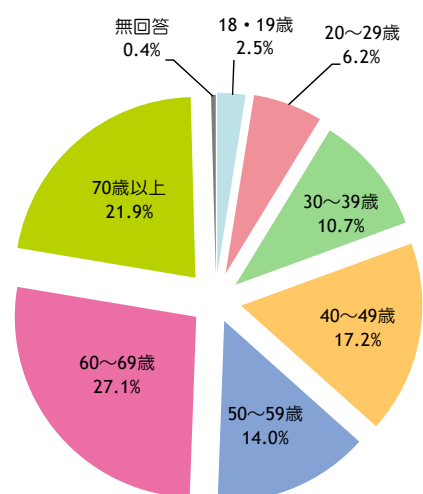


図 2-2-1 年齢別回答数



(n=953)

図 2-2-2 年齢別回答割合

性別による年齢の割合は、男性・女性とも 60 歳以上が多く、どの年齢層も男女の割合にあまり差はない。

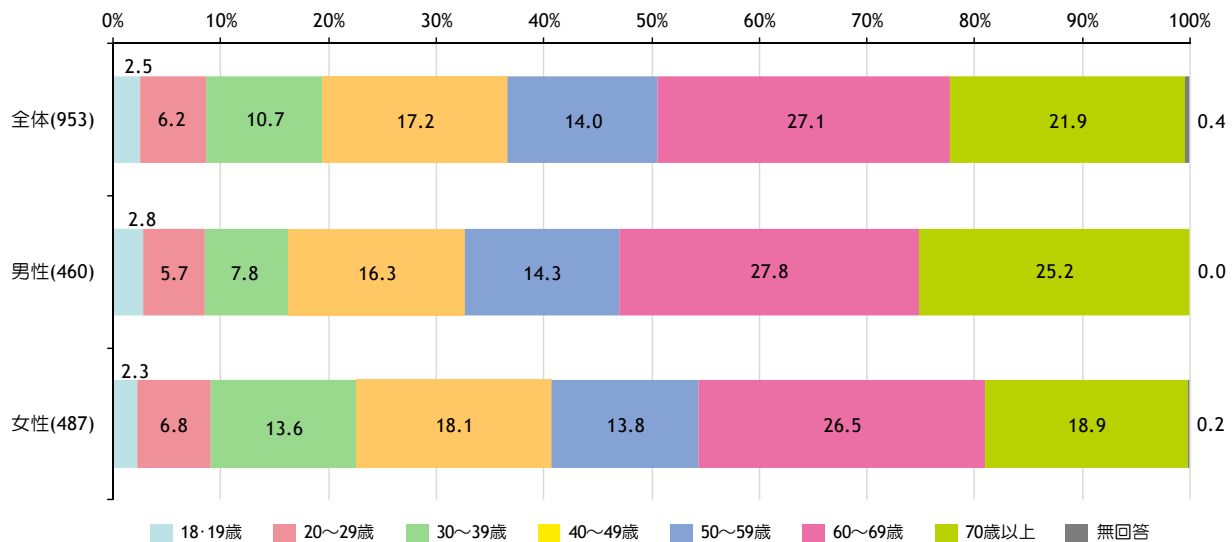


図 2-2-3 性別による年齢の回答割合

(3) 職業

職業別では、「専業主婦・主夫、無職(33.8%)」が最も多く、次いで「会社員(32.0%)」となっている。

形態別では、(農林水産業)と(商工サービス業ほか)を合わせた“自営業”が 11.7%、「会社員」「公務員」「団体職員」を合わせた“勤め人”が 38.1%、「専業主婦・主夫、無職」が 33.8%となっている。

平成 28 年度調査結果と比較すると、各職業ともほぼ同じ割合となっている。

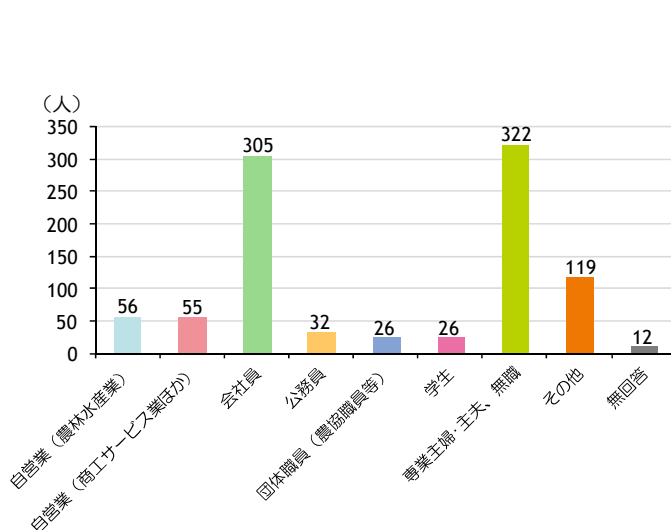


図 2-3-1 職業別回答数

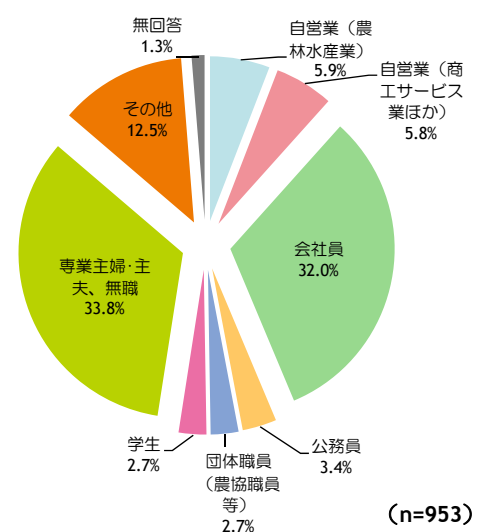


図 2-3-2 職業別回答割合

(4) 居住区域

居住区域別では、「埴生小学校区(16.3%)」が最も多く、「更級小学校区(6.3%)」が最も少ない。埴生小学校区、更級小学校区を除く7小学校区の回答率にばらつきがあるものの、大きな差はみられない。

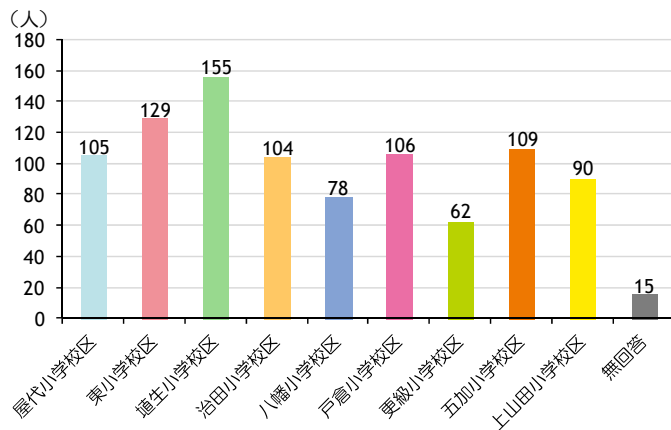


図 2-4-1 居住区域別回答数

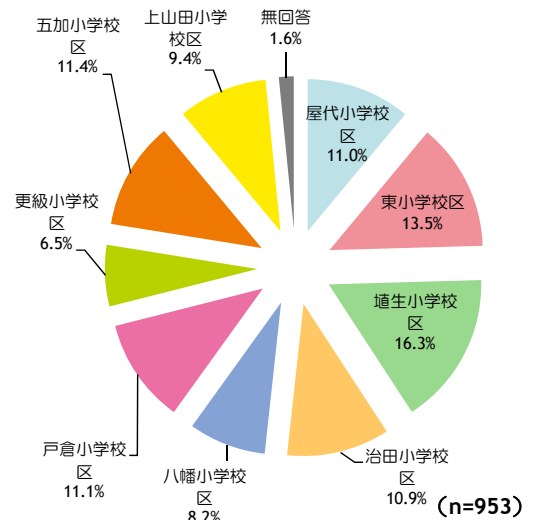


図 2-4-2 居住区域別回答割合

【参考】

～通学区～

屋代小学校	大字屋代、大字粟佐
東小学校	大字雨宮、大字土口、大字生萱、大字森、大字倉科
埴生小学校	大字寂蒔、大字鋳物師屋、大字打沢、大字小島、大字桜堂、 大字杭瀬下、杭瀬下一・二・三・四・五・六丁目、大字新田、大字中
治田小学校	大字稻荷山、大字野高場、大字桑原、大字八幡のうち中原区
八幡小学校	大字八幡(中原区を除く。)
戸倉小学校	大字磯部、大字戸倉、大字戸倉温泉、大字若宮のうち八王子地区、 大字上徳間のうち今井町区・柏王区、大字内川のうち柏王区
更級小学校	大字若宮(八王子地区を除く。)、大字羽尾、大字須坂
五加小学校	大字上徳間(今井町区・柏王区を除く。)、大字内川(柏王区を除く。)、 大字千本柳、大字小船山
上山田小学校	大字力石、大字新山、大字上山田、上山田温泉一・二・三・四丁目

(5) 居住年数

居住年数別では、「30 年以上(61.3%)」が最も多く 6 割以上を占めている。「5～10 年未満(5.1%)」が最も少ない。

平成 28 年度調査結果と比較すると、「5 年未満」は 1.9%増、「5～10 年未満」は 0.3%増、「10～20 年未満」は 0.1%の増で、その他はいずれもわずかながら減少している。

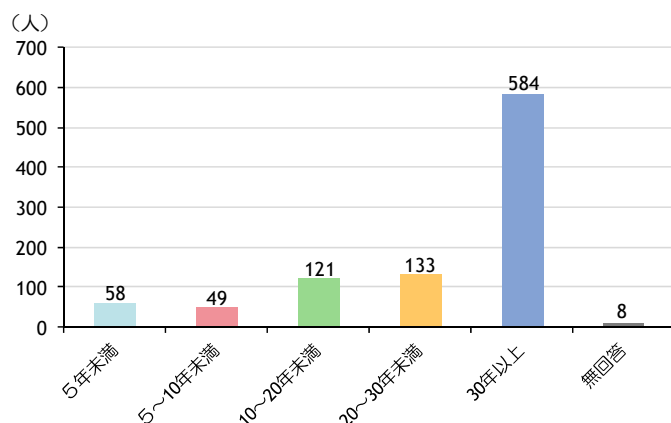
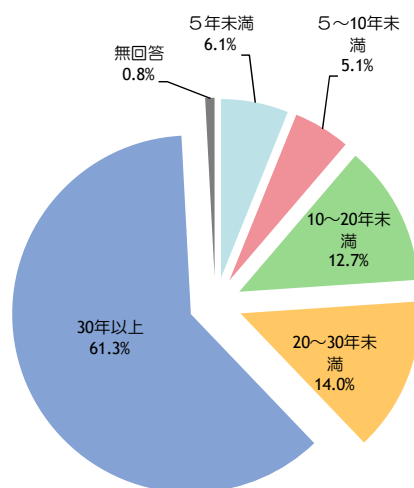


図 2-5-1 居住年数別回答数



(n=953)

図 2-5-2 居住年数別回答割合

【居住区域でみる居住年数】

どの小学校区も居住年数「30 年以上」が最も多く 5 割以上を占めている。居住年数 30 年未満については、居住年数と回答率が一概に比例しておらず、居住区域でばらつきがある。

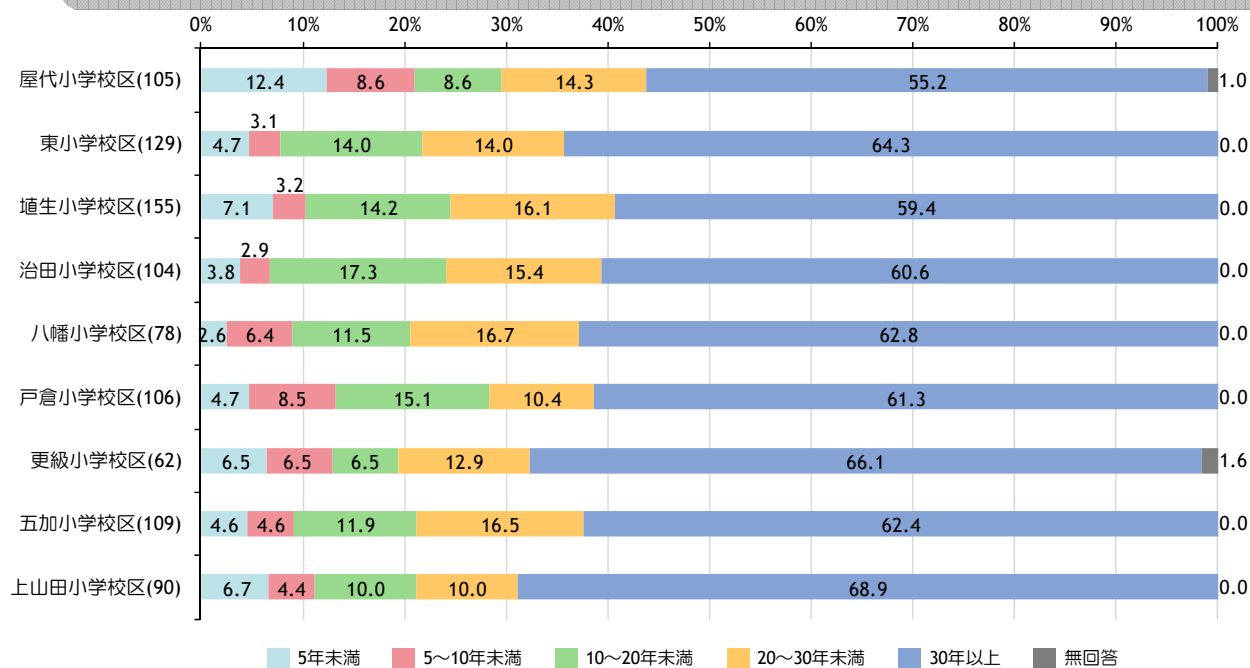


図 2-5-3 居住区域別居住年数の回答割合

(6) 住みやすさについて

住みやすさについては、「住みやすい(23.4%)」と「まあまあ住みやすい(59.3%)」の2つを合わせた“住みやすい(82.7%)”が8割を超えている。「あまり住みやすくない(10.7%)」と「住みにくい(2.1%)」の2つを合わせた“住みにくい(12.8%)”は約1割である。

平成28年度調査結果と比較すると、住みやすいが-1.0%、まあまあ住みやすいが-1.5%、あまり住みやすくないが+2.6%、住みにくいが-0.5%となっている。

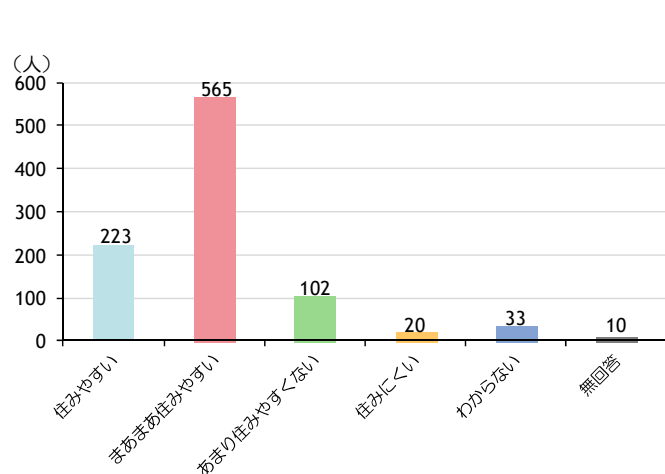


図 2-6-1 「住みやすさ」についての回答数

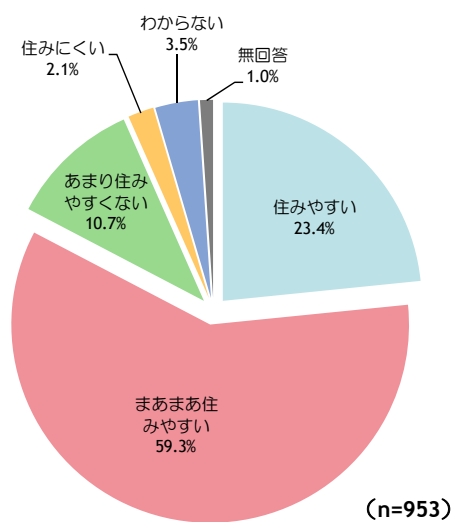


図 2-6-2 「住みやすさ」についての回答割合

【居住年数別の住みやすさについて】

各居住年数とも「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた“住みやすい”が6割以上であった。

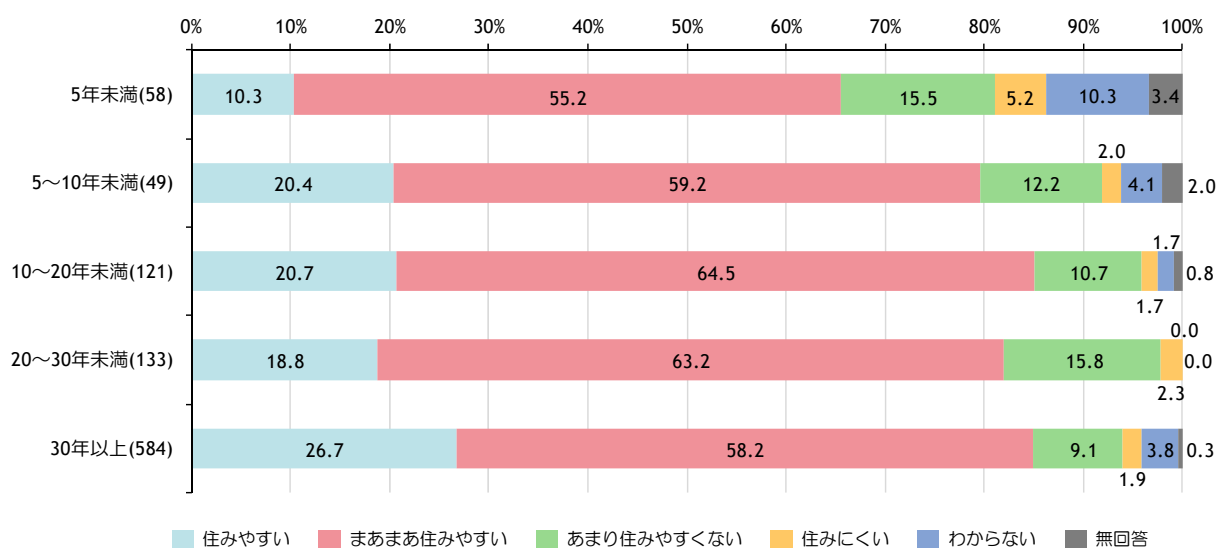


図 2-6-3 居住年数別「住みやすさ」についての回答割合

【居住地域別の住みやすさについて】

「住みやすい」と「まあまあ住みやすい」の2つを合わせた“住みやすい”がほとんどの居住地域で8割以上であったが、「東小学校区(76.8%)」「更級小学校区(72.6%)」「上山田小学校区(73.3%)」については8割未満であった。

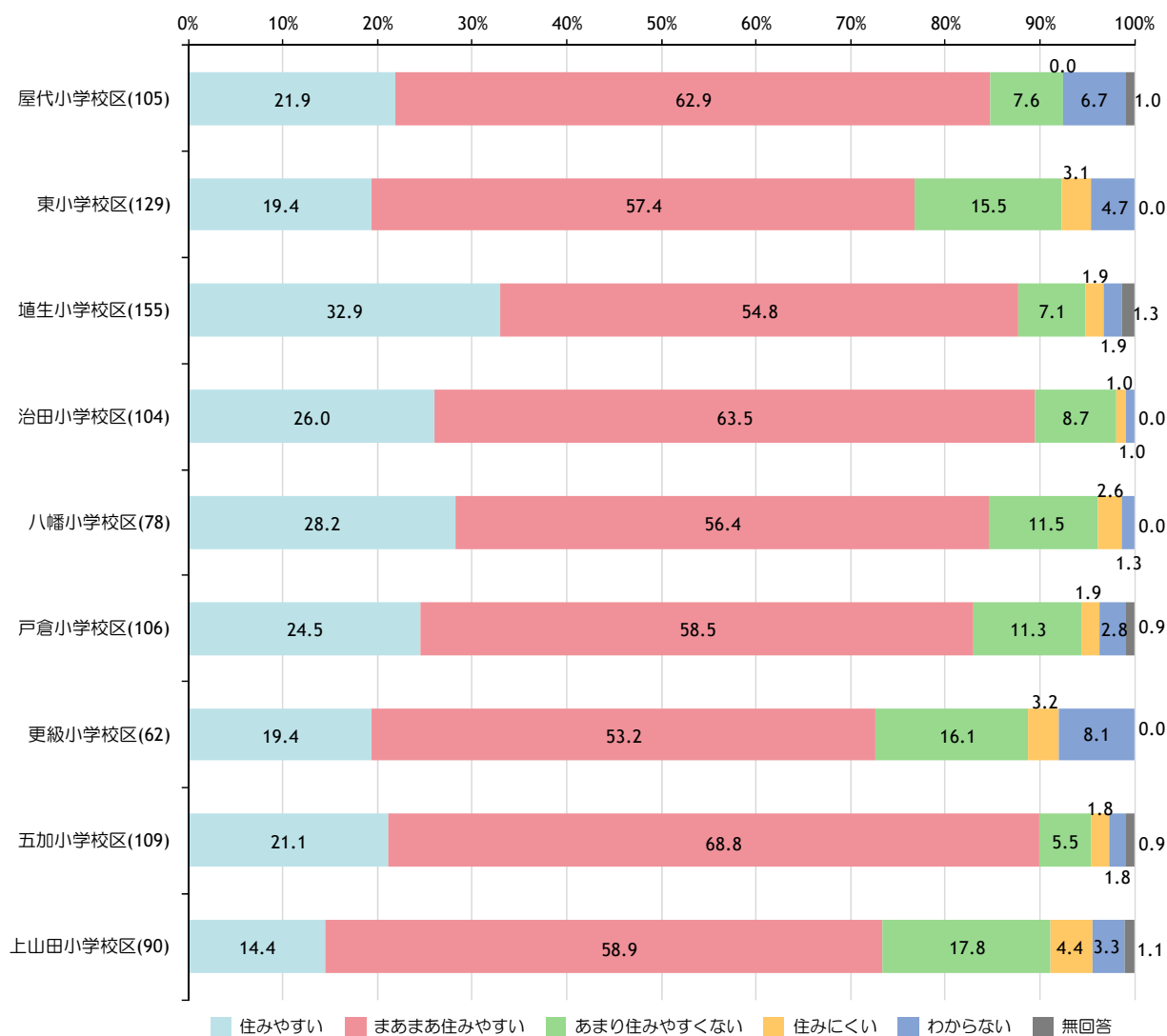


図 2-6-4 居住区域別「住みやすさ」についての回答割合

(7) 今後の居住意向

今後の居住意向は、「住み続けたい(70.7%)」が最も多く、「市外に転出する予定(1.3%)」が最も少ない。

「住み続けたい(70.7%)」と「できれば市内の他地域に転居したい(5.2%)」を合わせた回答者の7割以上が、千曲市での居住意向を持っていることが伺える。

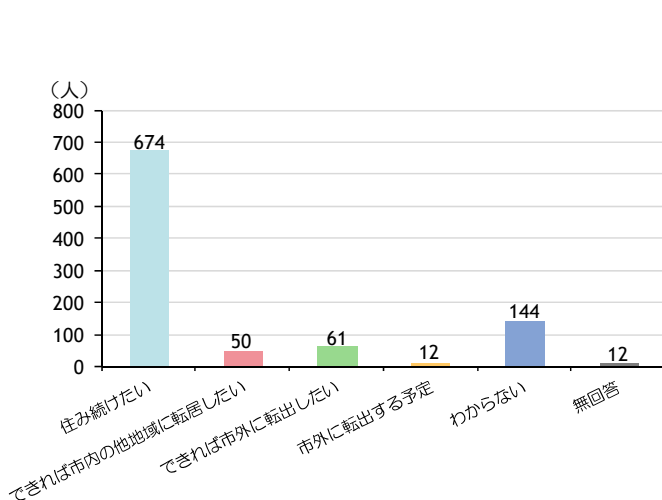


図 2-7-1 居住意向の回答数

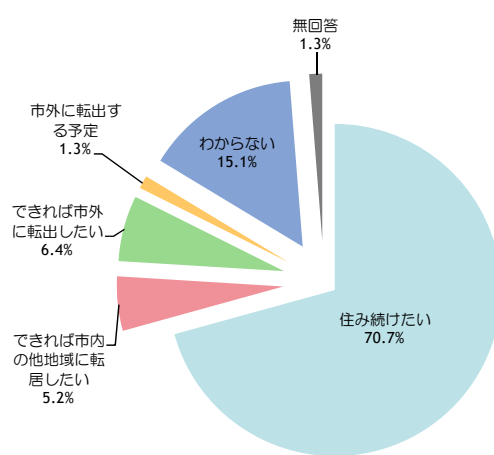


図 2-7-2 居住意向の回答割合

(n=953)

【居住年数別の居住意向】

各居住年数とも「住み続けたい」の割合が最も高い。

しかし、居住年数が「5年未満」の回答者は「できれば市外に転出したい」と「市外に転出する予定」の割合が高い。

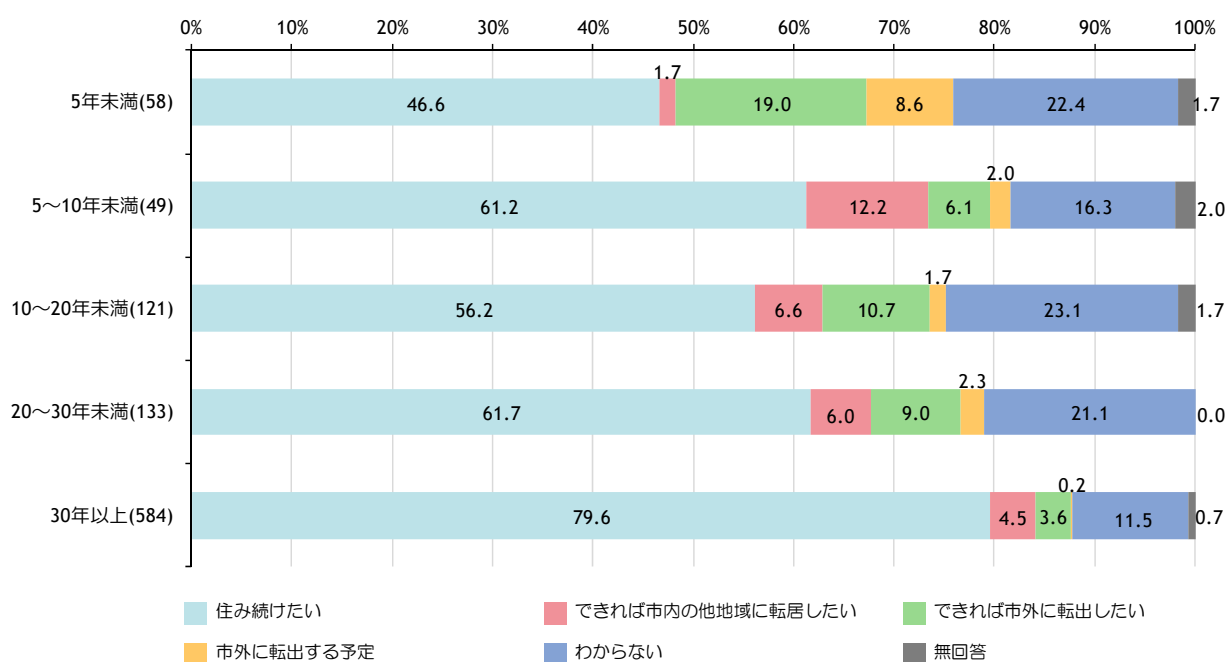


図 2-7-3 居住年数別居住意向の回答割合

【居住地域別の居住意向】

各居住地域とも「住み続けたい」の割合が最も高い。「住み続けたい」と「できれば市内の他地域に転居したい」を合わせると、回答者の約7割が千曲市での居住意向を持っていることが伺える。

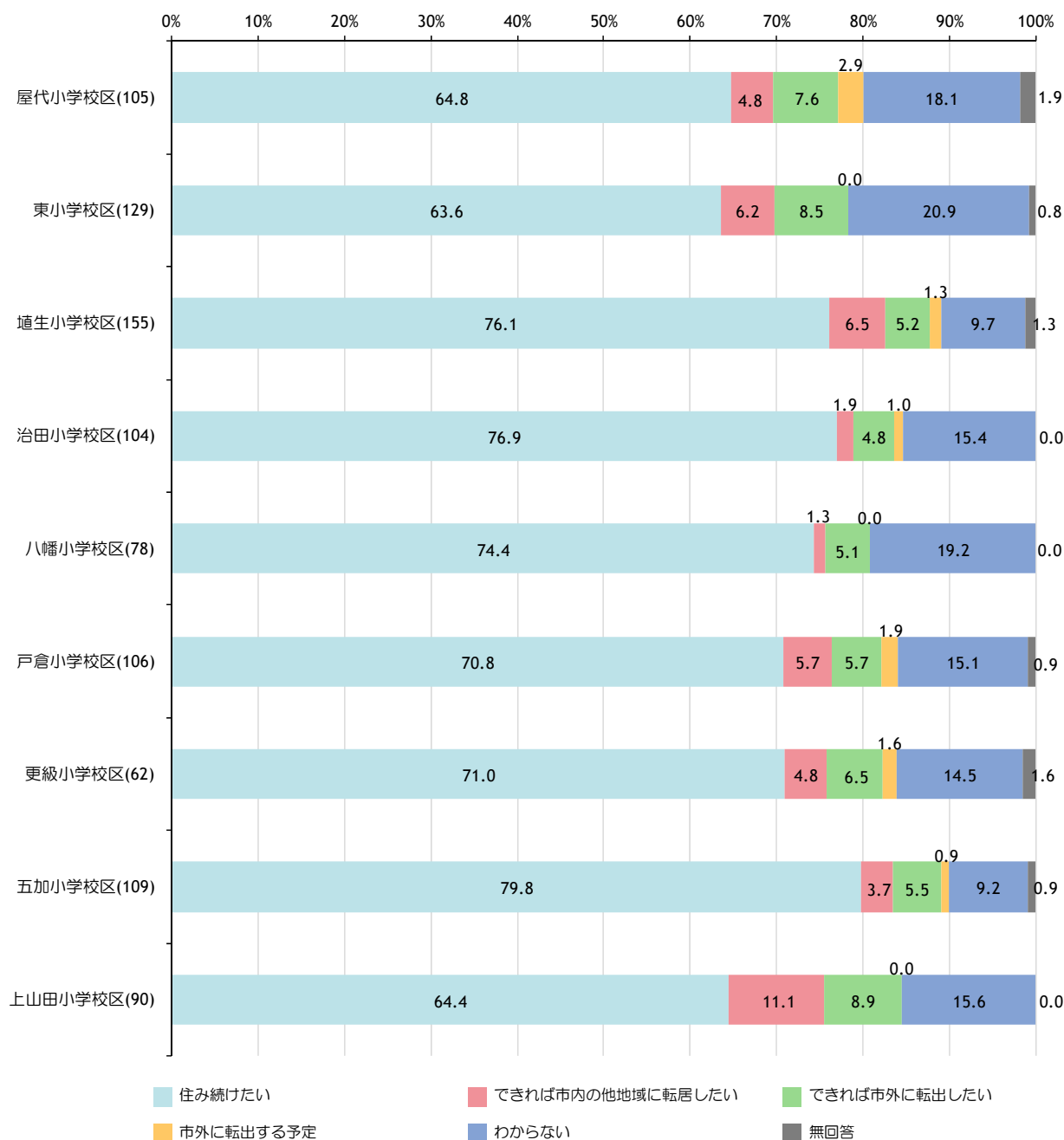


図 2-7-4 居住区域別居住意向の回答割合

3. 調査の結果

(1) 市政への関心度

「ある程度関心がある(50.4%)」「あまり関心がない(24.0%)」「大変関心がある(9.7%)」の順となった。

「ある程度関心がある(50.4%)」「大変関心がある(9.7%)」の2つを合わせた“関心がある”は60.1%となり、回答者の6割以上が市政に関心があるという結果になった。

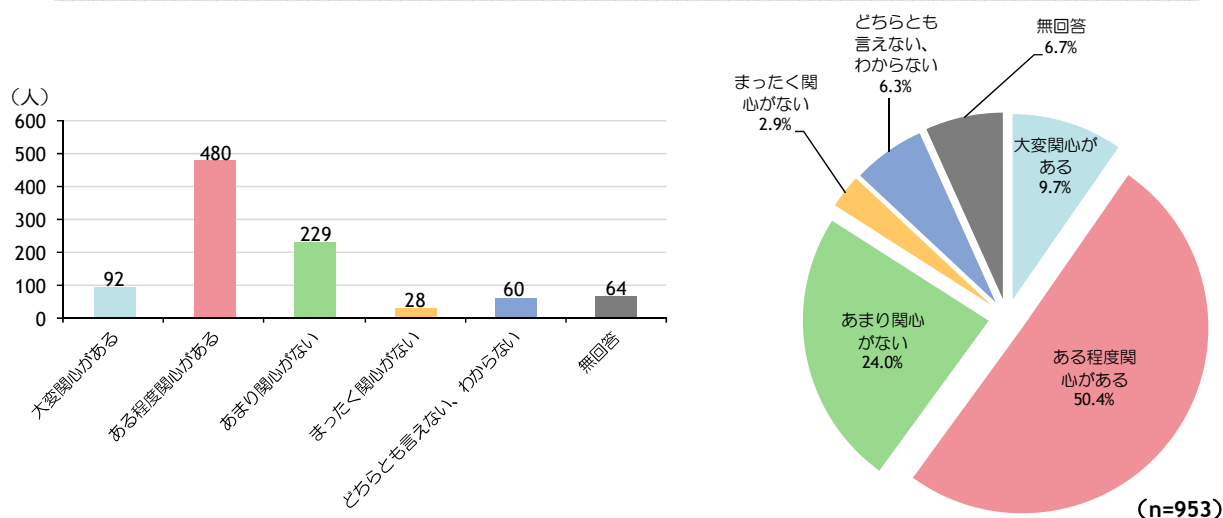


図 3-1-1 市政への関心度の回答数

図 3-1-2 市政への関心度の回答割合

【年齢別の市政への関心度】

若い年代ほど市政への関心度が低下している。

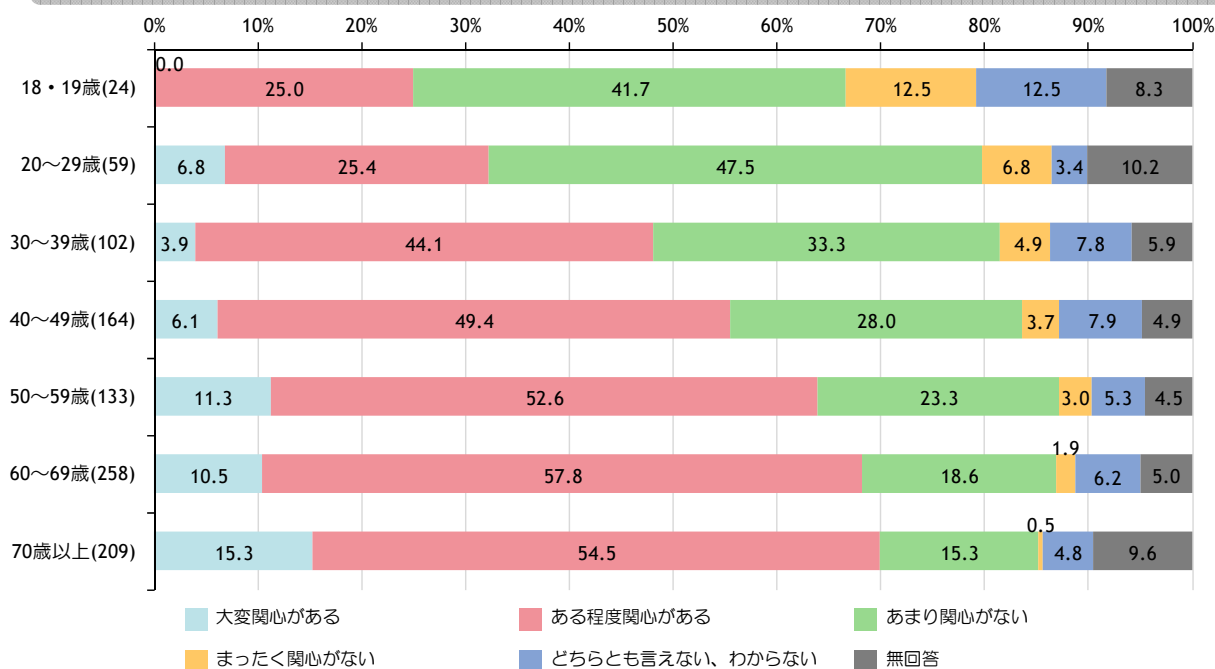


図 3-1-3 年齢別市政への関心度の回答割合

(2) 市政への満足度と重要度

問 2-2 以下の項目は、総合計画に掲げた 32 の達成方針とその目標が達成された状態を示しています。

それぞれの項目について、「千曲市にとって重要か」、「目標が達成された状態と比較して現状は満足しているか」、あなたのお考えに 1 つ〇をつけてください。

< 市政にとっての重要度 >

「重要である」の割合が高いのは、「上下水道(68.2%)」であり、7割近くになっている。次いで、「保健・医療(67.7%)」「安全・安心(60.8%)」の順となっていて、6割を超えている。また、「ごみ処理(56.6%)」「健康づくり(55.7%)」「移住・定住(54.8%)」「教育(54.5%)」「子育て(53.4%)」「生活支援(51.2%)」「障害者福祉(50.4%)」が5割を超えている。

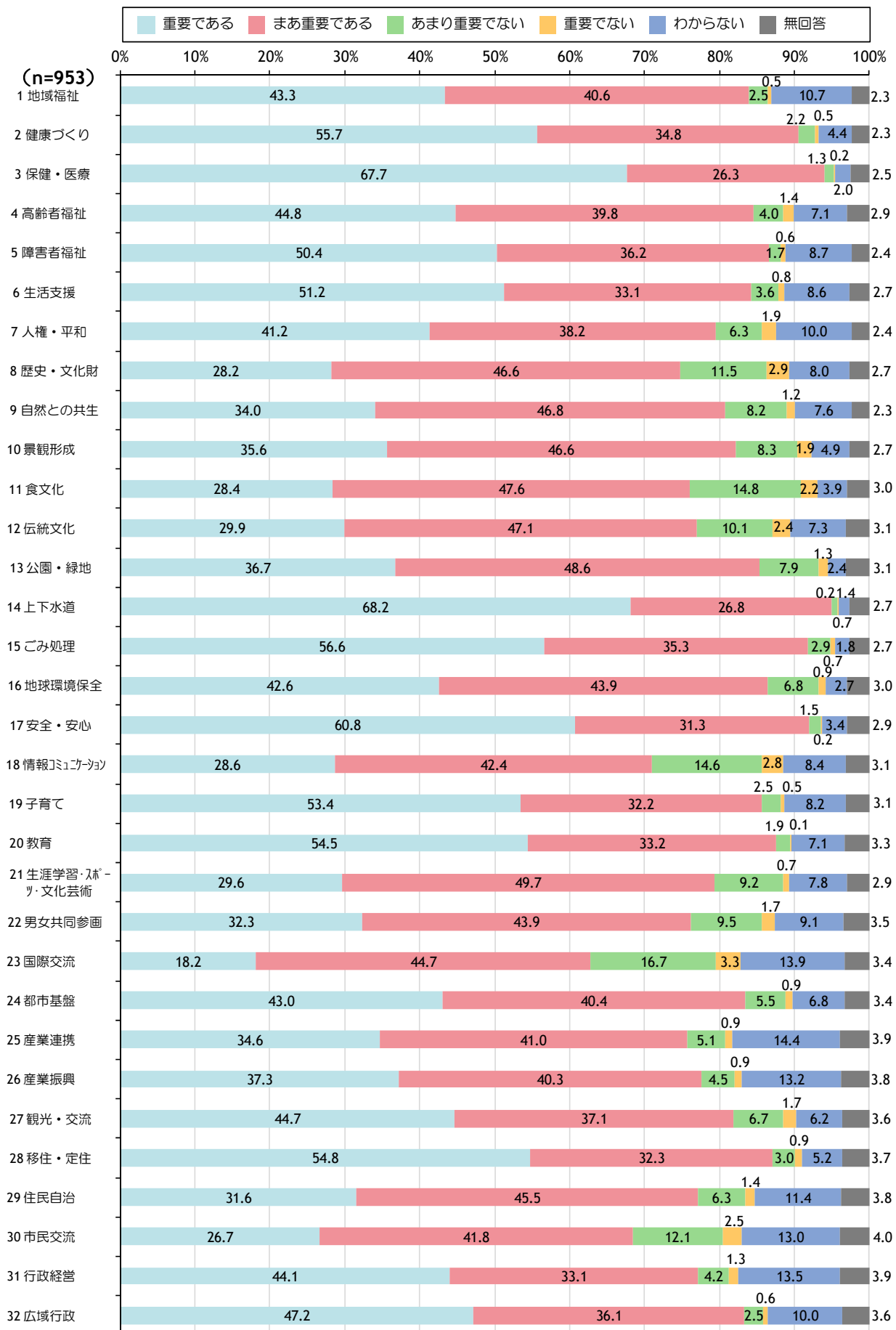
一方、重要度が低い項目では、「国際交流(18.2%)」が最も低く、次いで「市民交流(26.7%)」「歴史・文化財(28.2%)」の順となっている。

< 市政への重要度の意識変化 >

「重要である」と「まあ重要である」の2つを合わせた“重要”の割合が、平成28年度調査結果と比較して大きく増加しているのは、「国際交流(+3.0%)」「都市基盤(+2.1%)」「障害者福祉(+1.2%)」などとなっている。

一方、割合が減少しているのは、「観光・交流(-2.8%)」「市民交流(-2.4%)」「伝統文化(-2.4%)」「歴史・文化財(-2.0%)」などとなっている。

<市政にとっての重要度>



<重要度の平均スコア>

32 項目の市政にとっての重要度について、「重要である」に+10 点、「まあ重要である」に+5 点、「あまり重要でない」に-5 点、「重要でない」に-10 点の点数を与え、平均スコアを求めた。これによると平均スコアの最大は+10 点、最小は-10 点であり、点数が大きいほど重要度が高くなる。

平均スコアが最も高い項目は、「上下水道(8.33)」である。次いで「保健・医療(8.21)」「安全・安心(7.77)」「ごみ処理(7.40)」「健康づくり(7.32)」の順となっている。

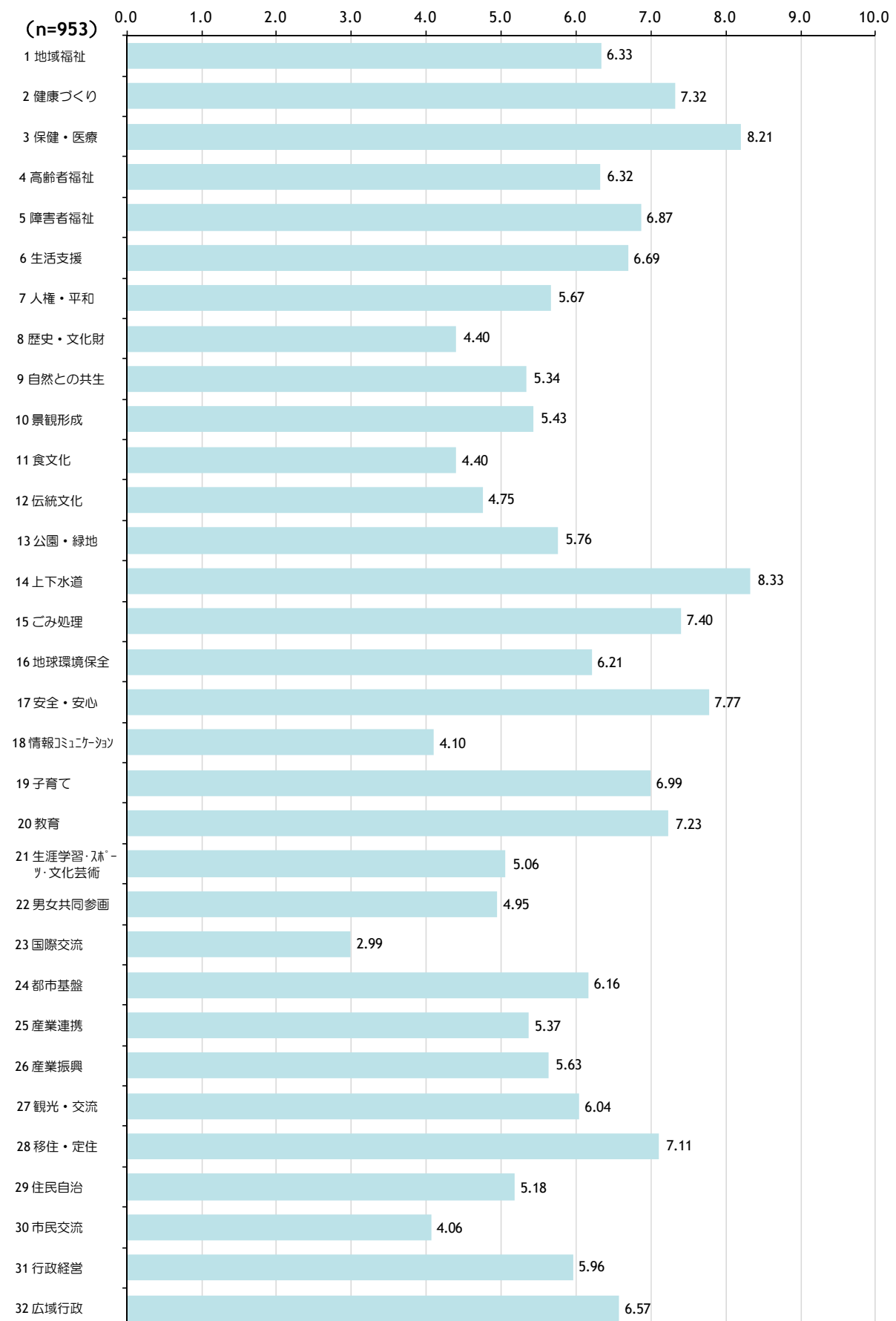
平均スコアが最も低い項目は、「国際交流(2.99)」である。次いで「市民交流(4.06)」「情報コミュニケーション(4.10)」「歴史・文化財(4.40)」「食文化(4.40)」の順となっている。

32 項目全体の平均スコアは 5.96 であった。(前年度の平均スコアは、6.06)

また、平成 28 年度調査結果とのランキング比較(16 ページ参照)では、上位 4 項目の順位に変動はなかった。

ランキングが上昇した項目は、「健康づくり(6 位から 5 位)」「移住・定住(8 位から 7 位)」「地域福祉(16 位から 12 位)」「都市基盤(17 位から 15 位)」「人権・平和(20 位から 19 位)」「景観形成(22 位から 21 位)」であった。

<重要度の平均スコア>



<重要度の平均スコアランキング>

ランク			項 目	ポイント数		
H29年度 (今回)	順位 変動	H28年度 (前回)		H29年度 (今回)	H28年度 (前回)	差
1	→	1	14 上下水道	8.33 P	8.34 P	△ 0.01
2	→	2	3 保健・医療	8.21 P	8.10 P	0.11
3	→	3	17 安全・安心	7.77 P	7.83 P	△ 0.06
4	→	4	15 ごみ処理	7.40 P	7.52 P	△ 0.12
5	↑	6	2 健康づくり	7.32 P	7.10 P	0.22
6	↓	5	20 教育	7.23 P	7.18 P	0.05
7	↑	8	28 移住・定住	7.11 P	6.96 P	0.15
8	↓	7	19 子育て	6.99 P	7.06 P	△ 0.07
9	→	9	5 障害者福祉	6.87 P	6.75 P	0.11
10	→	10	6 生活支援	6.69 P	6.71 P	△ 0.01
11	→	11	32 広域行政	6.57 P	6.66 P	△ 0.09
12	↑	16	1 地域福祉	6.33 P	6.15 P	0.19
13	→	13	4 高齢者福祉	6.32 P	6.41 P	△ 0.09
14	↓	12	16 地球環境保全	6.21 P	6.42 P	△ 0.21
15	↑	17	24 都市基盤	6.16 P	5.97 P	0.19
16	↓	14	27 観光・交流	6.04 P	6.35 P	△ 0.31
17	↓	15	31 行政経営	5.96 P	6.16 P	△ 0.21
18	→	18	13 公園・緑地	5.76 P	5.93 P	△ 0.17
19	↑	20	7 人権・平和	5.67 P	5.80 P	△ 0.14
20	↓	19	26 産業振興	5.63 P	5.86 P	△ 0.22
21	↑	22	10 景観形成	5.43 P	5.57 P	△ 0.14
22	↓	21	25 産業連携	5.37 P	5.61 P	△ 0.24
23	→	23	9 自然との共生	5.34 P	5.56 P	△ 0.22
24	→	24	29 住民自治	5.18 P	5.48 P	△ 0.30
25	→	25	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	5.06 P	5.26 P	△ 0.20
26	→	26	22 男女共同参画	4.95 P	5.13 P	△ 0.17
27	→	27	12 伝統文化	4.75 P	4.90 P	△ 0.15
28	→	28	8 歴史・文化財	4.40 P	4.79 P	△ 0.39
29	→	29	11 食文化	4.40 P	4.68 P	△ 0.28
30	→	30	18 情報コミュニケーション	4.10 P	4.37 P	△ 0.27
31	→	31	30 市民交流	4.06 P	4.35 P	△ 0.29
32	→	32	23 国際交流	2.99 P	2.81 P	0.18

< 市政への満足度 >

「満足している」と「まあ満足している」の2つを合わせた“満足”の割合が最も高い項目は、「上下水道(70.0%)」である。次いで「健康づくり(60.0%)」「地球環境保全(57.9%)」「ごみ処理(53.8%)」「安心・安全(51.2%)」の順となっている。

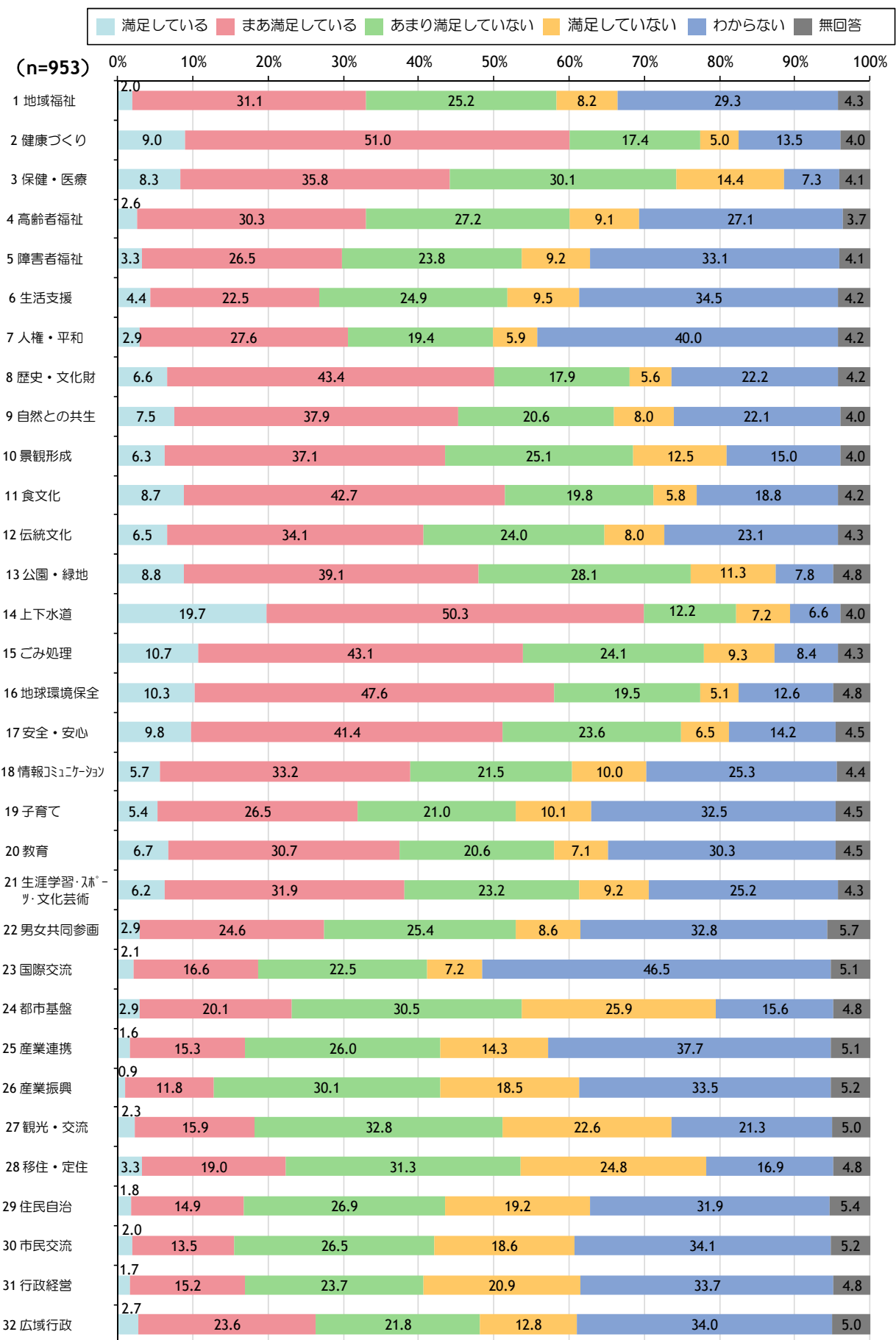
「あまり満足していない」と「満足していない」の2つを合わせた“不満”の割合が最も高い項目は、「都市基盤(56.4%)」である。次いで「移住・定住(56.1%)」「観光・交流(55.4%)」の順となっている。

< 市政への満足度の意識変化 >

“満足”の割合が平成 28 年度調査結果と比較して増加している項目は、「障害者福祉(+0.2%)」「移住・定住(+0.1%)」「上下水道(+0.1%)」となっている。

一方、“不満”の割合が増加しているのは、「住民自治(+4.1%)」「都市基盤(+2.9%)」「行政経営(+2.7%)」「伝統文化(+2.5%)」となっている。

< 市政への満足度 >



<満足度の平均スコア>

重要度と同様に、市政への満足度についても、32 項目ごとに「満足している」に+10 点、「まあ満足している」に+5 点、「あまり満足していない」に-5 点、「満足していない」に-10 点の点数を与え、平均スコアを求めた。

平均スコアが最も高い項目は、「上下水道(3.28)」である。次いで「健康づくり(2.16)」「地球環境保全(2.02)」「食文化(1.50)」「歴史・文化財(1.44)」「安全・安心(1.27)」の順となっている。

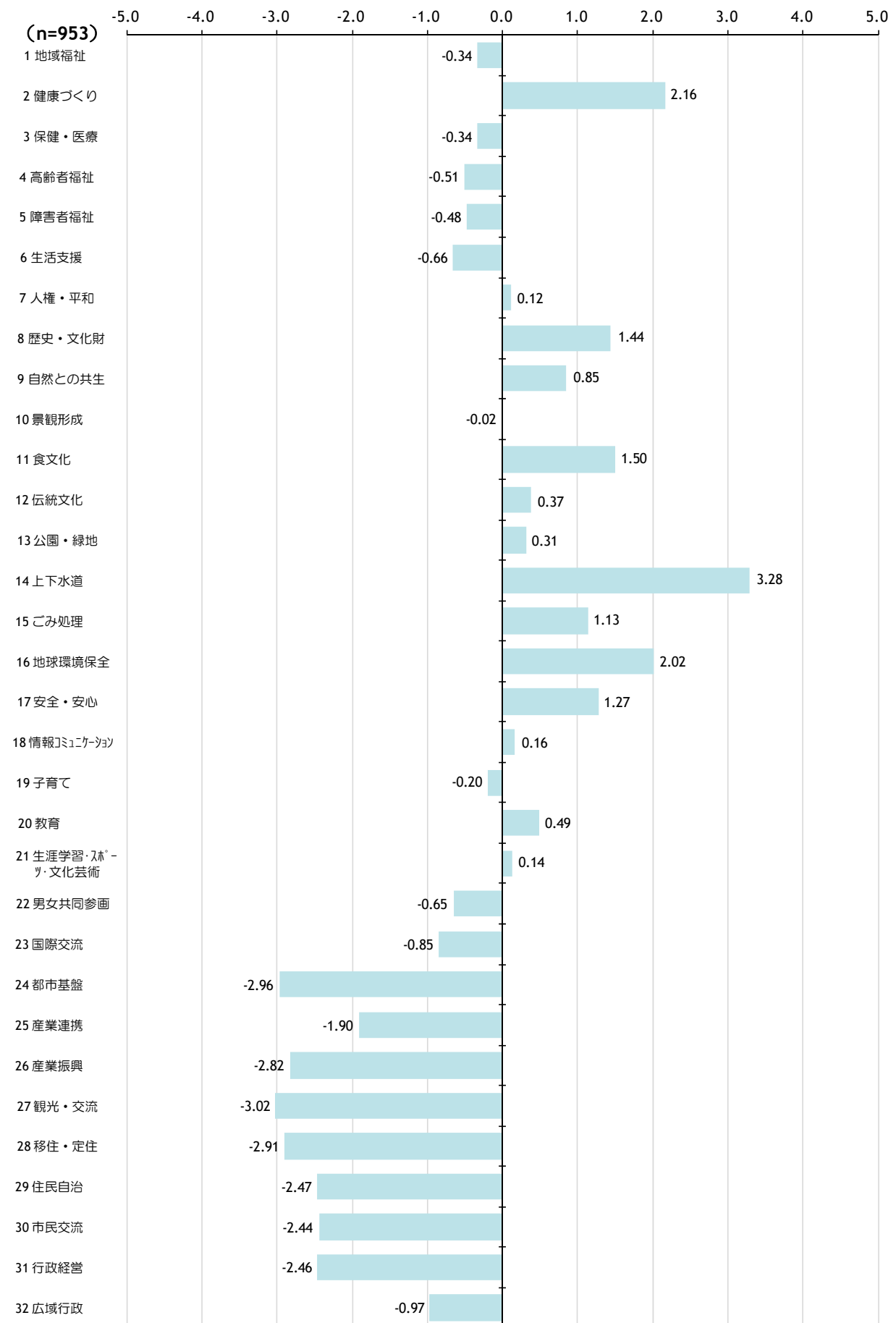
平均スコアが最も低い項目は、「観光・交流 (-3.02)」である。次いで「都市基盤(-2.96)」「移住・定住(-2.91)」「産業振興(-2.82)」「住民自治(-2.47)」「行政経営(-2.46)」の順となっている。

32 項目全体の平均スコアは-0.34 であった。(前年度の平均スコアは、-0.13)

また、平成 28 年度調査結果とのランキング比較(21 ページ参照)では、「上下水道(1 位)」「食文化(4 位)」など 9 項目に変動はなかった。その他の項目については上昇、下降いずれかの変化がみられた。

ランキングが大幅に上昇した項目は、「景観形成(17 位から 15 位)」「障害者福祉(21 位から 19 位)」で、ランキングが大幅に下降したのは、「伝統文化(8 位から 10 位)」「保健・医療(15 位から 17 位)」「男女共同参画(19 位から 21 位)」「住民自治(26 位から 28 位)」「都市基盤(29 位から 31 位)」である。

<満足度の平均スコア>



<満足度の平均スコアランキング>

ランク			項 目	ポイント数		
H29年度 (今回)	順位 変動	H28年度 (前回)		H29年度 (今回)	H28年度 (前回)	差
1	→	1	14 上下水道	3.28 P	3.45 P	△ 0.17
2	↑	3	2 健康づくり	2.16 P	1.96 P	0.20
3	↓	2	16 地球環境保全	2.02 P	2.49 P	△ 0.47
4	→	4	11 食文化	1.50 P	1.79 P	△ 0.29
5	↑	6	8 歴史・文化財	1.44 P	1.38 P	0.06
6	↓	5	17 安全・安心	1.27 P	1.55 P	△ 0.27
7	→	7	15 ごみ処理	1.13 P	1.13 P	0.01
8	↑	9	9 自然との共生	0.85 P	0.93 P	△ 0.08
9	↑	10	20 教育	0.49 P	0.65 P	△ 0.17
10	↓	8	12 伝統文化	0.37 P	0.96 P	△ 0.58
11	↑	12	13 公園・緑地	0.31 P	0.41 P	△ 0.09
12	↓	11	18 情報コミュニケーション	0.16 P	0.54 P	△ 0.38
13	↑	14	21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	0.14 P	0.07 P	0.07
14	↓	13	7 人権・平和	0.12 P	0.16 P	△ 0.04
15	↑	17	10 景観形成	-0.02 P	0.01 P	△ 0.02
16	→	16	19 子育て	-0.20 P	0.03 P	△ 0.23
17	↓	15	3 保健・医療	-0.34 P	0.04 P	△ 0.38
18	→	18	1 地域福祉	-0.34 P	-0.14 P	△ 0.20
19	↑	21	5 障害者福祉	-0.48 P	-0.64 P	0.16
20	→	20	4 高齢者福祉	-0.51 P	-0.40 P	△ 0.11
21	↓	19	22 男女共同参画	-0.65 P	-0.34 P	△ 0.31
22	↑	23	6 生活支援	-0.66 P	-0.71 P	0.05
23	↓	22	23 国際交流	-0.85 P	-0.68 P	△ 0.17
24	→	24	32 広域行政	-0.97 P	-0.81 P	△ 0.16
25	→	25	25 産業連携	-1.90 P	-1.54 P	△ 0.36
26	↑	27	30 市民交流	-2.44 P	-2.05 P	△ 0.39
27	↑	28	31 行政経営	-2.46 P	-2.10 P	△ 0.36
28	↓	26	29 住民自治	-2.47 P	-1.72 P	△ 0.75
29	↑	30	26 産業振興	-2.82 P	-2.51 P	△ 0.31
30	↑	31	28 移住・定住	-2.91 P	-2.83 P	△ 0.08
31	↓	29	24 都市基盤	-2.96 P	-2.41 P	△ 0.55
32	→	32	27 観光・交流	-3.02 P	-2.98 P	△ 0.05

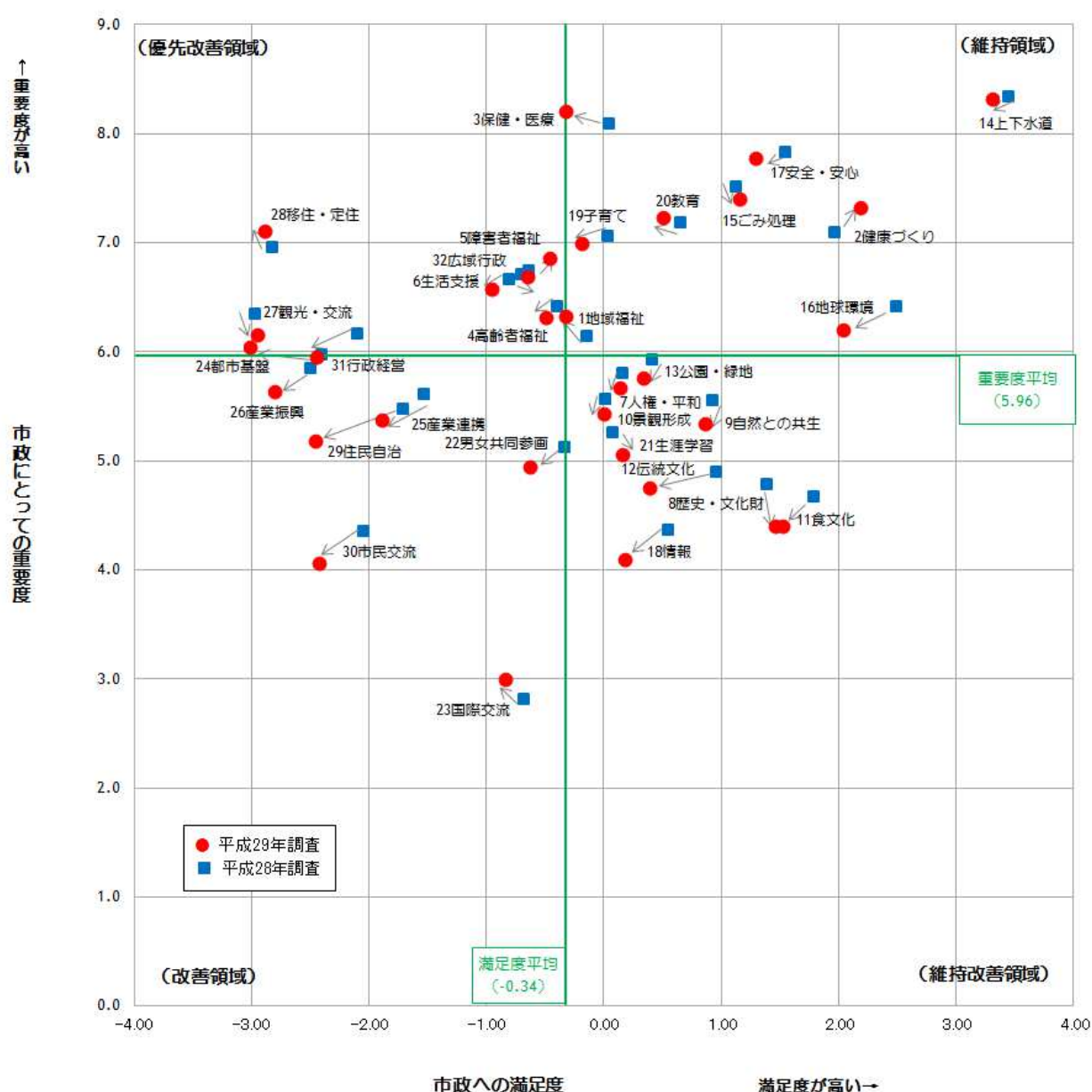
<重要度と満足度の相関>

32項目について、市政にとっての重要度の平均スコアと市政への満足度の平均スコアの相関を示した。

この図では、より左上にある項目ほど「満足度が低く、かつ重要度が高い」ことになり、今後の市政の重点課題と考えられる。

満足度が低く重要度が高い項目は「移住・定住」「障害者福祉」「生活支援」などがあげられる。

また、「満足度が高く、重要度も高い項目」は、「上下水道」「安全・安心」「ごみ処理」「健康づくり」「教育」などがあげられる。



(3) 市政への要望

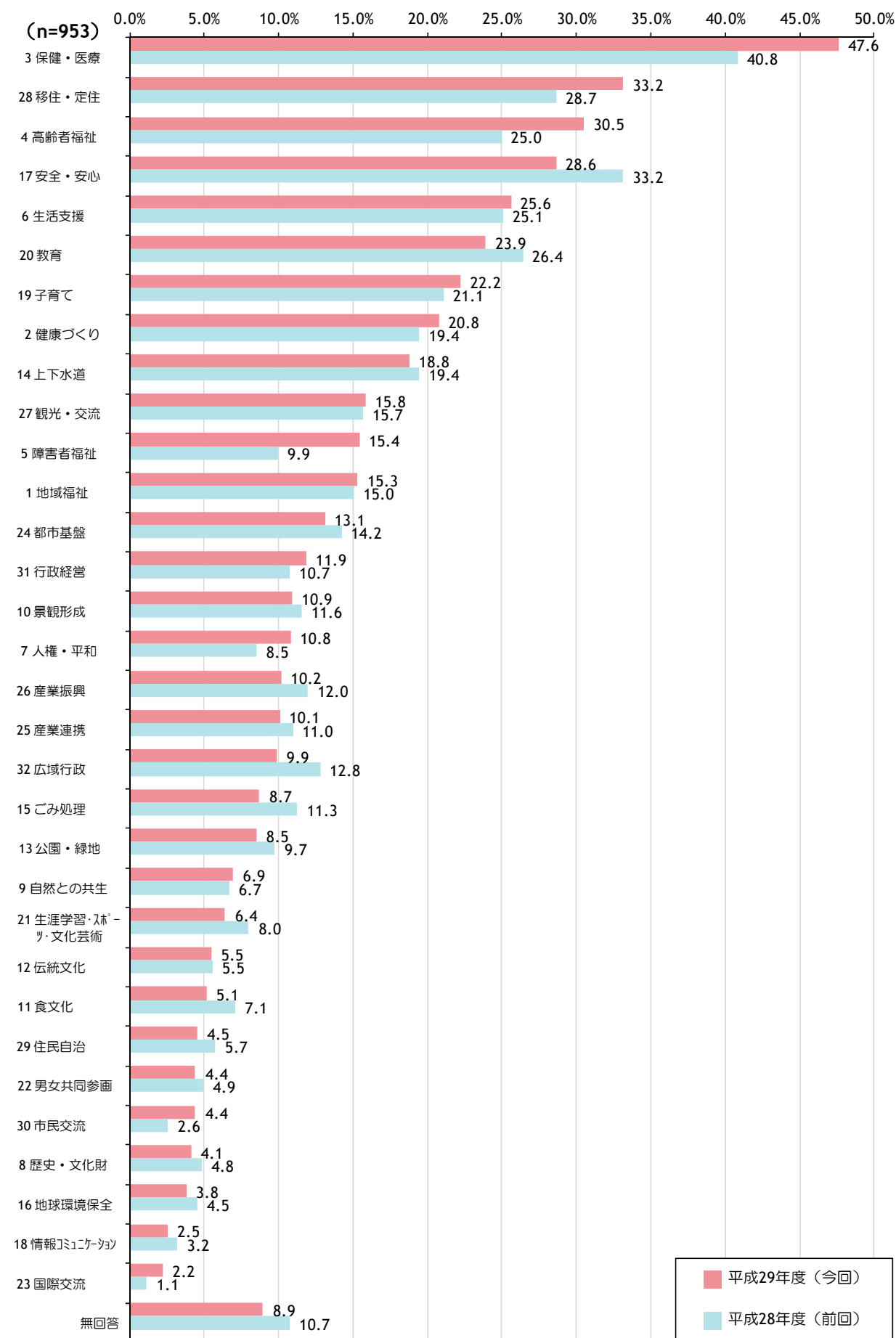
問 2-3 今後、千曲市がより暮らしやすい地域になるためには、問 2-2 に示した「総合計画に掲げた 32 の達成方針」のうち、どの項目が重要とお考えですか。1 から 32 までの項目の中から、特に重要と考える項目を 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

特に重要だと思う施策については、昨年度と同様に「保健・医療(47.6%)」が最も多かった。次いで「移住・定住 (33.2%)」「高齢者福祉(30.5%)」「安全・安心(28.6%)」「生活支援(25.6%)」「教育(23.9%)」の順になっている。

平成 28 年度調査との比較において、増加しているのは「保健・医療(+6.8%)」「高齢者福祉(+5.5%)」「障害者福祉(+5.5%)」「移住・定住(+4.5%)」などである。

一方、減少しているのは「安全・安心(-4.6%)」「広域行政(-2.9%)」「ごみ処理(-2.6%)」などである。

< 市政への要望 >



【性別・年齢別の市政への要望】

性別では、1位、2位が同じ項目(保健・医療、移住・定住)となっている。

年齢別では、「保健・医療」が18・19歳を除く全ての年齢層で1位となっている。また、すべての年齢層で「移住・定住」「安全・安心」が上位に入っており、また40歳以上の年齢層で「高齢者福祉」が上位に入っている。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位		
全 体 (n=953)	保健・医療 (47.6%)	移住・定住 (33.2%)	高齢者福祉 (30.5%)	安全・安心 (28.6%)	生活支援 (25.6%)		
男 性 (n=460)	保健・医療 (48.0%)	移住・定住 (34.1%)	安全・安心 (29.6%)	高齢者福祉 (29.3%)	生活支援 (28.7%)		
女 性 (n=487)	保健・医療 (47.8%)	移住・定住 (32.4%)	高齢者福祉 (31.8%)	安全・安心 (28.1%)	子育て (25.5%)	教育 (25.5%)	
18・19歳 (n=24)	安全・安心 (41.7%)	移住・定住 (37.5%)	景観形成 (29.2%)	健康づくり (25.0%)	保健・医療 (25.0%)	生活支援 (25.0%)	上下水道 (25.0%)
20 代 (n=59)	保健・医療 (42.4%)	子育て (30.5%)	移住・定住 (30.5%)	安全・安心 (25.4%)	観光・交流 (25.4%)		
30 代 (n=102)	保健・医療 (53.9%)	教育 (38.2%)	子育て (37.3%)	移住・定住 (35.3%)	安全・安心 (31.4%)		
40 代 (n=164)	保健・医療 (52.4%)	移住・定住 (42.7%)	教育 (36.0%)	安全・安心 (31.7%)	高齢者福祉 (29.9%)		
50 代 (n=133)	保健・医療 (57.9%)	移住・定住 (36.8%)	高齢者福祉 (36.1%)	安全・安心 (30.8%)	教育 (26.3%)		
60 代 (n=258)	保健・医療 (46.9%)	高齢者福祉 (35.3%)	生活支援 (30.2%)	移住・定住 (29.1%)	安全・安心 (26.4%)		
70歳以上 (n=209)	保健・医療 (40.2%)	高齢者福祉 (33.0%)	移住・定住 (28.2%)	生活支援 (27.3%)	安全・安心 (25.8%)		

(4) 市政に対する不満

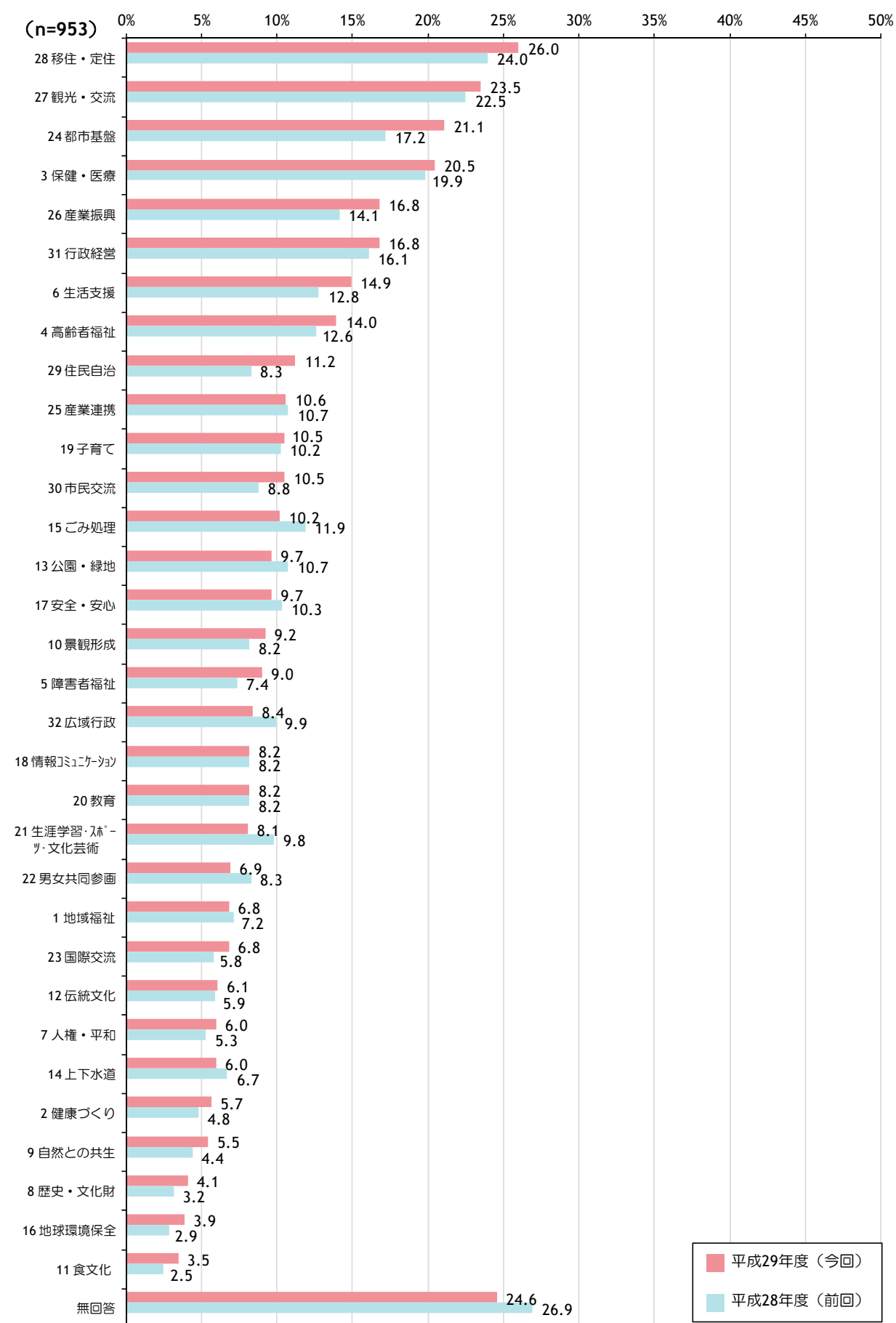
問 2-4 現状で、特に不満を感じている項目を問 2-3 同様 5 つ選び、下の枠の中に番号を記入してください。

特に不満を感じている施策については、「移住・定住(26.0%)」が最も多く、次いで「観光・交流(23.5%)」「都市基盤(21.1%)」「保健・医療(20.5%)」「産業振興(16.8%)」の順となっている。

平成 28 年度調査結果と比較すると、大幅に増加しているのは「都市基盤(+3.9%)」「住民自治(+2.9%)」「産業振興(+2.7%)」「生活支援(+2.1%)」「移住・定住(+2.0%)」などである。

一方、大幅に減少しているのは「生涯学習・スポーツ・文化芸術(-1.7%)」「ごみ処理(-1.7%)」「広域行政(-1.5%)」などである。

< 市政に対する不満 >



【性別・年齢別の市政への不満】

性別では、1 位から 4 位まで順位は異なっているが同じ項目（移住・定住、観光・交流、保健・医療、都市基盤）となっている。

年齢別では、「移住・定住」が全ての年齢層で 3 位以内となっており、「観光・交流」の項目については、18・19 歳以外の年齢層で 4 位以内となっている。その他、昨年度にはなかった項目もみられる。

	1 位	2 位	3 位	4 位	5 位		
全 体 (n=953)	移住・定住 (26.0%)	観光・交流 (23.5%)	都市基盤 (21.1%)	保健・医療 (20.5%)	産業振興 (16.8%)		
男 性 (n=460)	移住・定住 (27.2%)	観光・交流 (23.3%)	保健・医療 (19.8%)	都市基盤 (18.7%)	産業振興 (17.0%)		
女 性 (n=487)	移住・定住 (25.3%)	観光・交流 (24.0%)	都市基盤 (23.6%)	保健・医療 (21.4%)	行政経営 (17.2%)		
18・19 歳 (n=24)	移住・定住 (29.2%)	歴史・文化財 (16.7%)	景観形成 (16.7%)	子育て (16.7%)	教育 (16.7%)	生涯学習・スポーツ・文化芸術 (16.7%)	
20 代 (n=59)	観光・交流 (30.5%)	移住・定住 (25.4%)	都市基盤 (23.7%)	保健・医療 (16.9%)	ごみ処理 (16.9%)		
30 代 (n=102)	移住・定住 (30.4%)	保健・医療 (27.5%)	子育て (23.5%)	観光・交流 (20.6%)	都市基盤 (18.6%)		
40 代 (n=164)	移住・定住 (33.5%)	都市基盤 (29.9%)	産業振興 (24.4%)	観光・交流 (23.8%)	保健・医療 (23.2%)		
50 代 (n=133)	移住・定住 (35.3%)	保健・医療 (28.6%)	観光・交流 (27.8%)	都市基盤 (25.6%)	産業振興 (21.8%)		
60 代 (n=258)	観光・交流 (24.0%)	移住・定住 (23.6%)	行政経営 (20.2%)	保健・医療 (19.0%)	高齢者福祉 (17.4%)		
70 歳以上 (n=209)	観光・交流 (21.1%)	都市基盤 (18.2%)	移住・定住 (15.3%)	行政経営 (14.8%)	生活支援 (14.4%)		

(5)「協働のまちづくり」について

問 3-1 「協働」は必要であると思いますか。

「協働」については、「必要であると感じているが、何をしたらいいかわからない(65.0%)」という回答が最も多く、「必要であると感じ、行動している(7.6%)」と合わせると 7 割以上の人が「協働」が必要であると答えた。

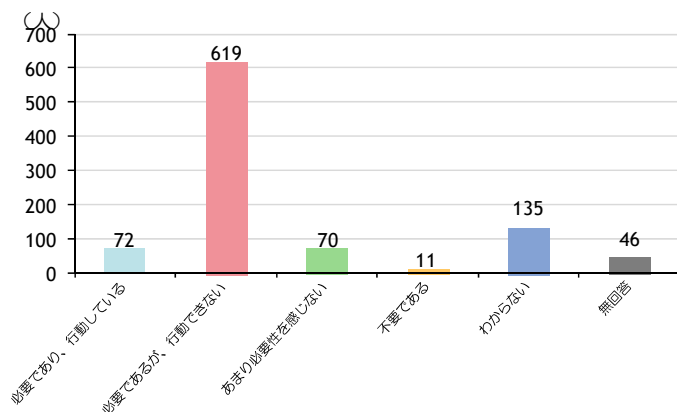


図 3-5-1 「協働」についての回答数

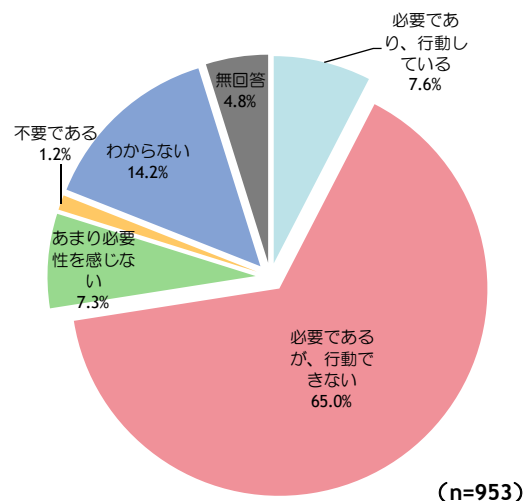


図 3-5-2 「協働」についての回答割合

グラフ内の項目について

必要であり、行動している	: 必要であると感じ、行動している
必要であるが、行動できない	: 必要であると感じているが、何をしたらいいかわからない
あまり必要性を感じない	: あまり必要性を感じない
不要である	: 不要である
わからない	: わからない

【参考】

※協働とは…

地域における目標の達成や課題の解決を図るため、市民と行政が対等な立場で一緒に考え、一緒に行動すること。

【性別の「協働」について】

男女での大きな割合の差はなかった。「必要である」と回答した人の割合は男女ともに8割を超えている。

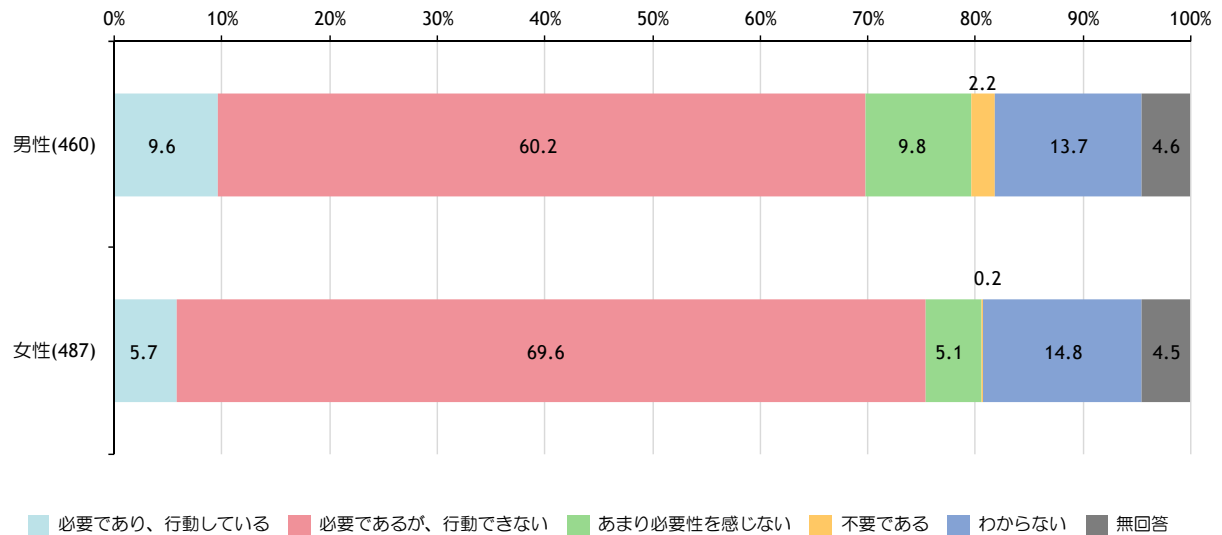


図 3-5-3 性別による「協働」についての回答割合

【年齢別の「協働」について】

「必要である」と回答した人の割合は18・19歳以外の年齢層で8割以上となった。

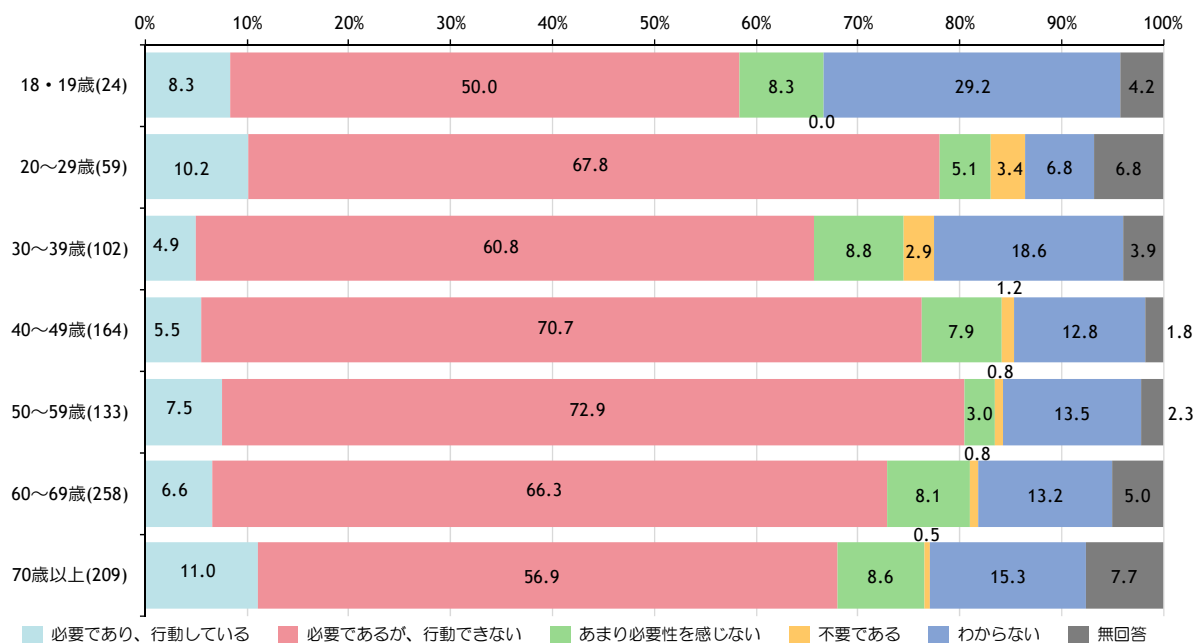


図 3-5-4 年齢別「協働」についての回答割合

問 3-2 市全体として「協働」が進んでいると思いますか。

「協働」が進んでいるかについて、「進んでいる(とても進んでいる、少しずつ進んでいる)」と回答した人は 15.6%、「進んでいない(あまり進んでいない、全く進んでいない)」と回答した人は 38.9%となり、「進んでいない」と感じている割合が多い結果となった。

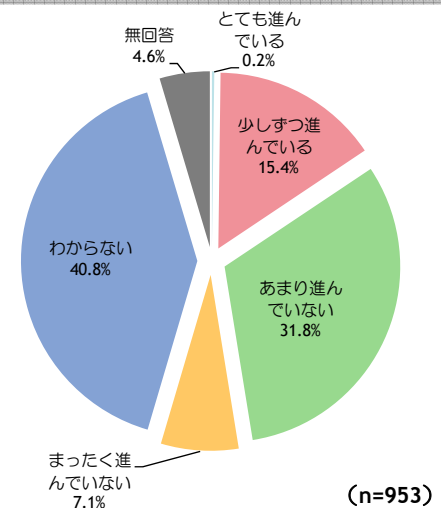
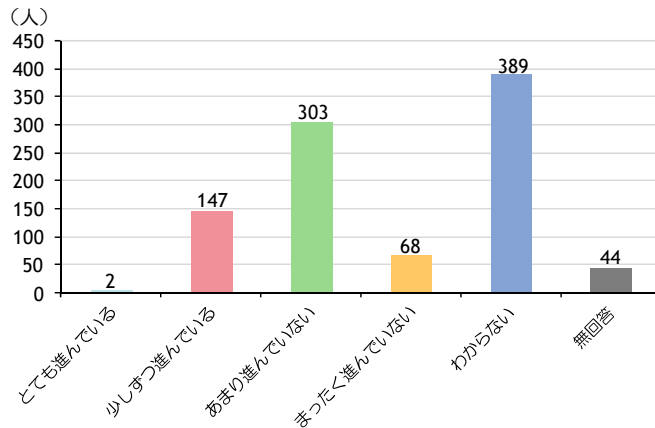


図 3-5-5 「協働」についての進捗回答数

図 3-5-6 「協働」についての進捗回答割合

【性別の「協働」が進んでいるかについて】

男性、女性とも「進んでいる」の割合が 2 割以下となった。

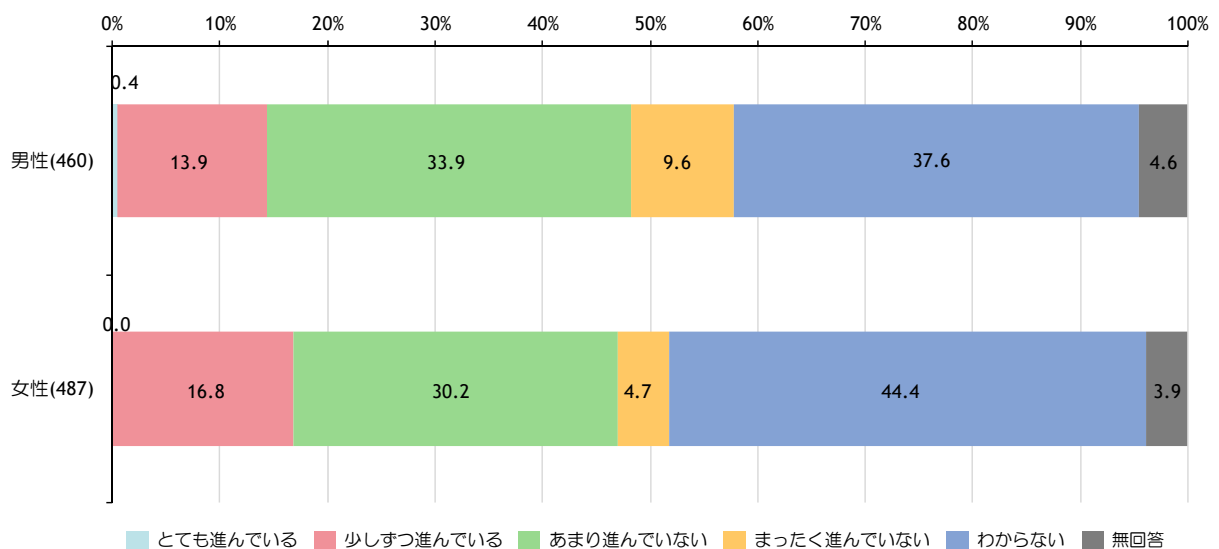


図 3-5-7 性別による「協働」についての進捗回答割合

【年齢別の「協働」が進んでいるかについて】

「とても進んでいる」の割合がすべての年齢層で1割以下になっている。20歳～29歳および30歳～39歳では「少しずつ進んでいる」の割合がほかの年齢層に比べて少なくなっている。50～59歳以外の年齢層では「わからない」の割合が最も多く、「あまり進んでいない」が2番目に多い結果となった。50～59歳では「あまり進んでいない」が最も多くなっている。

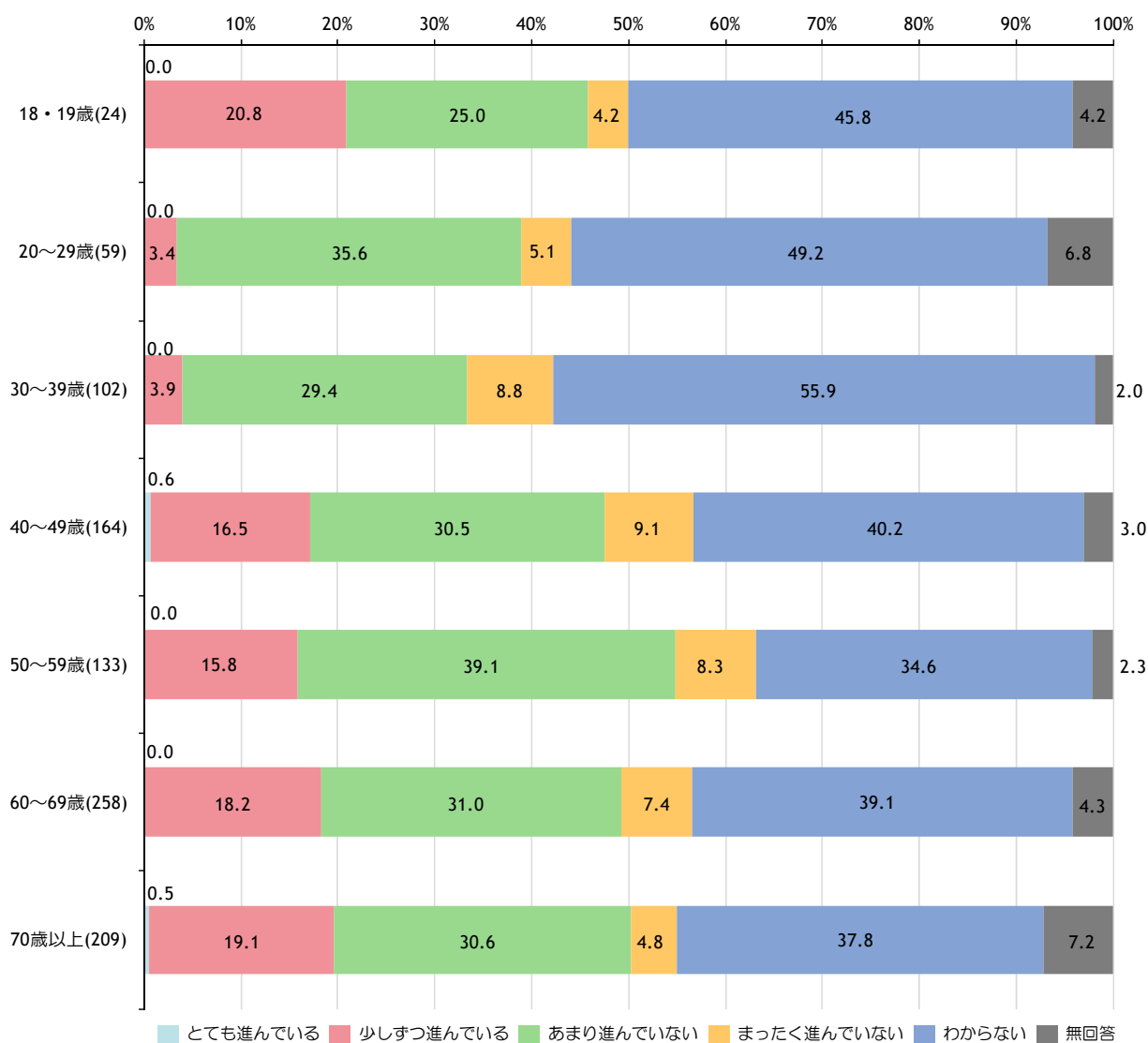


図 3-5-8 年齢別による「協働」についての進捗回答割合

問 3-3 「協働のまちづくり」の実現に向け、千曲市が取り組むべきことはどのようなことだと思いますか。(複数回答可)

「協働のまちづくり」について、「市職員の意識改革(24.0%)」「意見交換の場の設定(24.0%)」が最も多く、次いで「市民の協働意識の醸成(19.1%)」「行政情報の積極的なPR(17.1%)」「市民活動団体への支援(9.1%)」となった。

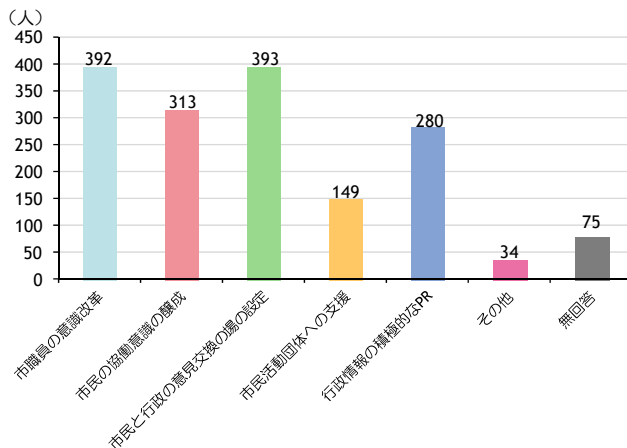


図 3-5-9 「協働のまちづくり」の実現について取り組むべきことについての回答数

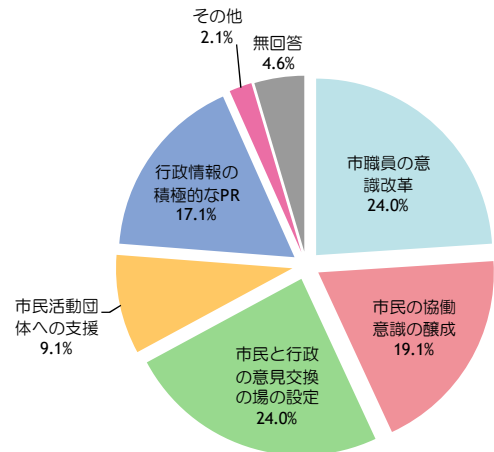


図 3-5-10 「協働のまちづくり」の実現について取り組むべきことについての回答割合

【年齢別の「協働のまちづくり」について】

どの年代も多少ばらつきはあるものの、各項目の回答割合に大きな差はみられなかった。

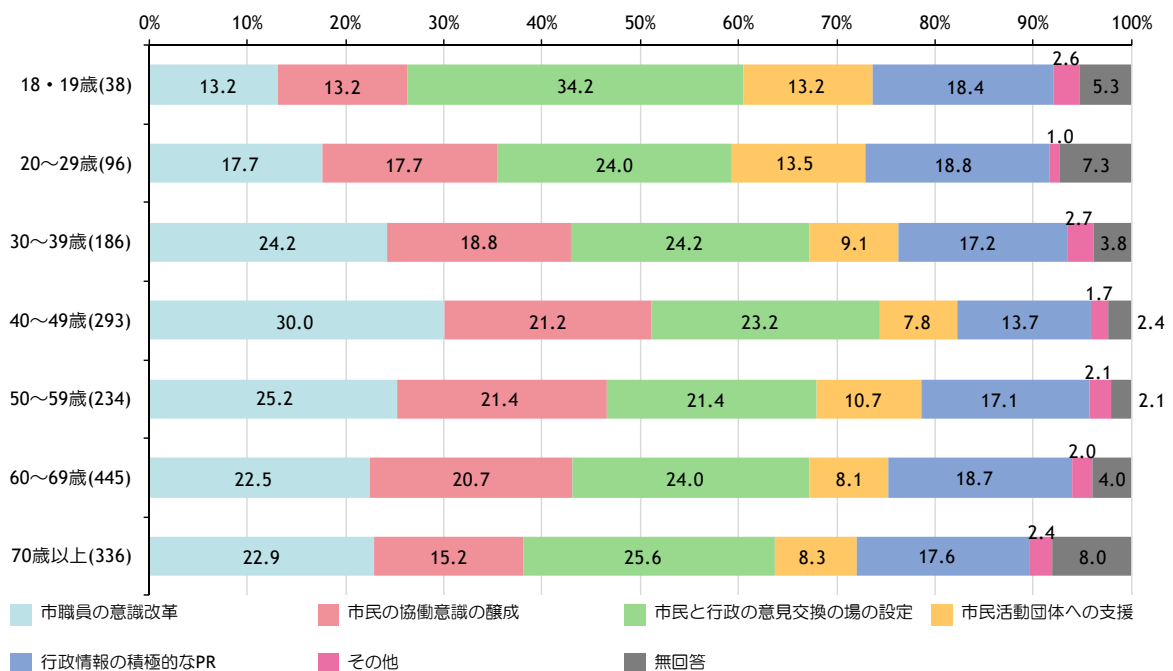


図 3-5-12 年齢別による「協働のまちづくり」の実現について取り組むべきことについての回答割合

(6)「議会本会議」について

問 4-1 議会本会議の様子や審議結果などをご覧になっていますか。

議会本会議の様子や審議結果などについては、「まったく見ない (34.2%)」「あまり見ない (33.2%)」「時々見ている (24.4%)」「よく見ている (4.7%)」の順となったが、上位 2 項目は約 3 割とほぼ同じ割合となった。

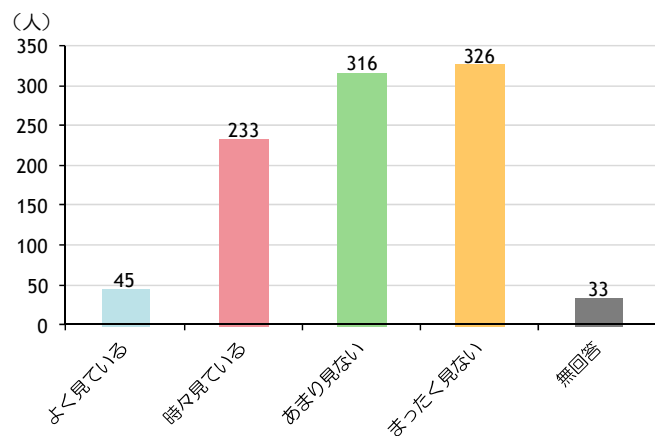


図 3-6-1 「議会本会議」についての回答数

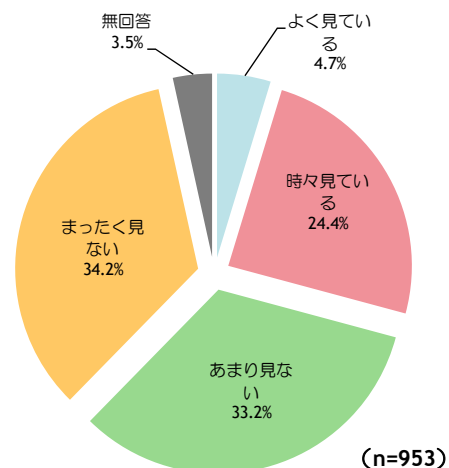


図 3-6-2 「議会本会議」についての回答割合

【年齢別の「議会本会議」について】

「よく見ている」「時々見ている」の“見ている”が 70 歳以上では 4 割を超え、50・60 代では 3 割を超えている。低い年代は“見ている”割合が低くなっている。

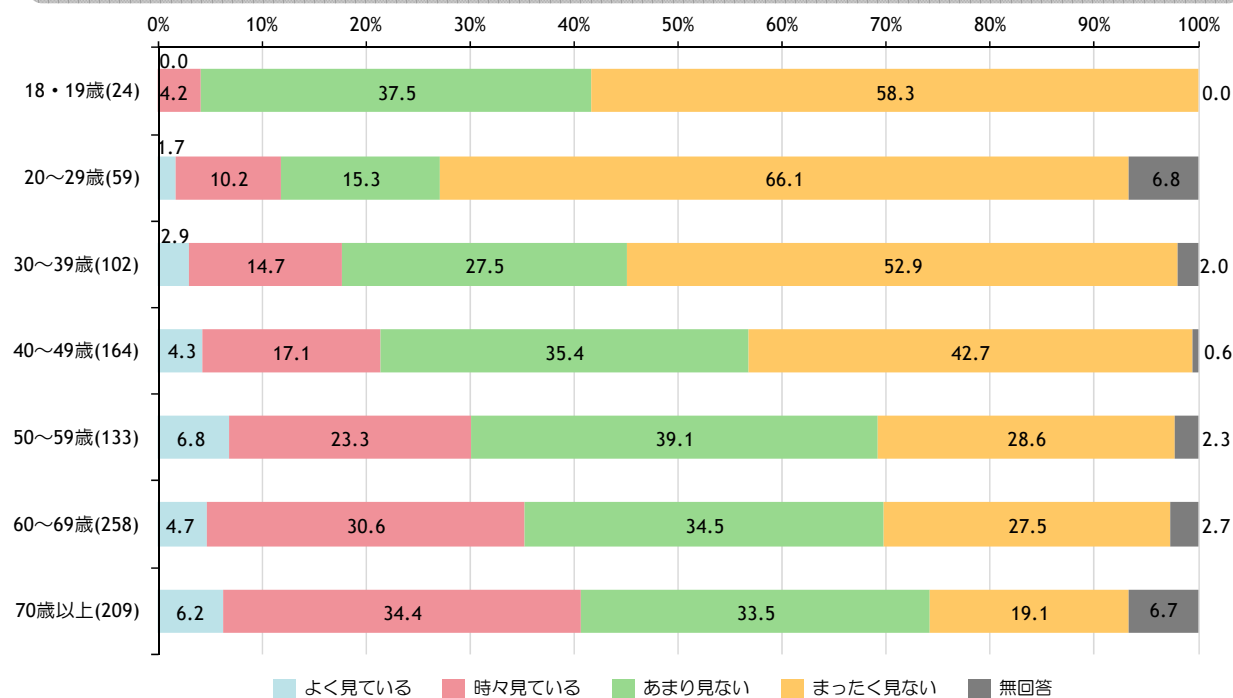


図 3-6-3 年齢別「議会本会議」についての回答割合

<問 4-1 で「よく見ている」「時々見ている」「あまり見ない」とお答えいただいた方>

問 4-2 どのような方法でご覧になっていますか。(複数回答可)

議会本会議の様子や審議結果の情報を得るための方法として、「議会報『市議会だより』を読む(74.3%)」「ケーブルテレビで議会中継を観る(17.7%)」の2つの方法が、回答者の9割を占める結果となった。

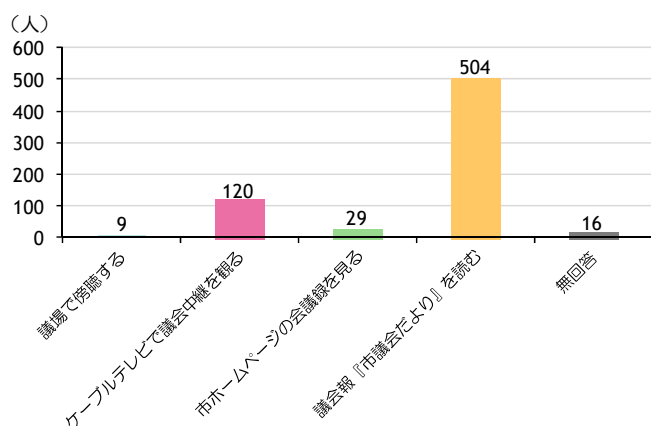


図 3-6-4 「議会本会議」の情報入手方法の回答数

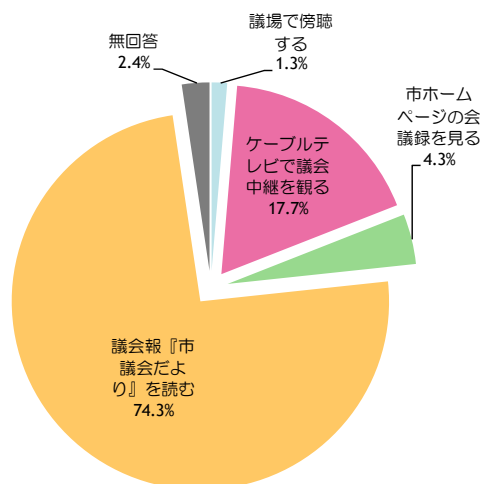


図 3-6-5 「議会本会議」の情報入手方法の回答割合

【年齢別の「議会本会議」の情報入手方法について】

どの年代の回答者も7割以上の人々が「議会報『市議会だより』を読む」「ケーブルテレビで議会中継を観る」で情報を得ている結果となった。

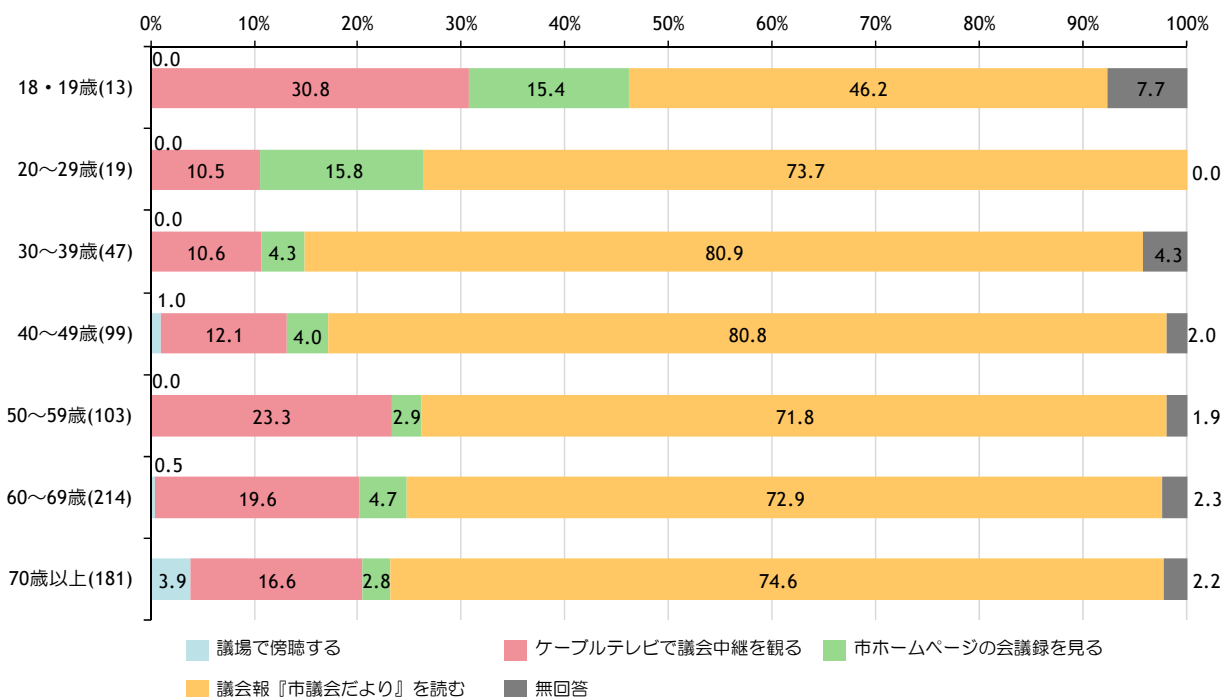


図 3-6-6 年齢別「議会本会議」の情報入手方法の回答割合

(7) 市職員の応対について

問 5-1 市職員の応対に好感が持てますか。

市職員の応対については、「どちらともいえない(49.8%)」「持てる(30.7%)」「持てない(15.4%)」となった。

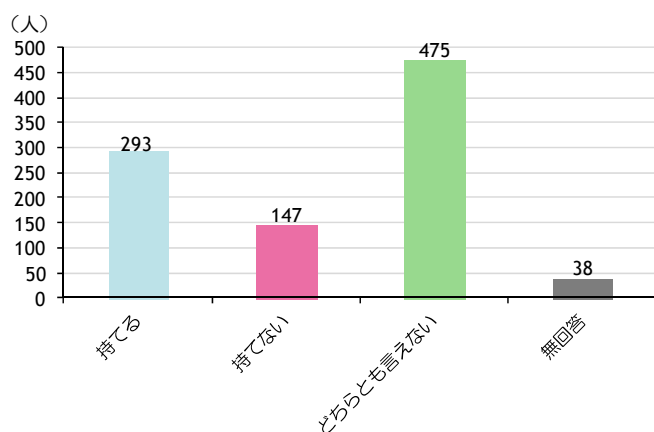


図 3-7-1 市職員応対の回答数

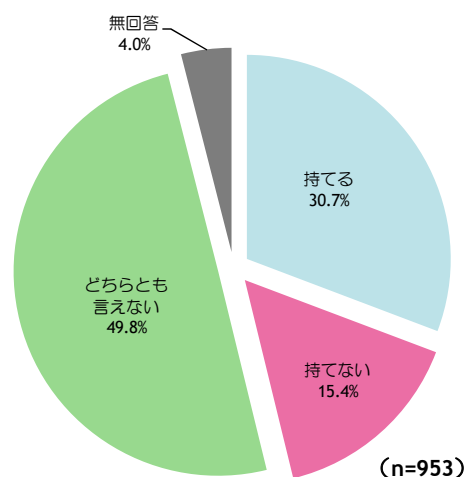


図 3-7-2 市職員応対の回答割合

【性別の市職員応対について】

「持てる」と回答した男性は 34.1%、女性は 27.7% となり、「持てない」と回答した男性は 15.7%、女性は 15.2% となった。

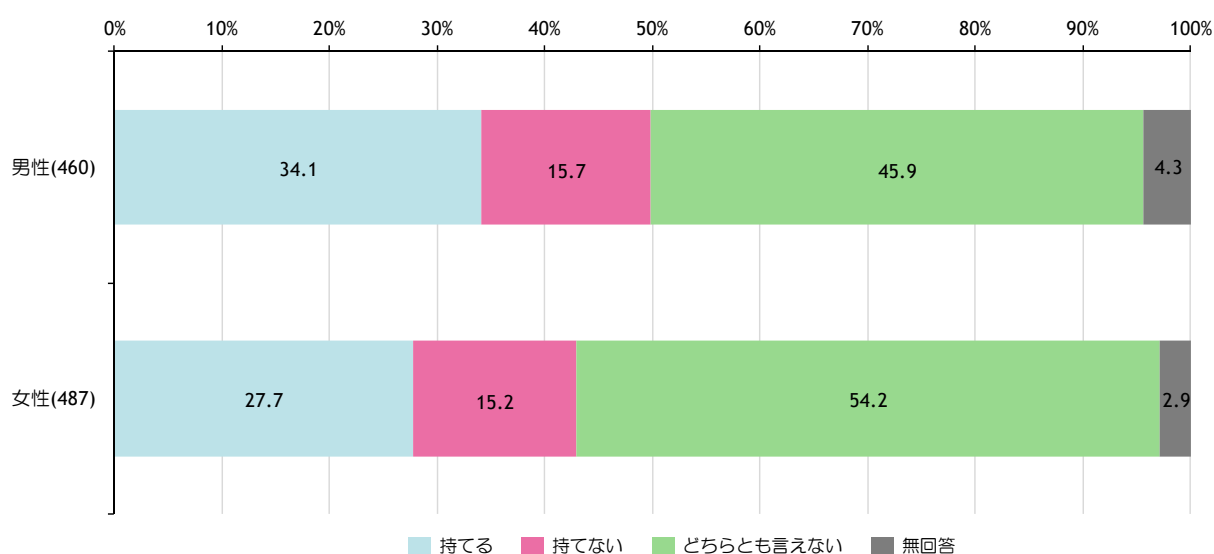


図 3-7-3 性別による市職員応対の回答割合

【年齢別の市職員応対について】

好感が「持てる」「持てない」で比較すると、多くの年齢層では「持てる」の割合が高くなっている。

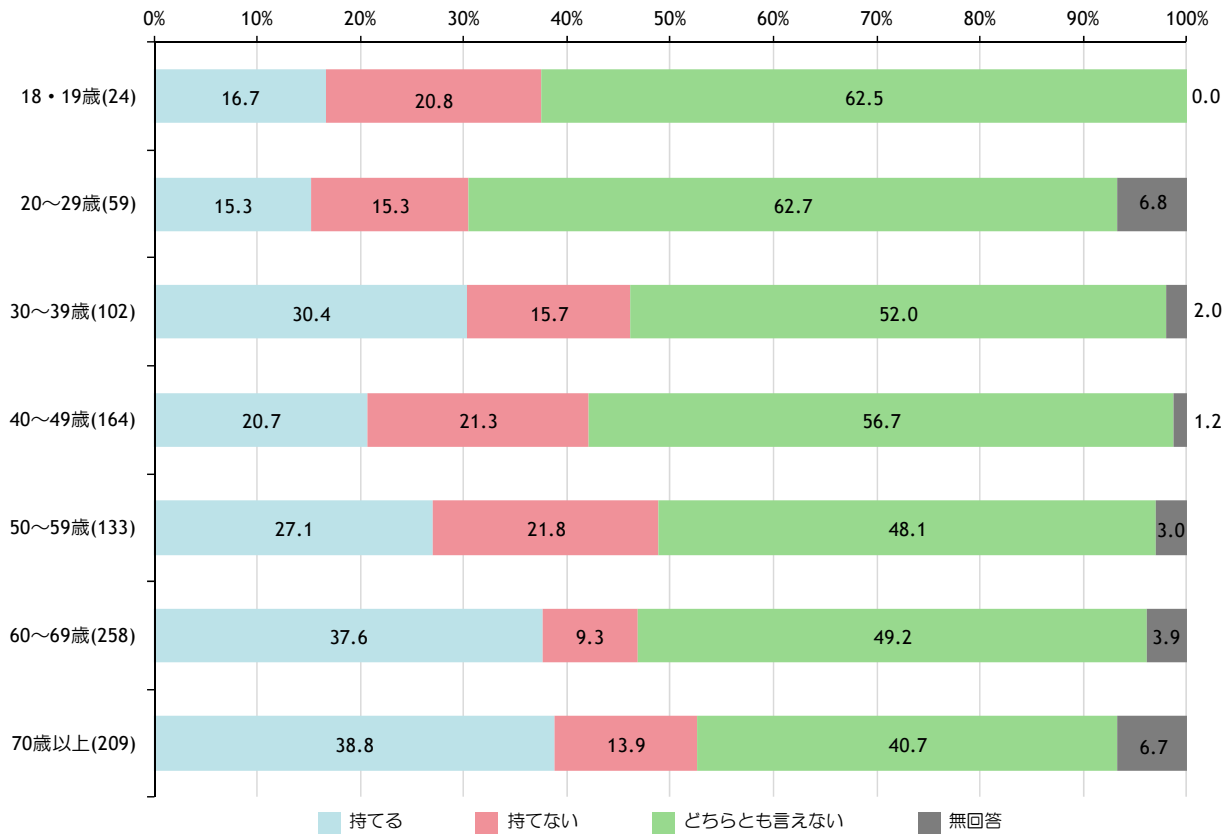


図 3-7-4 年齢別市職員応対の回答割合

<問 5-1 で「持てない」とお答えいただいた方>

問 5-2 どのような点に、好感がもてませんか。(複数回答可)

好感が持てない理由については、「説明が不十分 (33.3%)」が最も多かった。次いで、「言葉づかいや態度 (32.6%)」「たらい回しにされた (18.8%)」「その他 (13.8%)」の順となっている。

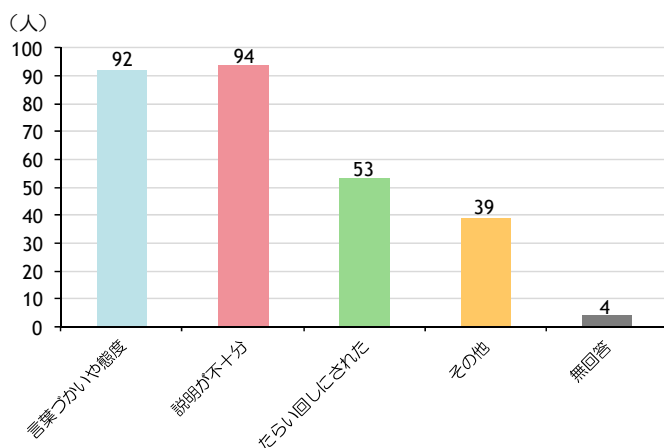


図 3-7-5 好感の持てないことの回答数

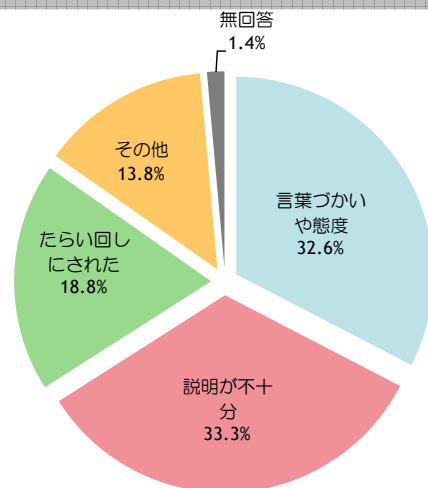


図 3-7-6 好感の持てないことの回答割合

【年齢別の好感の持てないことについて】

「言葉づかいや態度」「説明が不十分」の2つを合わせた割合が、すべての年齢層で5割以上となっている。

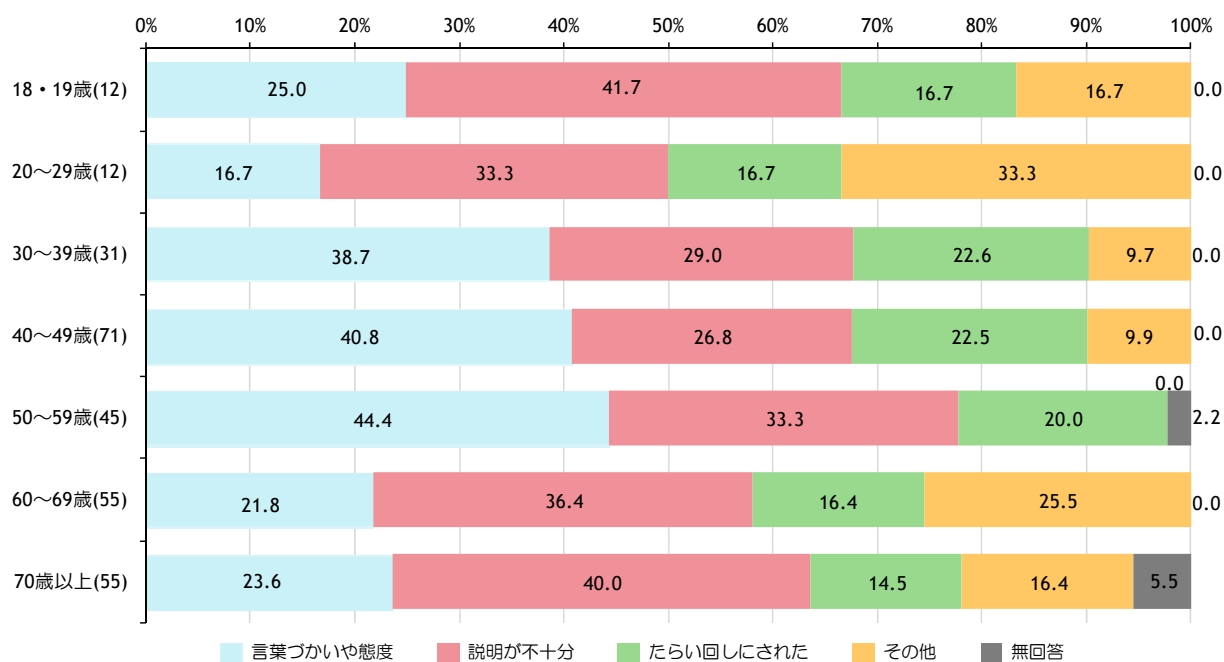


図 3-7-7 年齢別好感の持てないことの回答割合

(8) 土地利用について

問 6-1 お住まいの地域の土地利用の現状について、どのように感じていますか。

土地利用について、最も多かったのは「住宅を中心とした住宅地(32.9%)」、次いで「農地と集落地が一体となった田園地域(28.0%)」「森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域(11.5%)」「店舗やサービス施設が集積している商業地(6.9%)」となっている。

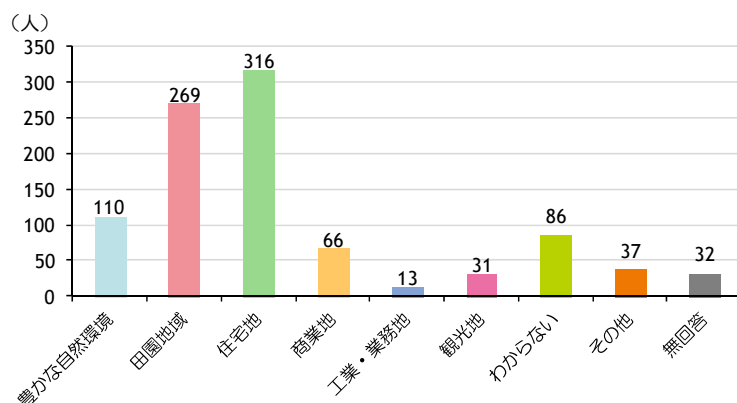


図 3-8-1 土地利用の現状についての回答数

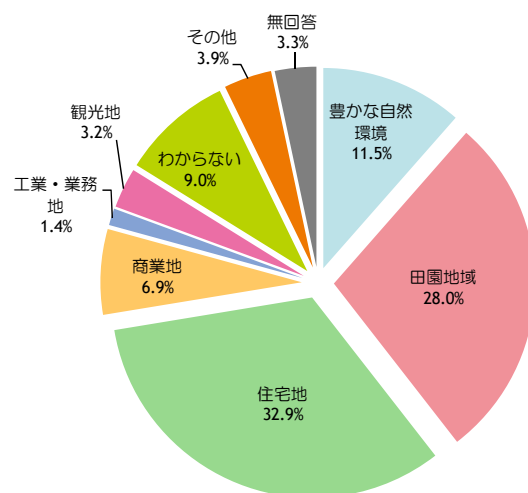


図 3-8-2 土地利用の現状についての回答割合

【年齢別の土地利用の現状について】

60～69 歳を除くすべての年齢層で「住宅を中心とした住宅地」の割合が最も高くなっている。60～69 歳では「農地と集落地が一体となった田園地域(32.6%)」の割合が最も多かった。また、18・19 歳では「店舗やサービス施設が集積している商業地」がほかの年齢層に比べて割合が高くなっている。

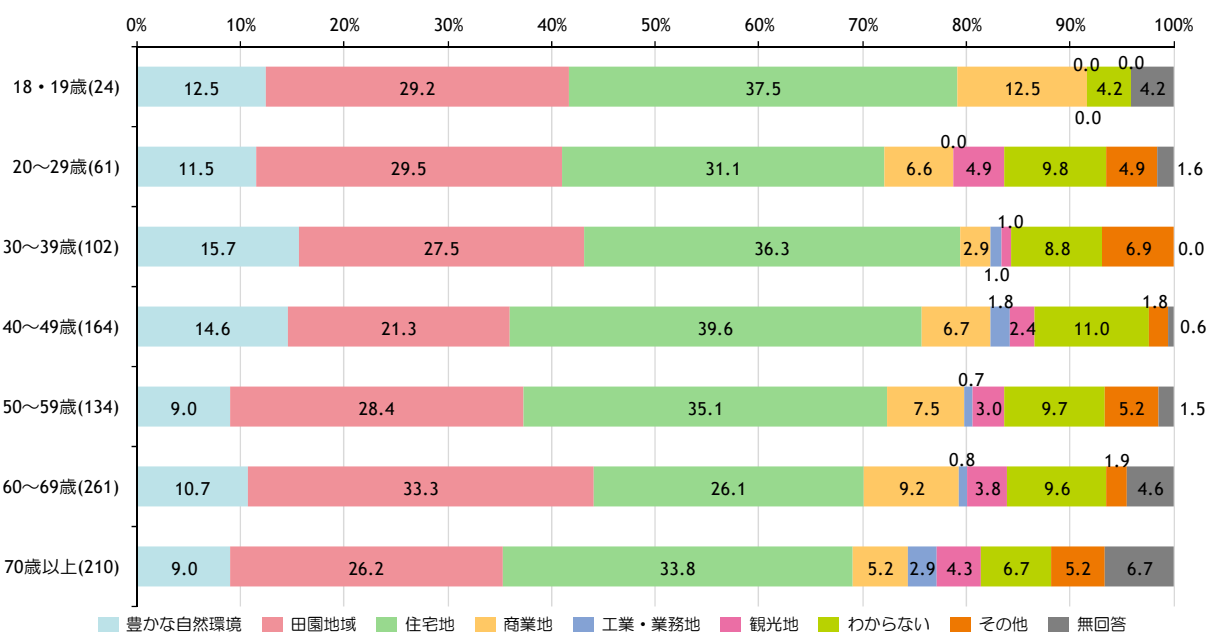


図 3-8-3 年齢別土地利用の現状についての回答割合

【地区別の土地利用の現状について】

屋代小学校区・埴生小学校区・戸倉小学校区では「住宅を中心とした住宅地」、東小学校区・更級小学校区・上山田小学校区では「農地と集落地が一体となった田園地域」の割合が高くなっている。その他の地区では「住宅を中心とした住宅地」が最も高い結果となった。

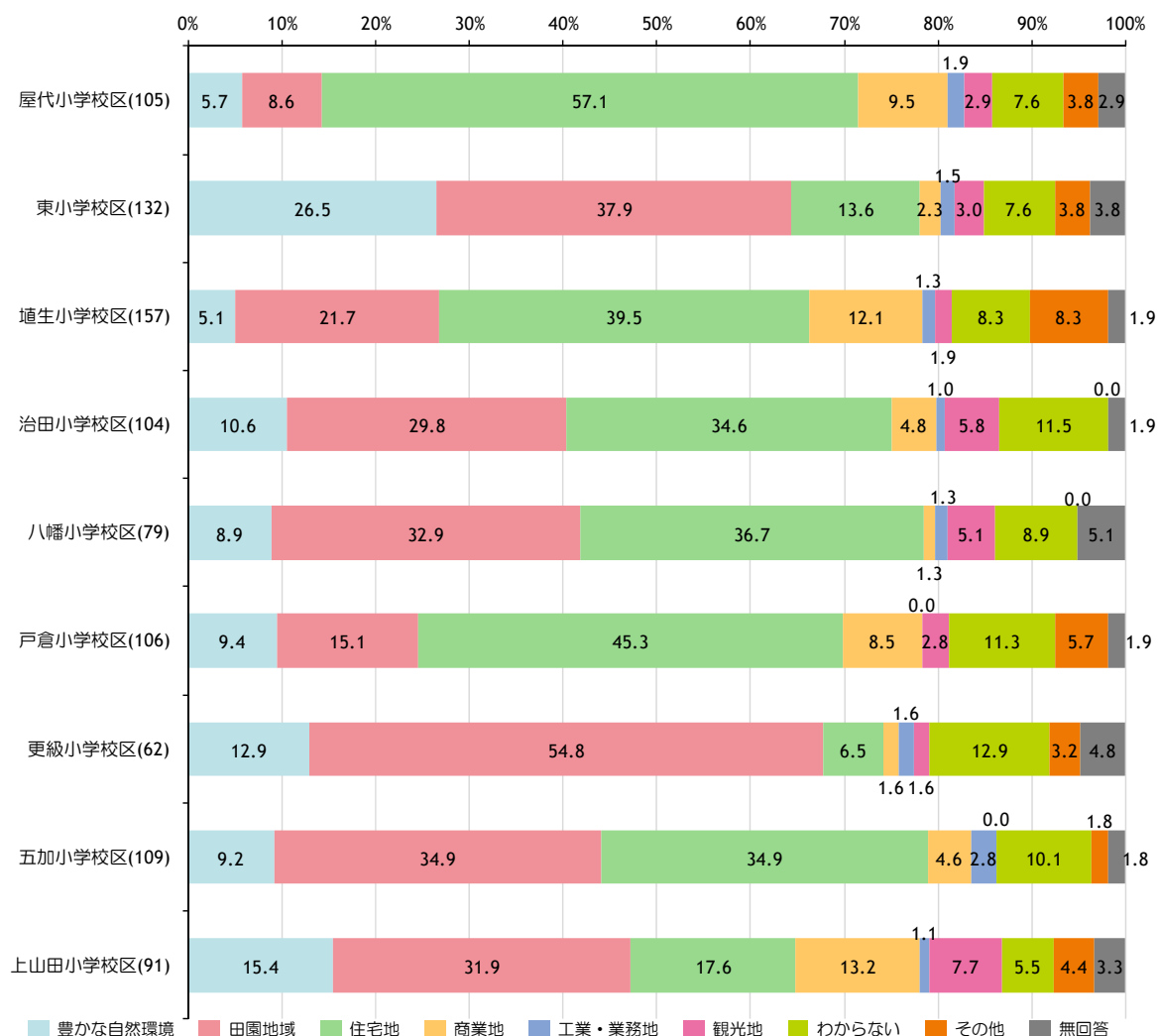


図 3-8-4 地区別土地利用の現状についての回答割合

グラフ内の項目について

- 豊かな自然環境 : 森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域
- 田園地域 : 農地と集落地が一体となった田園地域
- 住宅地 : 住宅を中心とした住宅地域
- 商業地 : 店舗やサービス施設が集積している商業地
- 工業・業務地 : 工場や事務所が多く立地している工業・業務地
- 観光地 : 歴史遺産や観光資源が多い観光地
- わからない : わからない
- その他 : その他

問 6-2 お住まいの地域の土地利用の問題点・課題点について、どのように感じていますか。

土地利用の問題点・課題点について、最も多かったのは「日常生活のための小売店舗や飲食店などのサービス施設が不足している（19.9%）」、次いで「農業が衰退し、耕作放棄地などが目立つ（18.4%）」「適切な管理がされていない空き家が増えている（16.6%）」となっている。

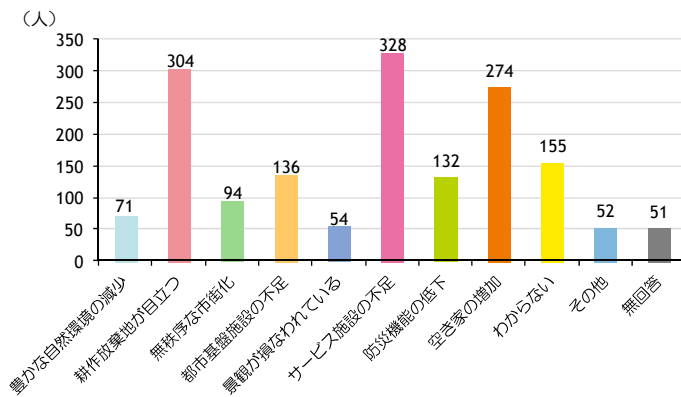


図 3-8-5 土地利用の問題点・課題点の回答数

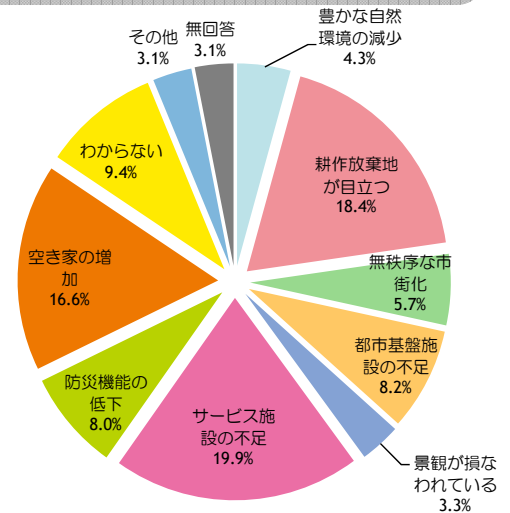


図 3-8-6 土地利用の問題点・課題点の回答割合

【年齢別の土地利用の問題点・課題点について】

「豊かな自然環境が損なわれている」「農業が衰退し、耕作放棄地などが目立つ」の項目は年齢層が高いほど割合も高い傾向にある。一方で「道路・公園・下水道などの都市基盤施設が整備されていない」「老朽化した建物、木造住宅などが密集し、地震・火災に対する防災機能が低下している」の項目は年齢層が低いほど割合が高い傾向にある。「日常生活のための小売店舗や飲食店などのサービス施設が不足している」はすべての年齢層で高い割合にある。

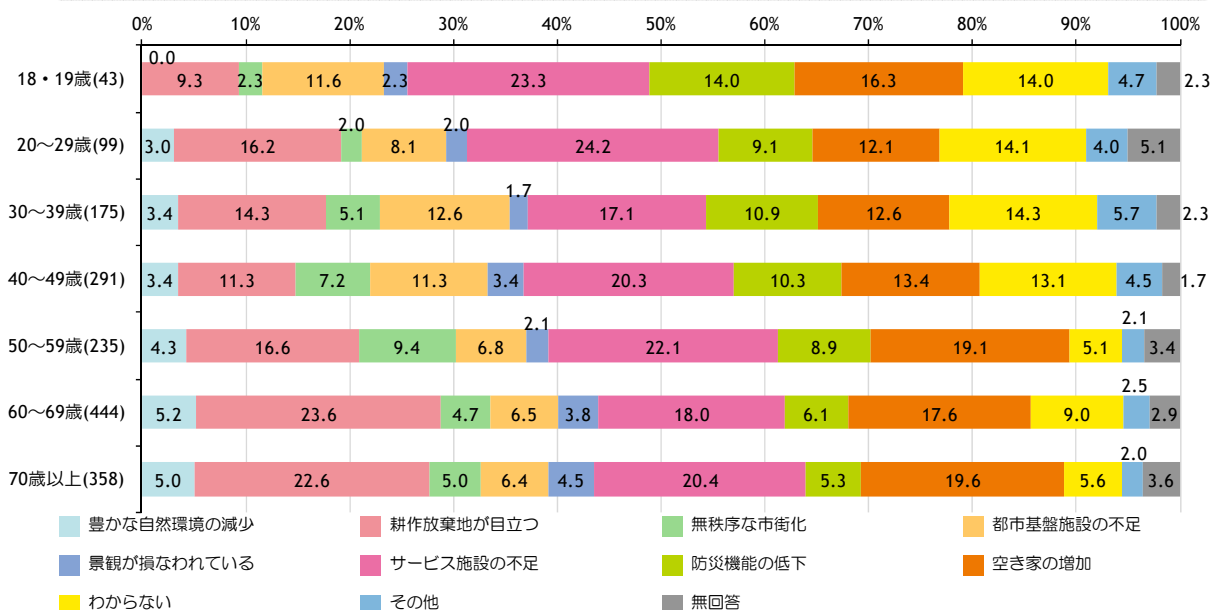


図 3-8-7 年齢別 土地利用の問題点・課題点の回答割合

【地区別の土地利用の問題点・課題点について】

どの地区でも「農業が衰退し、耕作放棄地などが目立つ」「日常生活のための小売店舗や飲食店などのサービス施設が不足している」「適切な管理がされていない空き家が増えている」の割合が高い傾向にある。特に東小学校区の「日常生活のための小売店舗や飲食店などのサービス施設が不足している」、更級小学校区の「農業が衰退し、耕作放棄地などが目立つ」、上山田小学校区の「適切な管理がされていない空き家が増えている」がほかの地区より目立って高くなっている。



図 3-8-8 地区別 土地利用の問題点・課題点の回答割合

グラフ内の項目について

- 豊かな自然環境の減少 : 豊かな自然環境が損なわれている
- 耕作放棄地が目立つ : 農業が衰退し、耕作放棄地などが目立つ
- 無秩序な市街化 : 宅地開発や商業開発などの無秩序な市街化が進行している
- 都市基盤施設の不足 : 道路・公園・下水道などの都市基盤施設が整備されていない
- 景観が損なわれている : まちなみの景観が損なわれている
- サービス施設の不足 : 日常生活のための小売店舗や飲食店などのサービス施設が不足している
- 防災機能の低下 : 老朽化した建物、木造住宅などが密集し、地震・火災に対する防災機能が低下している
- 空き家の増加 : 適切な管理がされていない空き家が増えている
- わからない : わからない
- その他 : その他

問 6-3 千曲市全般にわたる土地利用の将来像として、どのような土地利用をお望みですか。

土地利用の将来像について、最も多かったのは「森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域(24.2%)」、次いで「店舗やサービス施設が集積している商業地(22.0%)」「農地と集落地が一体となった田園地域(15.1%)」の順となっている。

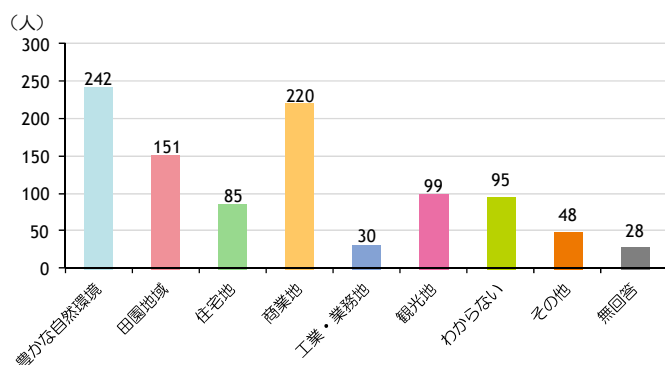


図 3-8-9 土地利用の将来像についての回答数

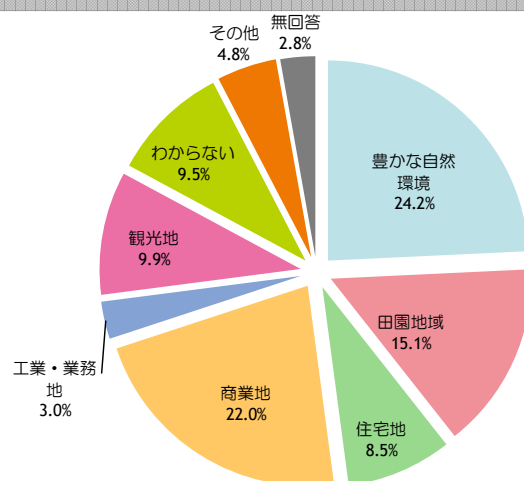


図 3-8-10 土地利用の将来像についての回答割合

【年齢別の土地利用の将来像について】

年齢層によって割合にばらつきがあるが、「森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域」の項目についてはすべての年齢層で2割以上の回答となっている。「店舗やサービス施設が集積している商業地」は年齢が低いほど割合が高い傾向がある。

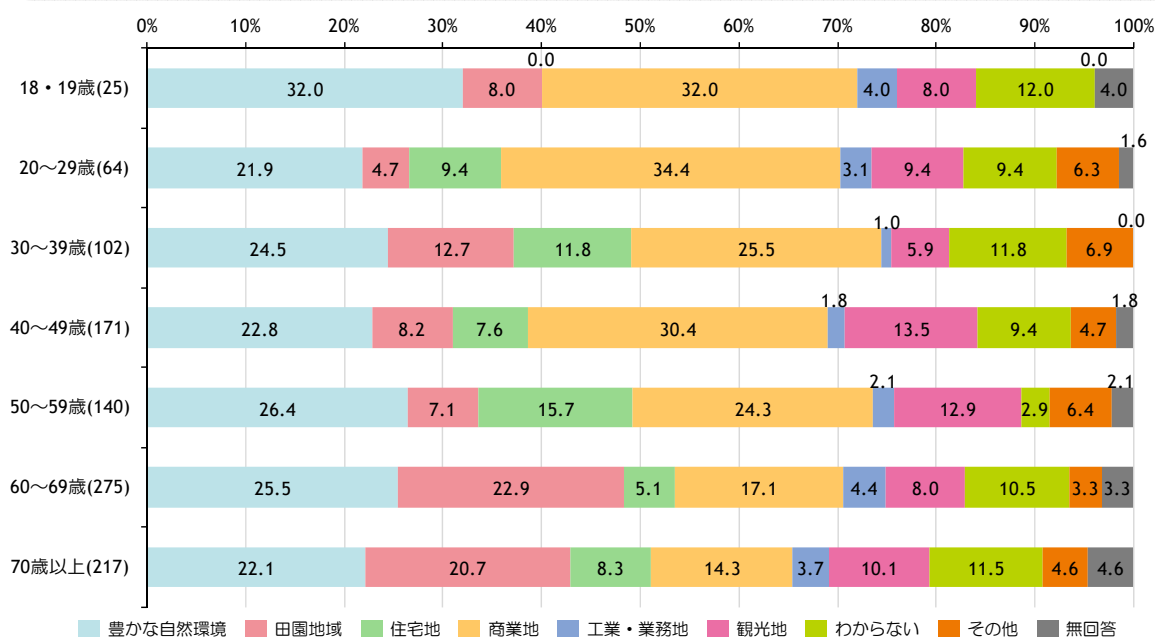


図 3-8-11 年齢別 土地利用の将来像についての回答割合

【地区別の土地利用の将来像について】

すべての地区で「森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域」または「店舗やサービス施設が集積している商業地」の項目の割合が高い傾向にある。また、更級小学校区と五加小学校区では「農地と集落地が一体となった田園地域」が、上山田小学校区では「歴史遺産や観光資源が多い観光地」の割合が高くなっている。

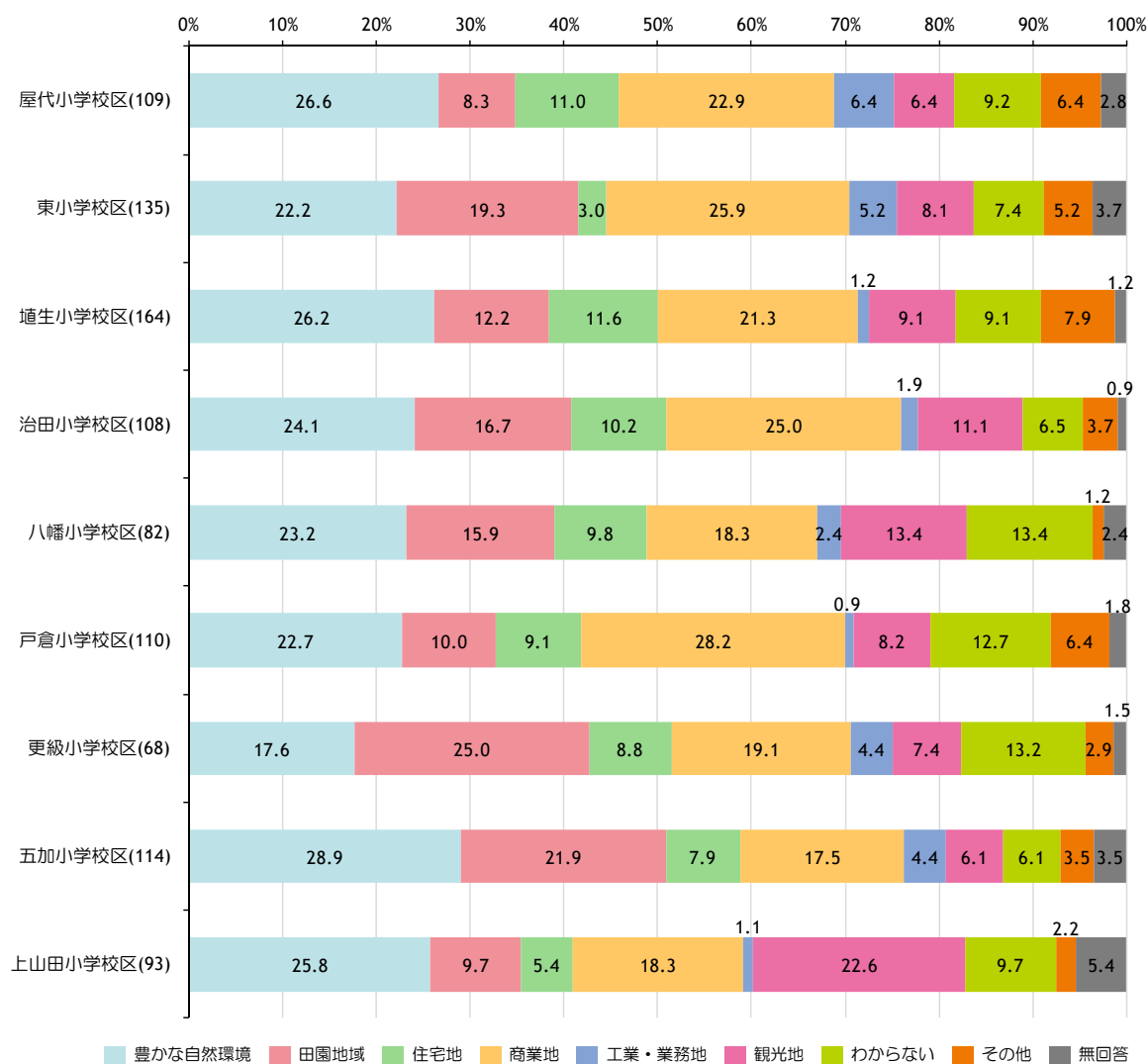


図 3-8-12 地区別 土地利用の将来像についての回答割合

グラフ内の項目について

- 豊かな自然環境 : 森林や河川など豊かな自然環境に囲まれた地域
- 田園地域 : 農地と集落地が一体となった田園地域
- 住宅地 : 住宅を中心とした住宅地域
- 商業地 : 店舗やサービス施設が集積している商業地
- 工業・業務地 : 工場や事務所が多く立地している工業・業務地
- 観光地 : 歴史遺産や観光資源が多い観光地
- わからない : わからない
- その他 : その他

問 6-4 これからの森林のあり方について、どのようにしたらよいとお考えですか。

これからの森林のあり方について、最も多かったのは「森林の持つ機能を生かして、自然資源として活用する(29.8%)」、次いで「現状のまま、森林保全を行う(22.3%)」「観光施設やレクリエーション施設の開発を誘導する(14.8%)」の順となっている。

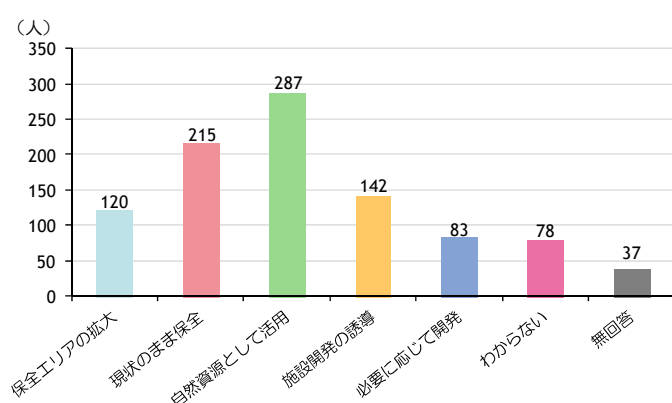


図 3-8-13 森林のあり方についての回答数

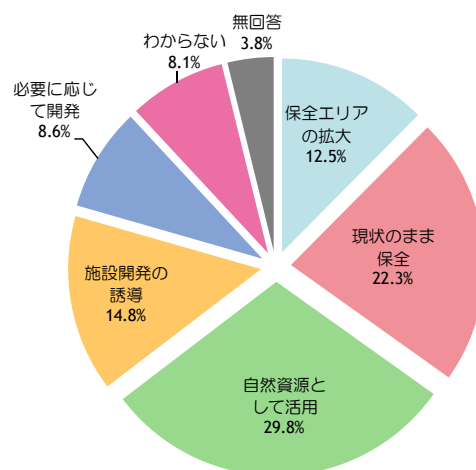


図 3-8-14 森林のあり方についての回答割合

【年齢別の森林のあり方について】

年齢層でばらつきはあるものの「森林の持つ機能を生かして、自然資源として活用する」「現状のまま、森林保全を行う」が多くの割合を占めている。

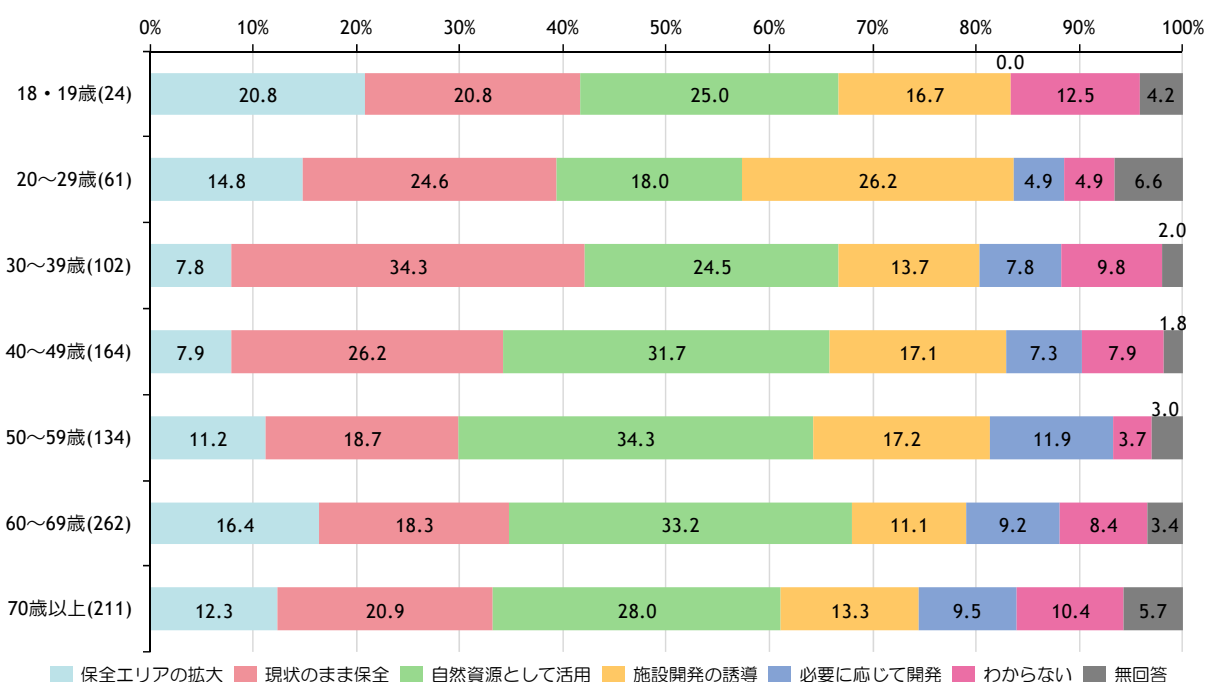


図 3-8-15 年齢別 森林のあり方についての回答割合

【地区別の森林のあり方について】

「森林の持つ機能を生かして、自然資源として活用する」は屋代小学校区を除くすべての地区で最も高い割合となっている。また、屋代小学校区では「現状のまま、森林保全を行う」の割合が最も高く、3割以上になっている。

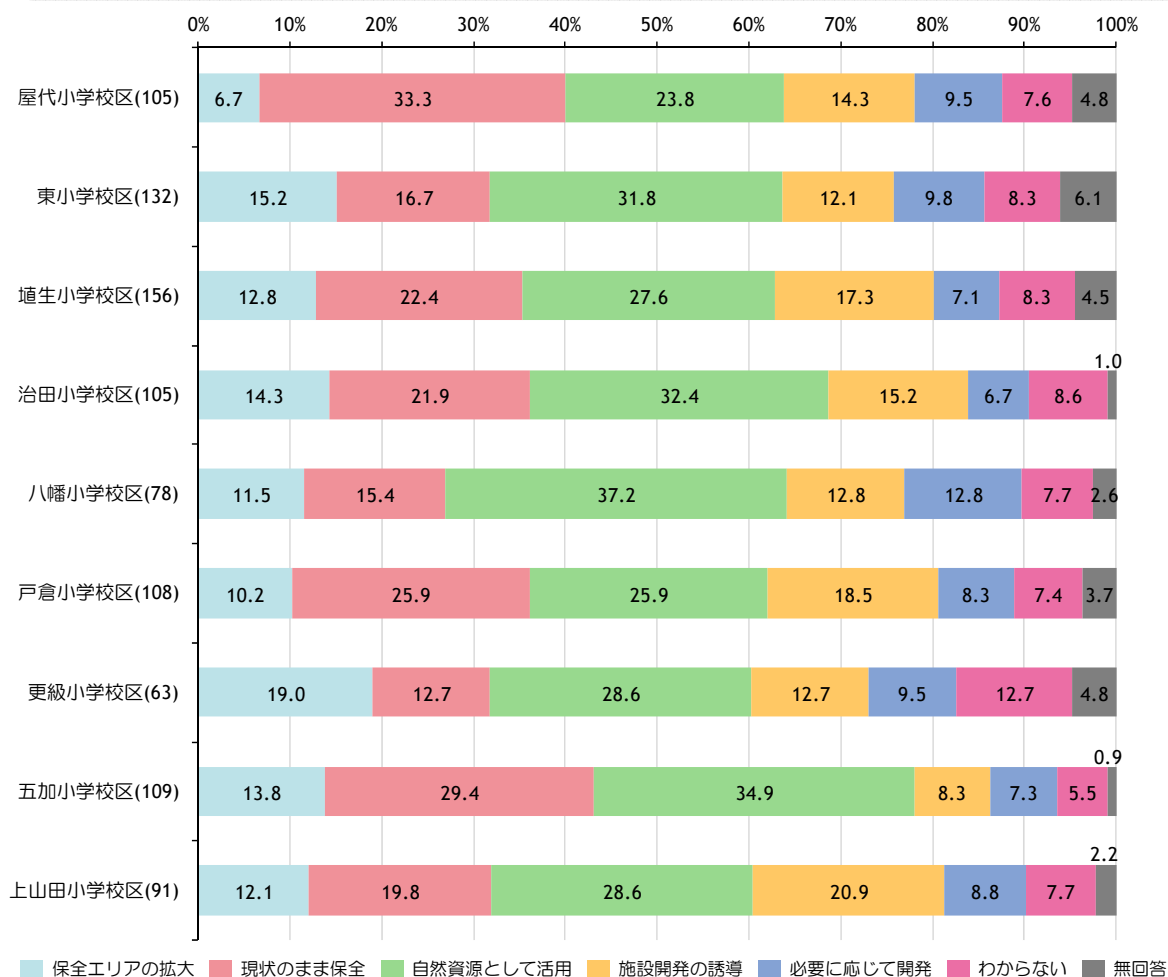


図 3-8-16 地区別 森林のあり方についての回答割合

グラフ内の項目について

- 保全エリアの拡大 : 保全するエリアを拡大し、森林保全をさらに進める
- 現状のまま保全 : 現状のまま、森林保全を行う
- 自然資源として活用 : 森林の持つ機能を生かして、自然資源として活用する
- 施設開発の誘導 : 観光施設やレクリエーション施設の開発を誘導する
- 必要に応じて開発 : 必要に応じて、部分的に伐採して開発を認めていく
- わからない : わからない

問 6-5 これからの農地のあり方について、どのようにしたらよいとお考えですか。

これからの農地のあり方について、最も多かったのは「必要に応じて、部分的に開発を認めていく(24.8%)」、次いで「農地の持つ機能を生かして、観光・交流の資源に活用していく(24.0%)」「現状のまま、農地の保全を行う(20.0%)」の順となっている。

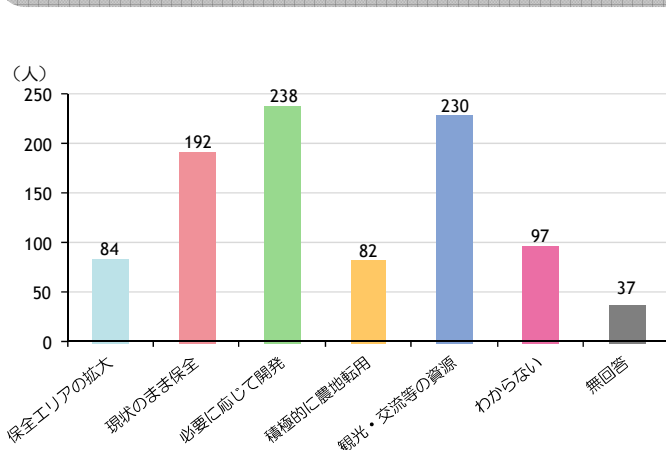


図 3-8-17 農地のあり方についての回答数

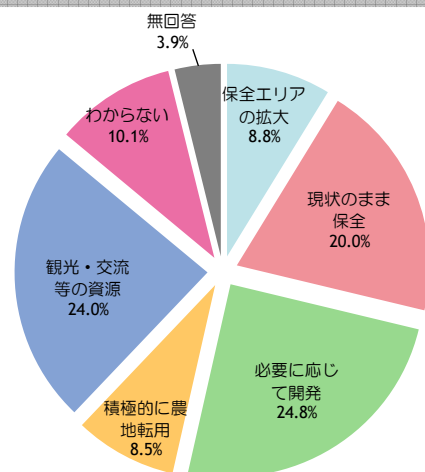


図 3-8-18 農地のあり方についての回答割合

【年齢別の農地のあり方について】

年齢層によって割合に差が出ており、農地を「保全していく」割合と「開発していく」割合にばらつきがある。

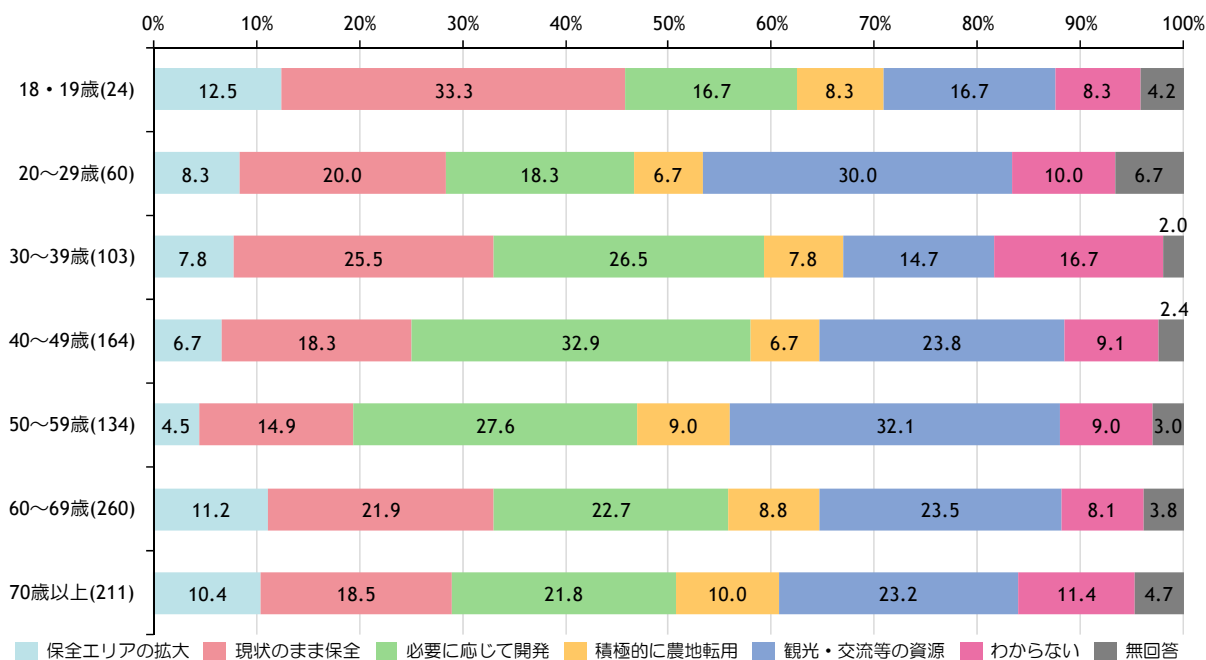


図 3-8-19 年齢別 農地のあり方についての回答割合

【地区別の農地のあり方について】

地区による大きな差はみられないが、屋代小学校区では「必要に応じて、部分的に開発を進めていく」、八幡小学校区では「積極的に農地転用を行い、開発を進めていく」が、上山田小学校区では「農地の持つ機能を生かして、観光・交流の資源にしていく」の割合が他の地区に比べて高くなっている。

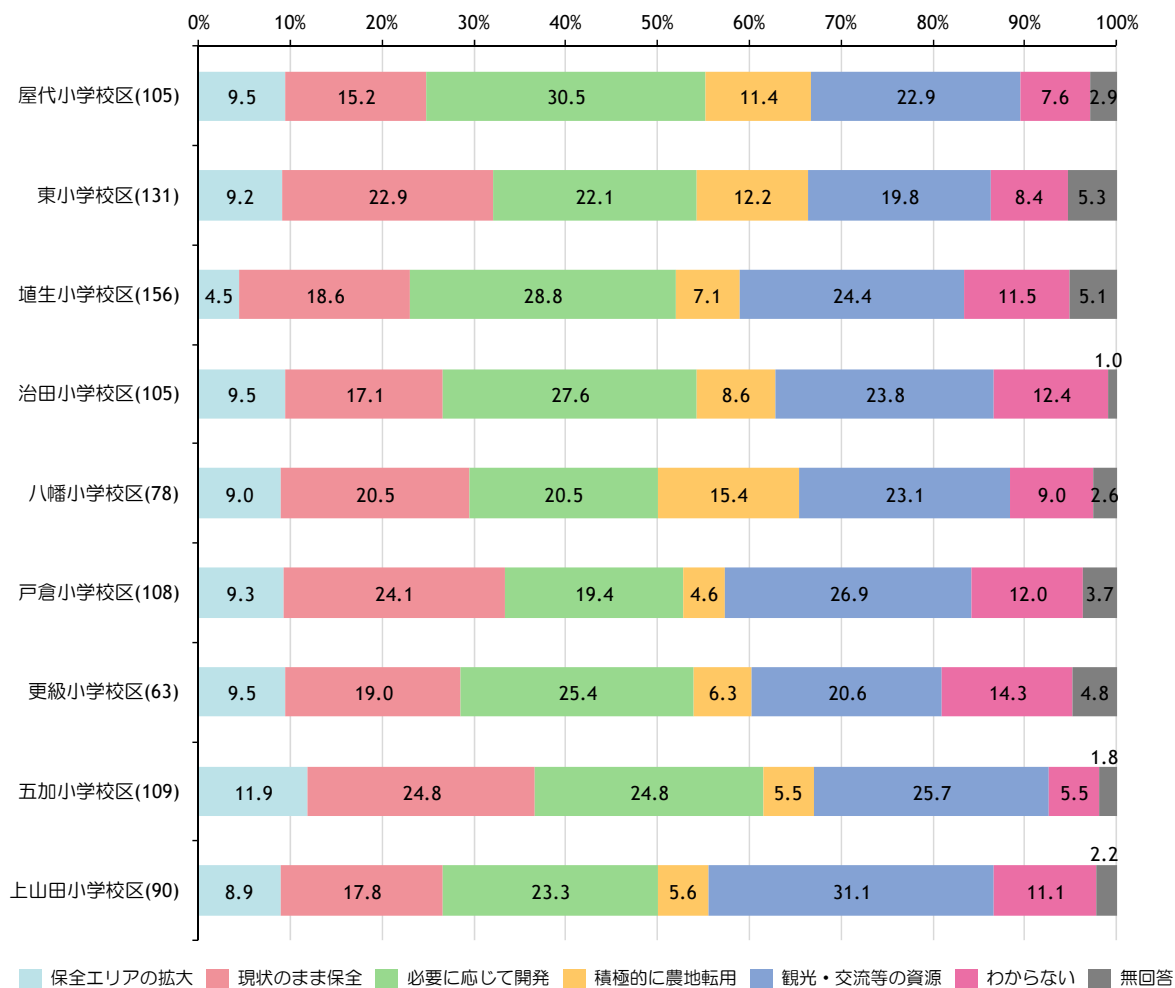


図 3-8-20 地区別 農地のあり方についての回答割合

グラフ内の項目について

- 保全エリアの拡大 : 保全するエリアを拡大し、農地の保全をさらに進める
- 現状のまま保全 : 現状のまま、農地の保全を行う
- 必要に応じて開発 : 必要に応じて、部分的に開発を認めていく
- 積極的に農地転用 : 積極的に農地転用を行い、開発を進めていく
- 観光・交流等の資源 : 農地の持つ機能を生かして、観光・交流の資源に活用していく
- わからない : わからない

問 6-6 これからの住宅地のあり方について、どのようにしたらよいとお考えですか。

これからの住宅地のあり方について、最も多かったのは「生活の利便性を高めるような商業施設等の立地は認める(53.6%)」、次いで「住宅以外の建物立地を規制し、住宅地環境を保全する(20.8%)」「わからない(11.6%)」の順となっている。

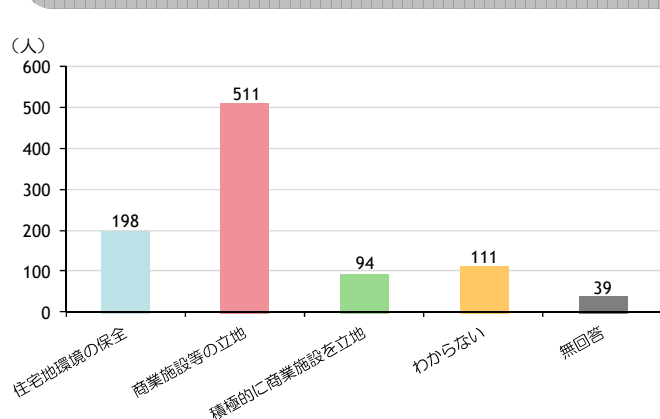


図 3-8-21 住宅地のあり方についての回答数

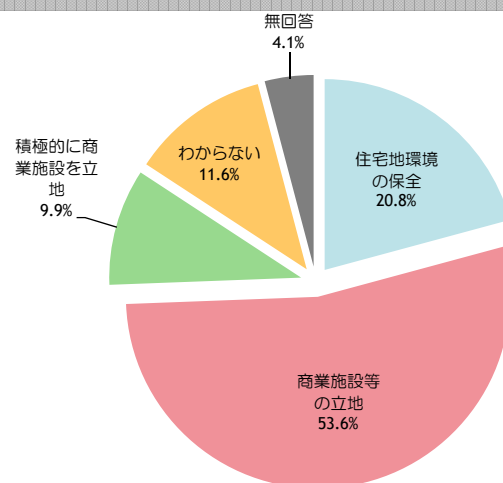


図 3-8-22 住宅地のあり方についての回答割合

【年齢別の住宅地のあり方について】

すべての年齢層で「生活の利便性を高めるような商業施設等の立地は認める」の割合が最も高くなっている。その他の項目については割合に大きな差はなかった。

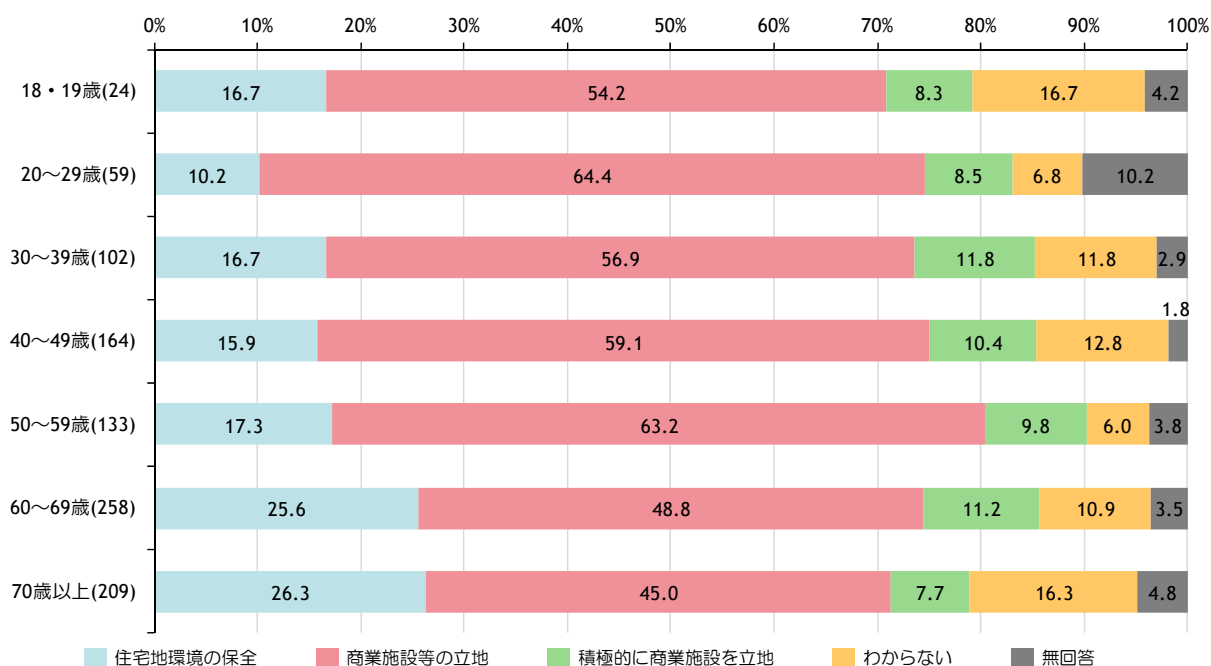


図 3-8-23 年齢別 住宅地のあり方についての回答割合

【年齢別の住宅地のあり方について】

すべての地区で「生活の利便性を高めるような商業施設等の立地は認める」の割合が最も高くなっている。その他の項目について大きな割合の差はなかった。

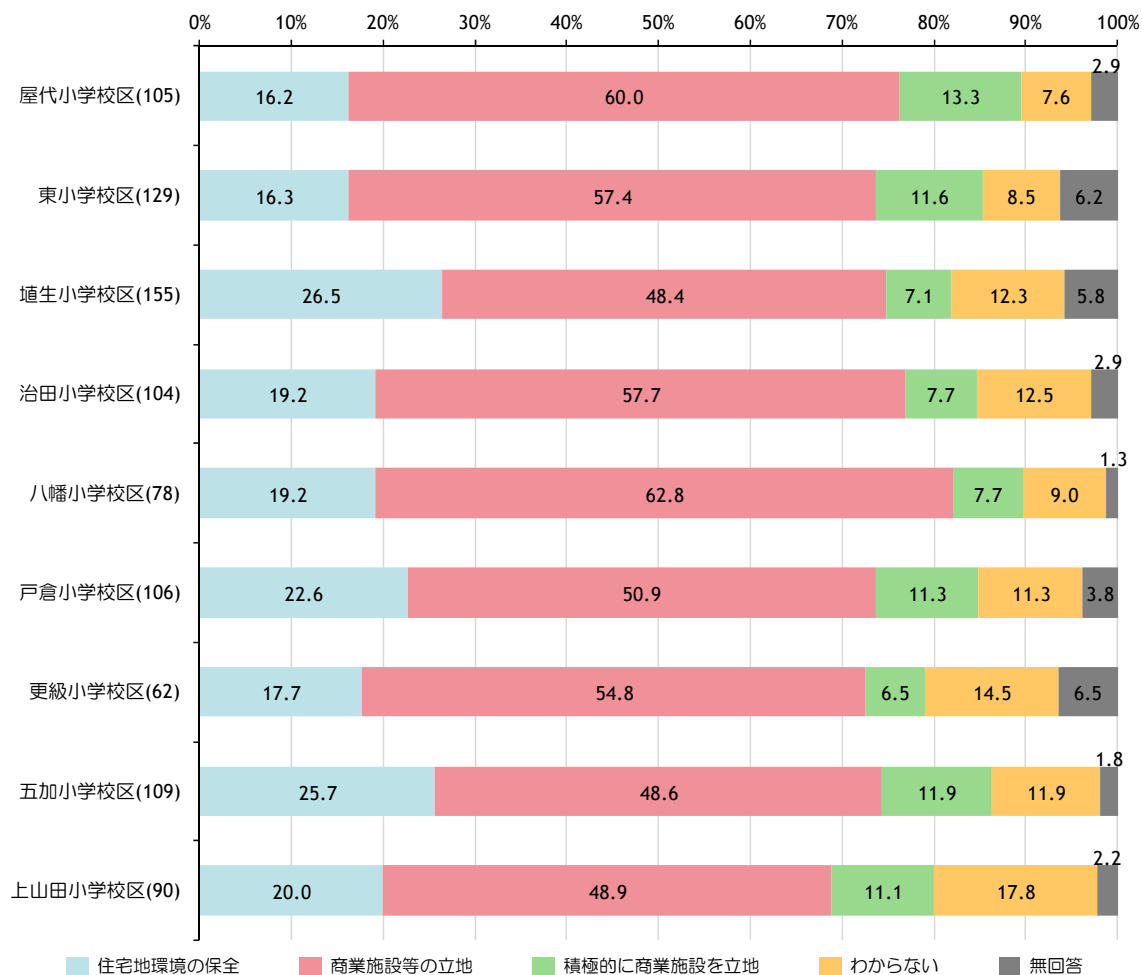


図 3-8-24 地区別 住宅地のあり方についての回答割合

グラフ内の項目について

- 住宅地環境の保全 : 住宅以外の建物立地を規制し、住宅地環境を保全する
- 商業施設等の立地 : 生活の利便性を高めるような商業施設等の立地は認める
- 積極的に商業施設を立地 : 積極的に商業施設の立地を認めていく
- わからない : わからない

問 6-7 これからの商業地のあり方について、どのようにしたらよいとお考えですか。

これからの商業地のあり方について、最も多かったのは「既存市街地の充実を図りながら、商業系の土地利用を拡大すべきである(42.3%)」、次いで「商業地の拡大は行わずに、既存市街地を活性化させるべきである(25.1%)」「商業系の土地利用を積極的に拡大すべきである(17.0%)」となっている。

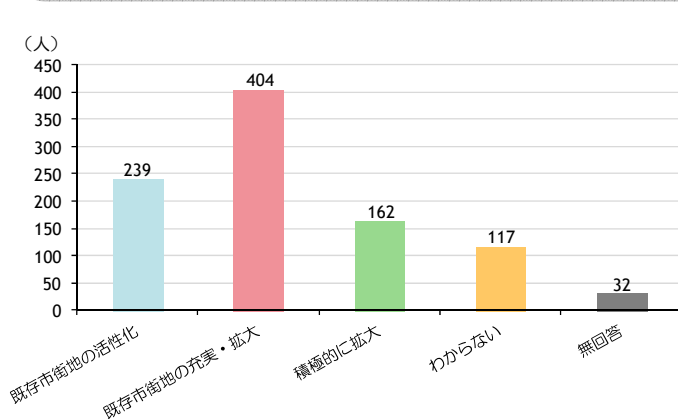


図 3-8-25 商業地のあり方についての回答数

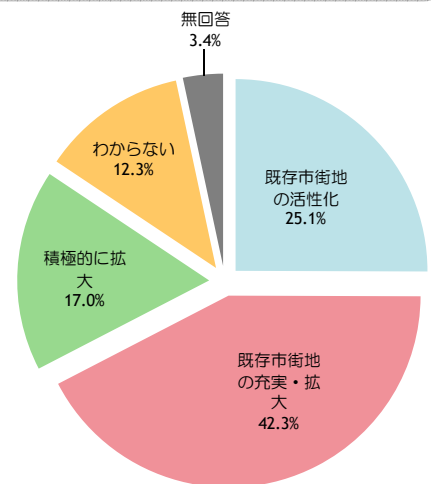


図 3-8-26 商業地のあり方についての回答割合

【年齢別の商業地のあり方について】

すべての年齢層で「既存市街地の充実を図りながら、商業系の土地利用を拡大すべきである」が最も高くなっている。18・19歳では「商業系の土地利用を積極的に拡大すべきである」が、20～29歳では「商業地の拡大は行わずに、既存市街地を活性化させるべきである」が1割以下になっている。

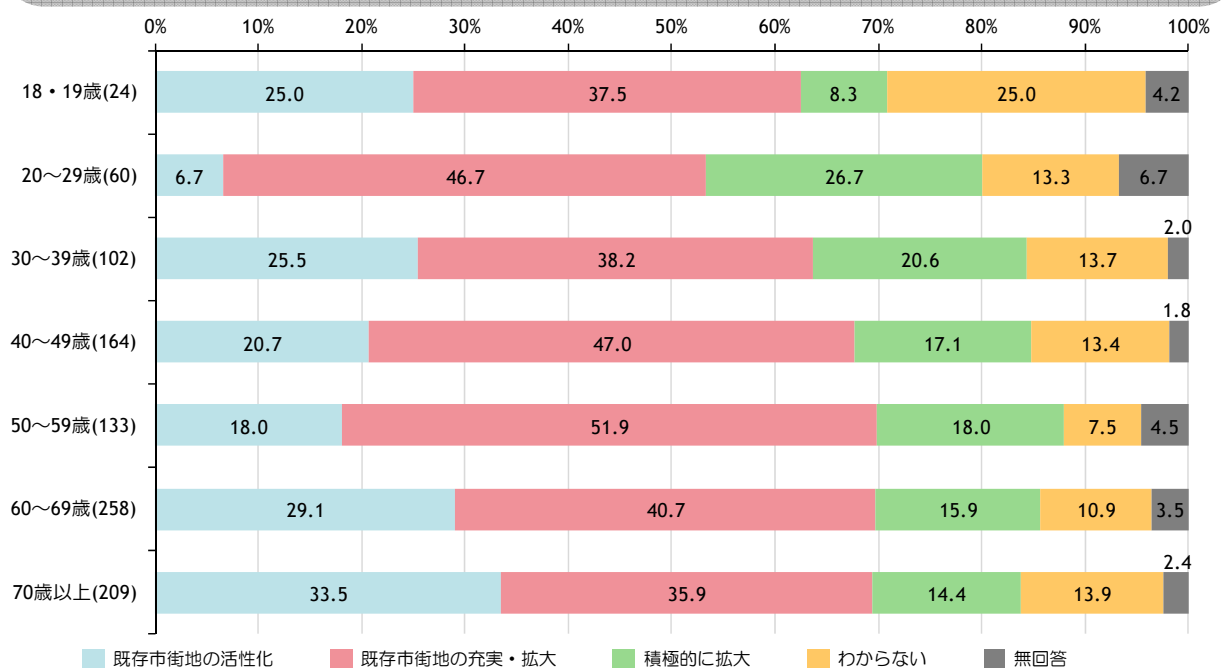


図 3-8-27 年齢別 住宅地のあり方についての回答割合

【地区別の商業地のあり方について】

すべての年齢層で「既存市街地の充実を図りながら、商業系の土地利用を拡大すべきである」が最も高くなっている。また、更級小学校区では「商業系の土地利用を積極的に拡大すべきである」が他の地区に比べて割合が低く、1割以下になっている。

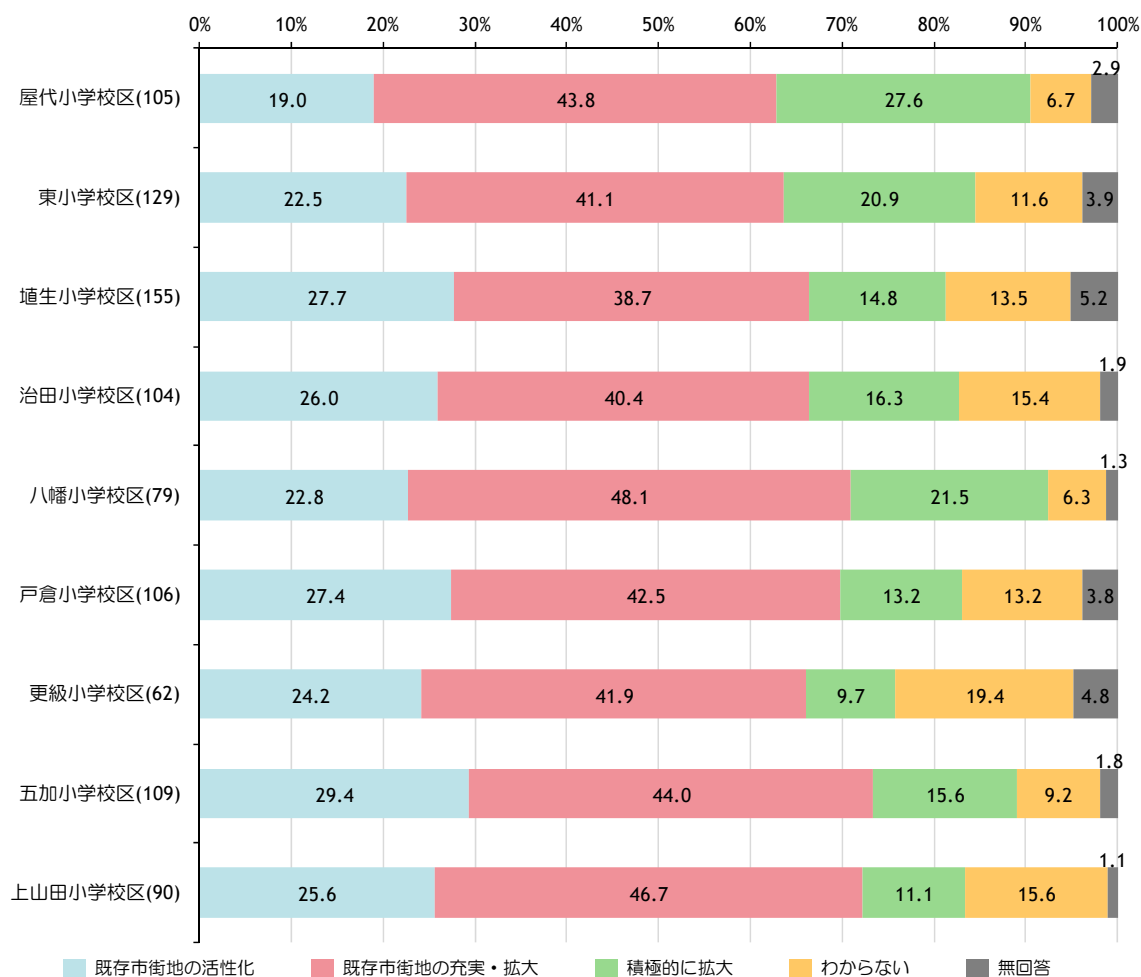


図 3-8-28 地区別 住宅地のあり方についての回答割合

グラフ内の項目について

- 既存市街地の活性化 : 商業地の拡大は行わずに、既存市街地を活性化させるべきである
- 既存市街地の充実・拡大 : 既存市街地の充実を図りながら、商業系の土地利用を拡大すべきである
- 積極的に拡大 : 商業系の土地利用を積極的に拡大すべきである
- わからない : わからない

問 6-8 これからの工業地のあり方について、どのようにしたらよいとお考えですか。

これからの工業地のあり方について、最も多かったのは「わからない(36.2%)」、次いで「産業振興のため、新たな工業団地の造成等を行い、積極的に企業誘致を進める(31.9%)」「既存産業の適正立地のため、工業系用途地域内への移転促進を図る(22.4%)」となっている。

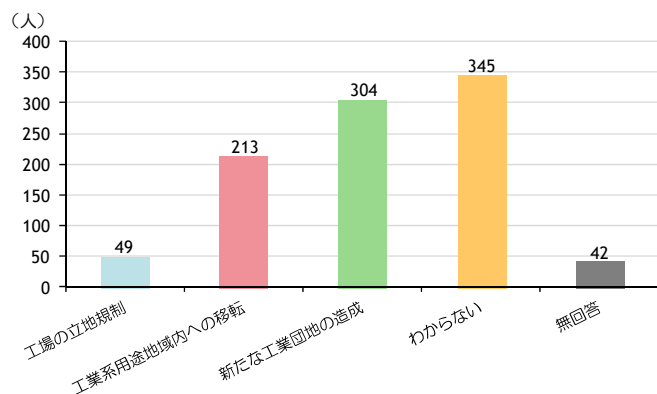


図 3-8-29 工業地のあり方についての回答数

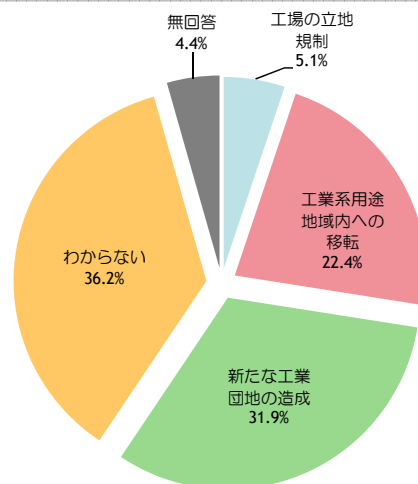


図 3-8-30 工業地のあり方についての回答割合

【年齢別の工業地のあり方について】

すべての年齢層で「わからない」の割合が高く、40歳以上の年齢層では「産業振興のため、新たな工業団地の造成等を行い、積極的に企業誘致を進める」が3割を超えている。

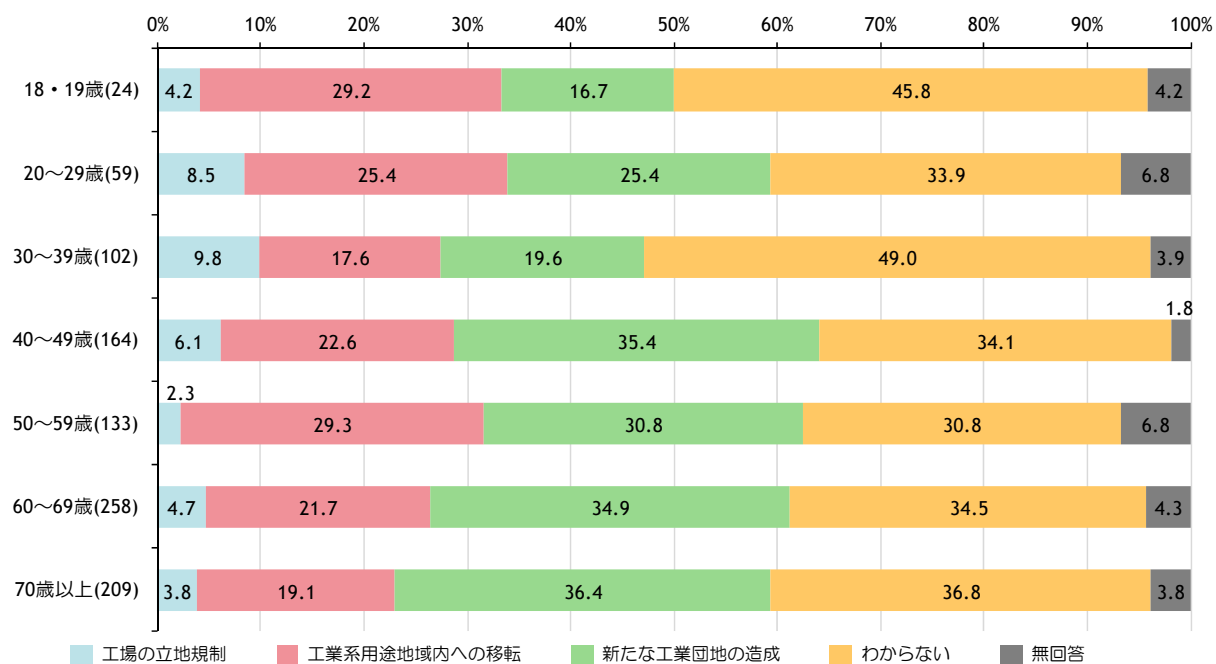


図 3-8-31 年齢別 工業地のあり方についての回答割合

【地区別の工業地のあり方について】

すべての地区で「産業振興のため、新たな工業団地の造成等を行い、積極的に企業誘致を進める」の割合が最も高く、次いで「既存産業の適正立地のため、工業系用途地域内への移転促進を図る」「工場が多すぎるため、新たな立地計画は規制する」の順となった。

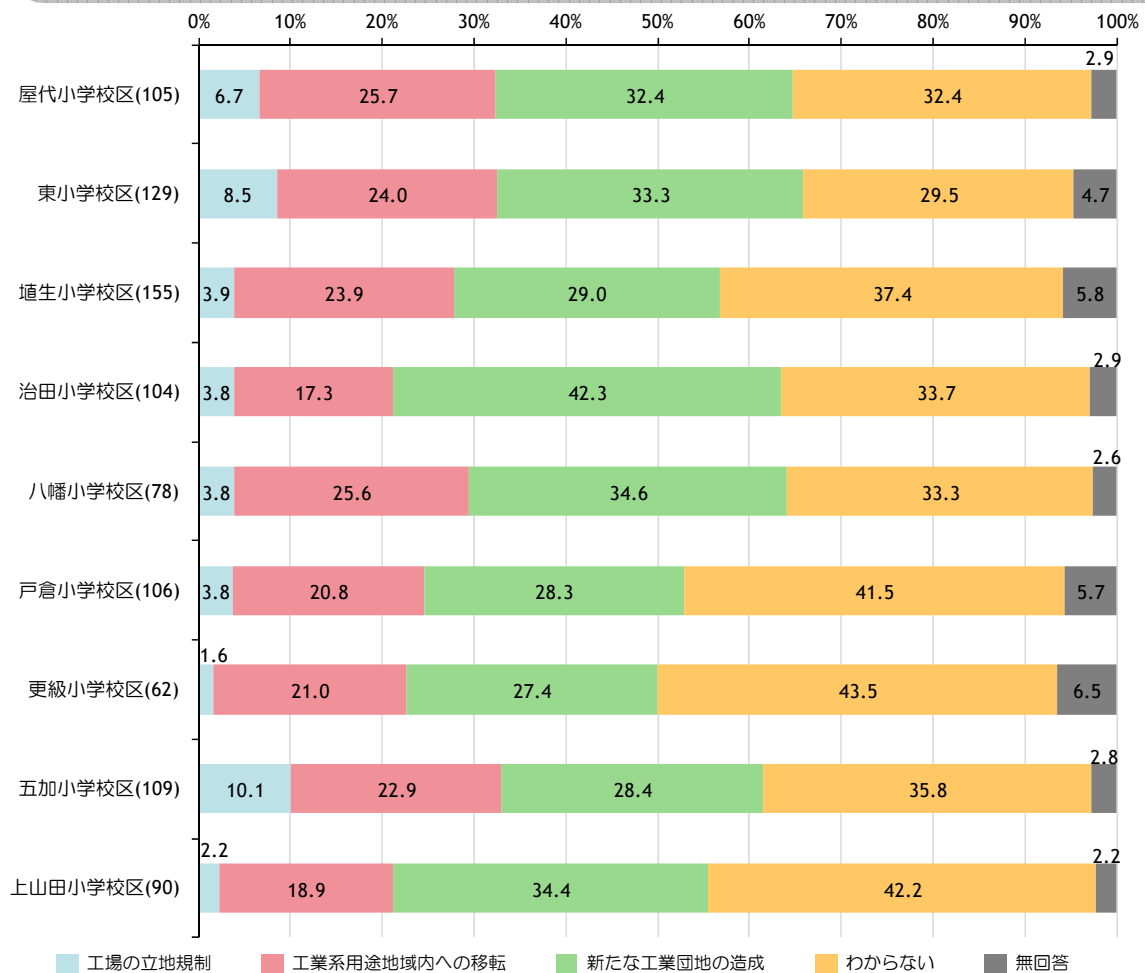


図 3-8-32 地区別 工業地のあり方についての回答割合

グラフ内の項目について

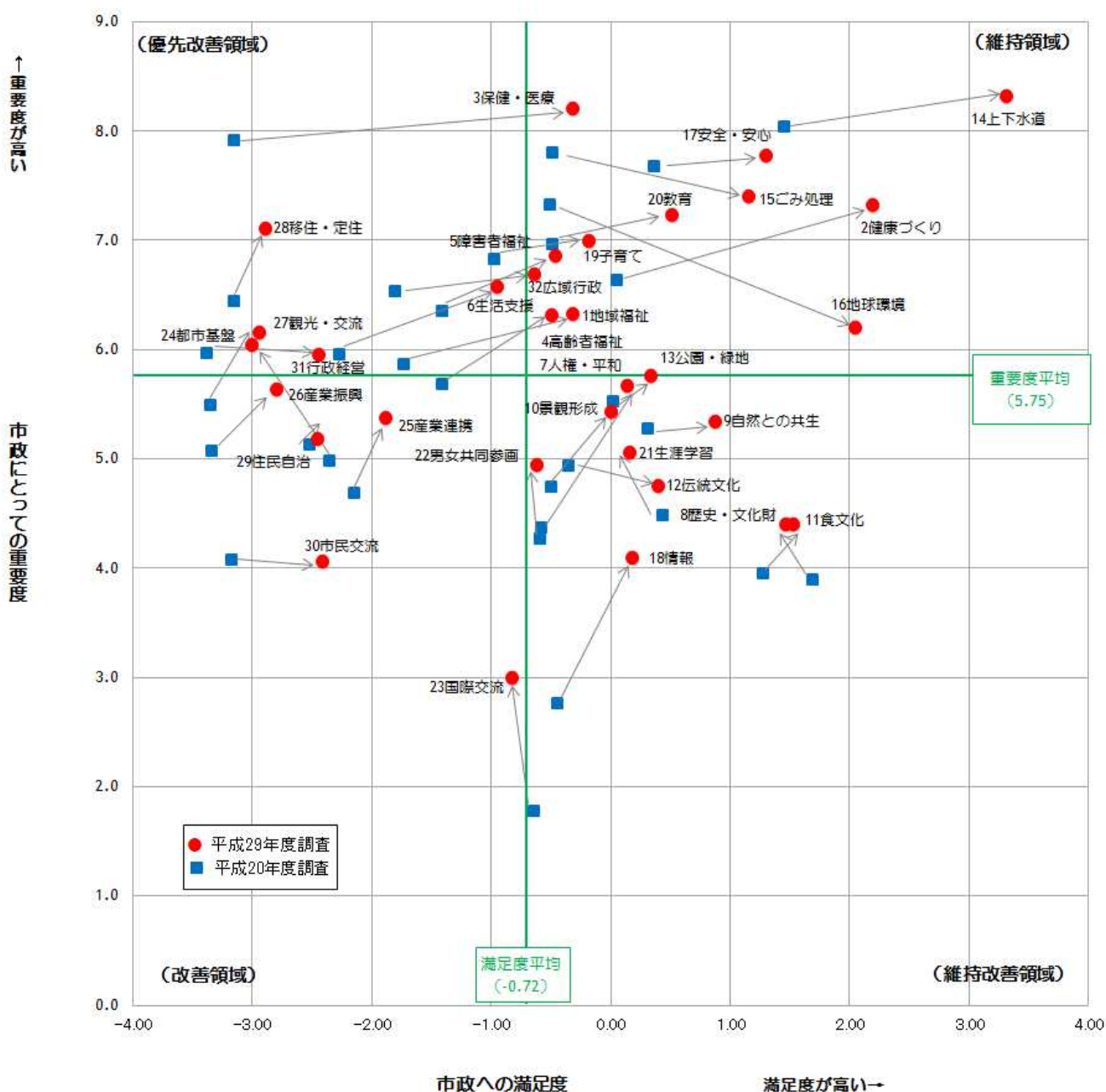
- 工場の立地規制 : 工場が多すぎるため、新たな立地計画は規制する
- 工業系用途地域内への移転 : 既存産業の適正立地のため、工業系用途地域内への移転促進を図る
- 新たな工業団地の造成 : 産業振興のため、新たな工業団地の造成等を行い、積極的に企業誘致を進める
- わからない : わからない

4. 平成20年度との比較

1 満足度・重要度の推移

下の図は、平成20年度と平成29年度の平均スコアがどのように推移したかを表す散布図である。多くの項目が右上の方向へ移動しており、全体的に重要度・満足度がともに上昇していることがわかる。

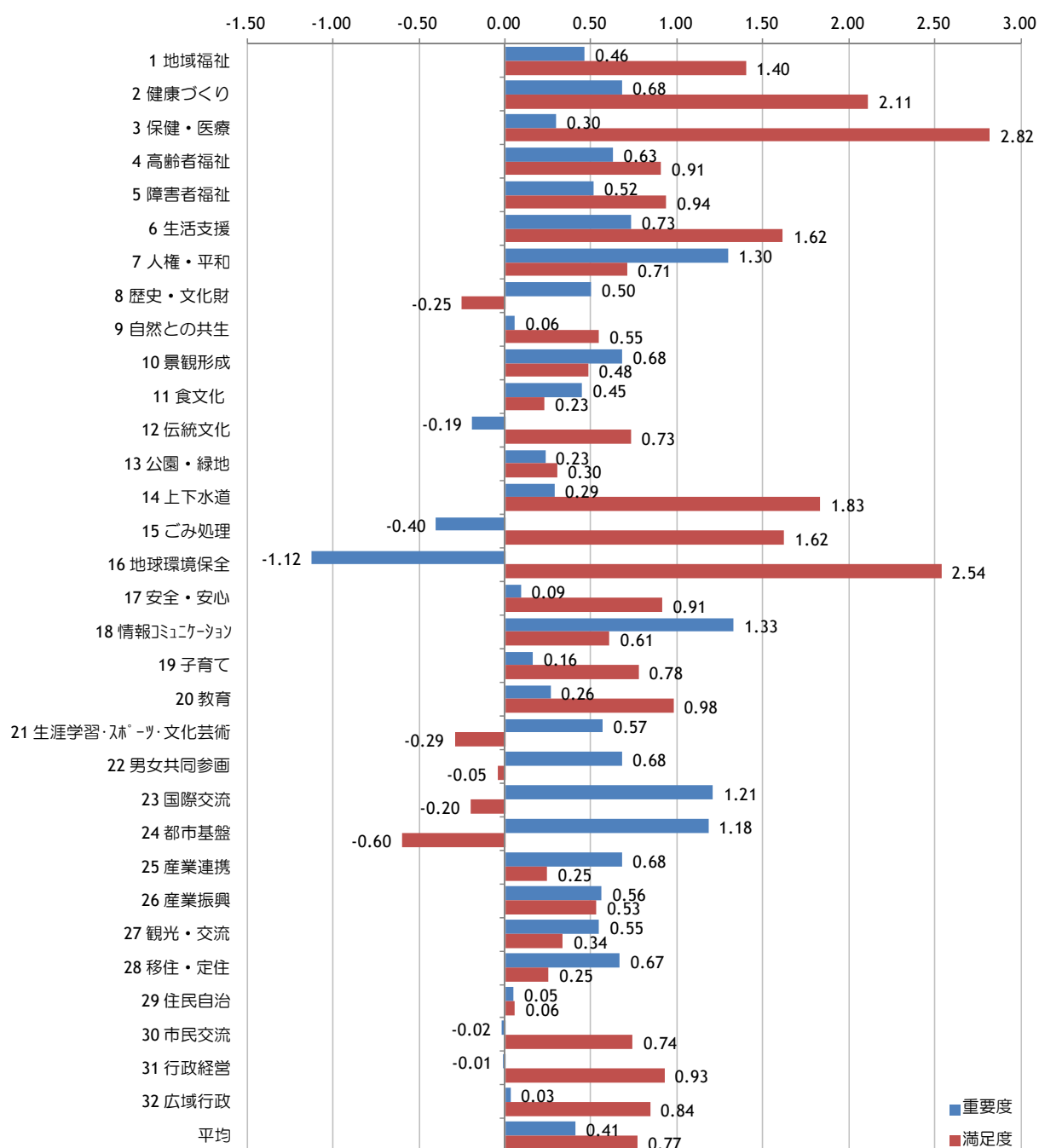
また、重要度が上がり満足度が下がった項目としては「国際交流」「歴史・文化財」「男女共同参画」などである。



2 満足度・重要度の変動

下の図は平成20年度と平成29年度のスコア平均がどのように変動したかを表している横棒グラフである。図からは満足度・重要度がともに増加している項目が多くみられる。

特に、満足度が重要度に比べて多く上昇していることがわかる。



3 満足度・重要度の推移の一覧表

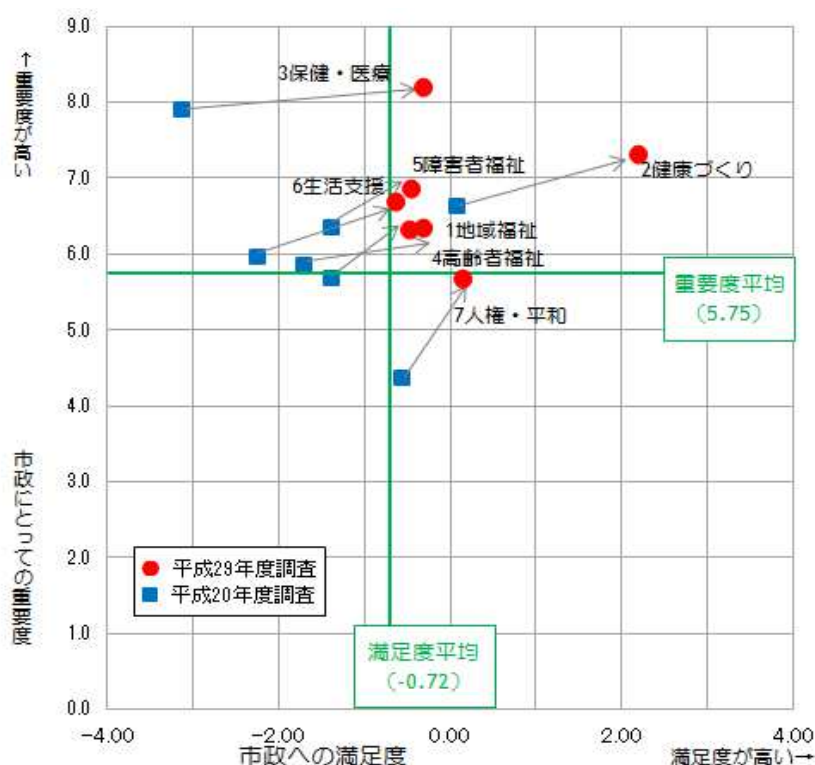
下の表は推移の変化をまとめたものである。変化の項目の赤い塗りつぶしは「平均の 110%を超えている項目」、青い塗りつぶしは「平均の 90%以上の項目」である。

赤は特に上昇したもの、青は特に減少したものを示している。

項目名	H20年度		H29年度		変化	
	H20_満足度	H20_重要度	H29_満足度	H29_重要度	満足度	重要度
1 地域福祉	-1.74	5.87	-0.34	6.33	1.40	0.46
2 健康づくり	0.05	6.64	2.16	7.32	2.11	0.68
3 保健・医療	-3.16	7.91	-0.34	8.21	2.82	0.30
4 高齢者福祉	-1.42	5.69	-0.51	6.32	0.91	0.63
5 障害者福祉	-1.42	6.35	-0.48	6.87	0.94	0.52
6 生活支援	-2.28	5.96	-0.66	6.69	1.62	0.73
7 人権・平和	-0.59	4.37	0.12	5.67	0.71	1.30
8 歴史・文化財	1.69	3.90	1.44	4.40	-0.25	0.50
9 自然との共生	0.30	5.28	0.85	5.34	0.55	0.06
10 景観形成	-0.50	4.75	-0.02	5.43	0.48	0.68
11 食文化	1.27	3.95	1.50	4.40	0.23	0.45
12 伝統文化	-0.36	4.94	0.37	4.75	0.73	-0.19
13 公園・緑地	0.01	5.53	0.31	5.76	0.30	0.23
14 上下水道	1.45	8.04	3.28	8.33	1.83	0.29
15 ごみ処理	-0.49	7.80	1.13	7.40	1.62	-0.40
16 地球環境保全	-0.52	7.33	2.02	6.21	2.54	-1.12
17 安全・安心	0.36	7.68	1.27	7.77	0.91	0.09
18 情報コミュニケーション	-0.45	2.77	0.16	4.10	0.61	1.33
19 子育て	-0.98	6.83	-0.20	6.99	0.78	0.16
20 教育	-0.49	6.97	0.49	7.23	0.98	0.26
21 生涯学習・スポーツ・文化芸術	0.43	4.49	0.14	5.06	-0.29	0.57
22 男女共同参画	-0.60	4.27	-0.65	4.95	-0.05	0.68
23 国際交流	-0.65	1.78	-0.85	2.99	-0.20	1.21
24 都市基盤	-2.36	4.98	-2.96	6.16	-0.60	1.18
25 産業連携	-2.15	4.69	-1.90	5.37	0.25	0.68
26 産業振興	-3.35	5.07	-2.82	5.63	0.53	0.56
27 観光・交流	-3.36	5.49	-3.02	6.04	0.34	0.55
28 移住・定住	-3.16	6.44	-2.91	7.11	0.25	0.67
29 住民自治	-2.53	5.13	-2.47	5.18	0.06	0.05
30 市民交流	-3.18	4.08	-2.44	4.06	0.74	-0.02
31 行政経営	-3.39	5.97	-2.46	5.96	0.93	-0.01
32 広域行政	-1.81	6.54	-0.97	6.57	0.84	0.03
平均	-1.11	5.55	-0.34	5.96	0.77	0.41

4 満足度・重要度の推移(第一次千曲市総合計画の基本目標ごと)

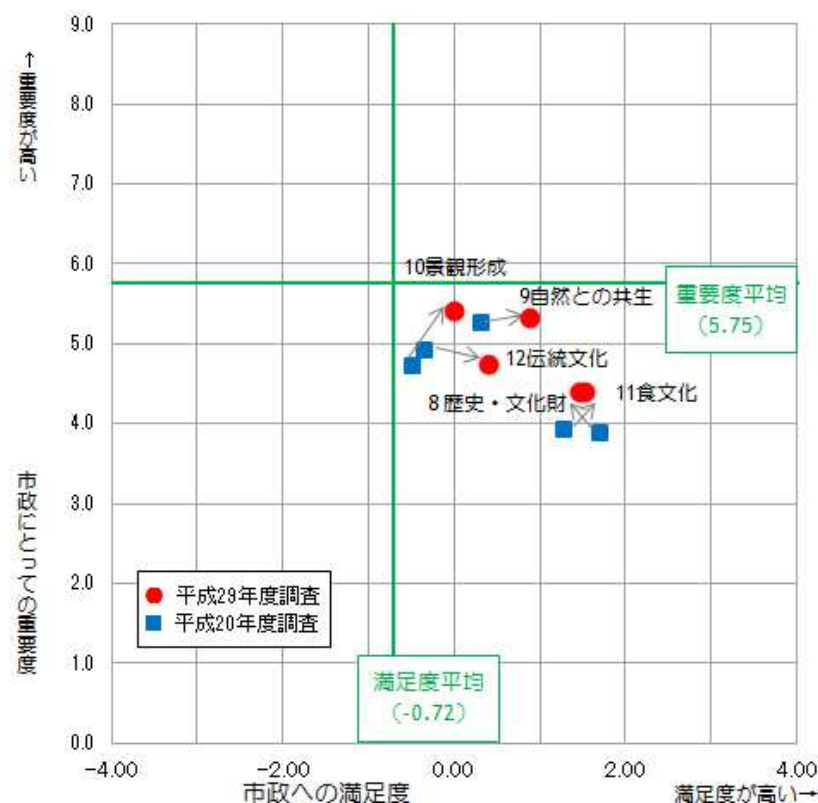
■基本目標1：支え合い、元気に暮らすまち



基本目標1にかかわる項目は、すべて満足度・重要度ともに増加している。特に「保健・医療」は優先改善領域だったものが維持領域へかかるほど満足度が高まっている。

「高齢者福祉」「人権・平和」の項目についてはほかの項目ほど満足度の増加がみられなかった。

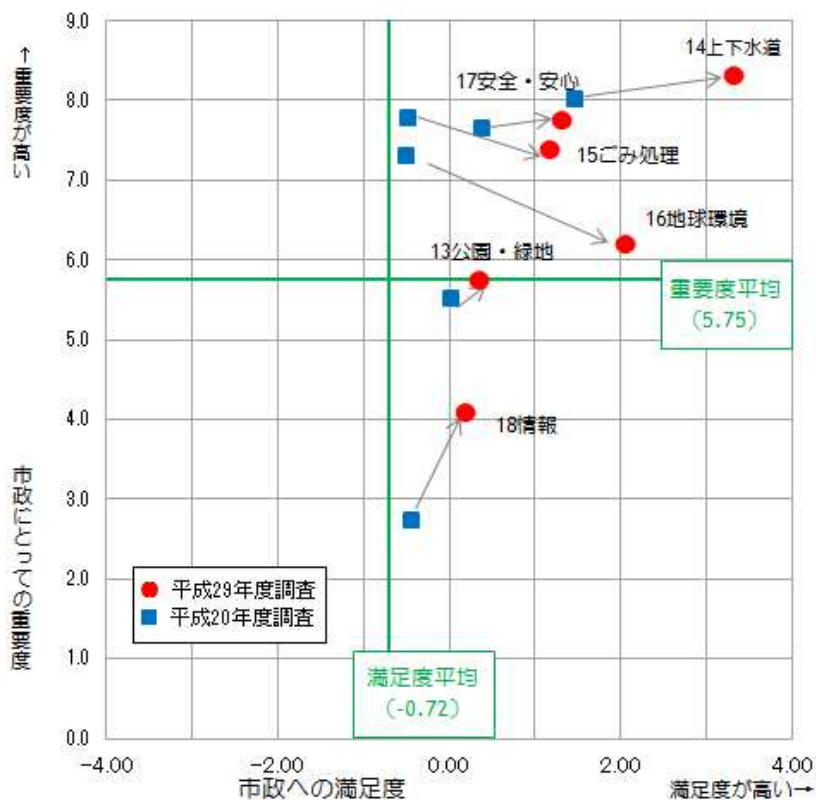
■基本目標2：ふるさとの自慢を未来に継ぐまち



基本目標2にかかわる項目は、平成20年度からの大きな変化はみられなかった。しかし、「歴史・文化財」の項目を除いて満足度の増加がみられる。

「歴史・文化財」については重要度が増加、満足度が減少した。

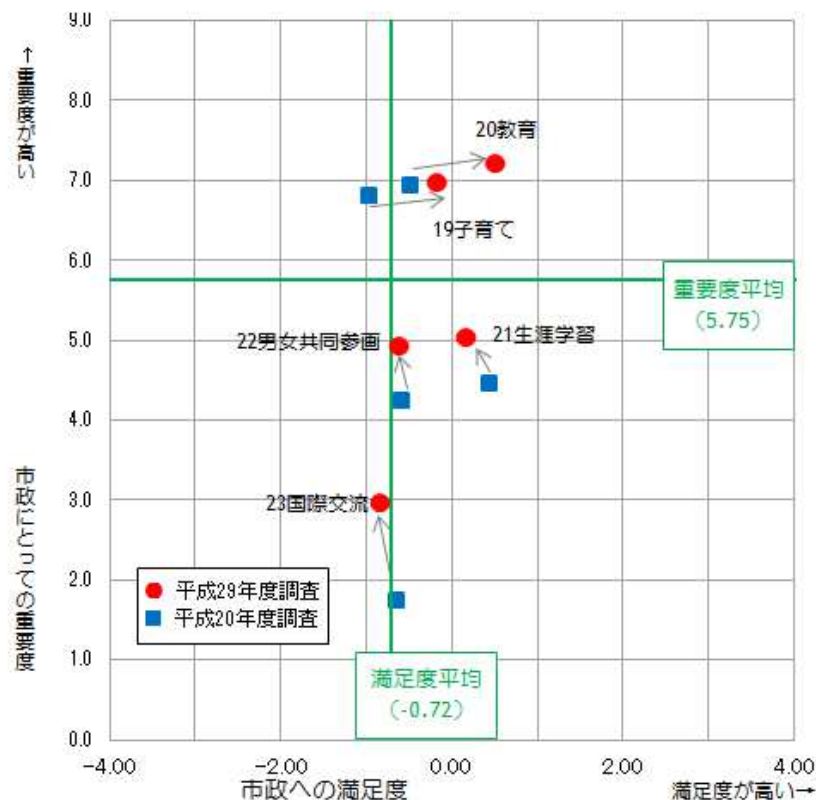
■基本目標 3：市民が憩い、心穏やかに過ごせるまち



基本目標 3 にかかわる項目は、平成 20 年度から領域の変化はみられなかったが、すべての項目で満足度の増加がみられた。

「公園・緑地」「安全・安心」の項目はその他の項目に比べ満足度の増加率は少ない結果となった。

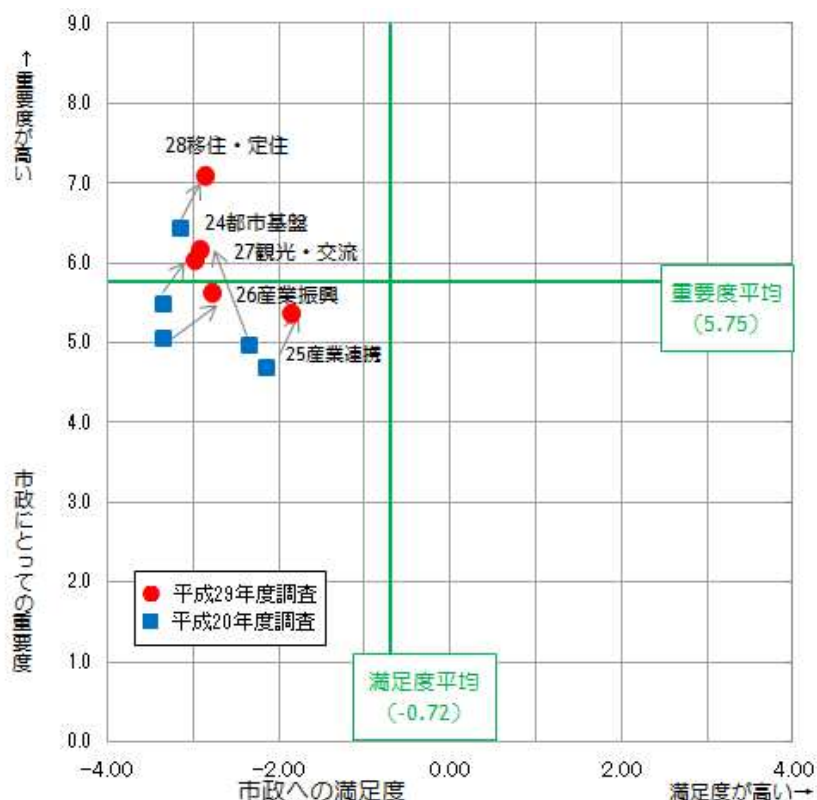
■基本目標 4：のびのびと社会にはばたく人が育つまち



基本目標 4 にかかわる項目は、「教育」「子育て」については満足度・重要度の二つに増加がみられた。

一方で「男女共同参画」「生涯学習」「国際交流」は満足度が減少し、重要度が増加する結果となった。

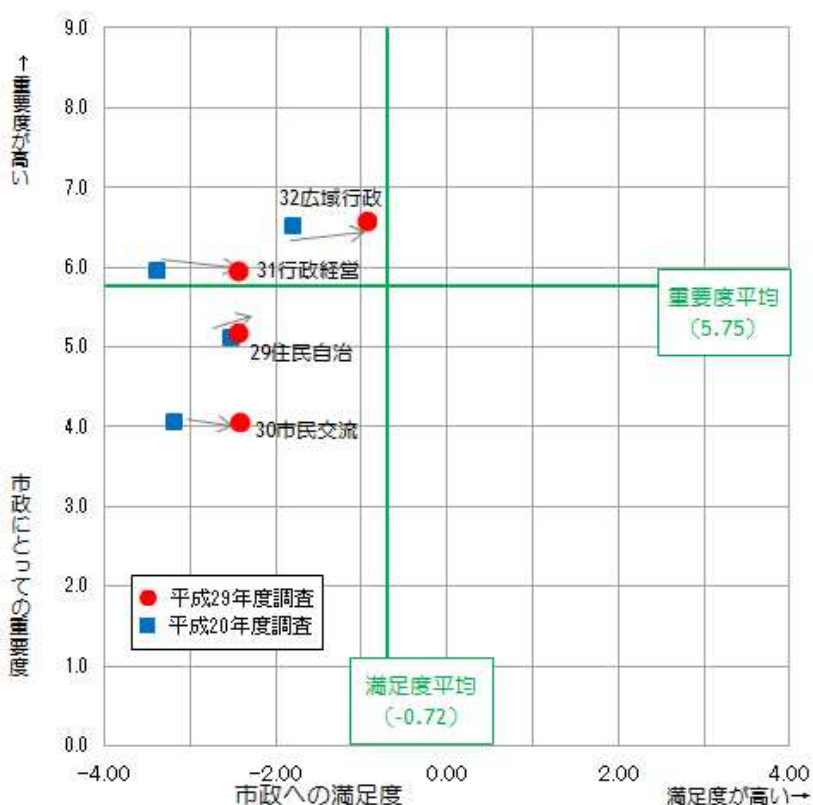
■基本目標 5：千曲の魅力が交流と活力をはぐくむまち



基本目標 5 にかかわる項目は、「都市基盤」を除くすべての項目で重要度・満足度二つの増加がみられるが、全体として変化量はわずかである。

「都市基盤」については満足度が減少し、重要度が増加する結果となった。

■基本目標 6：信頼と連携で力を合わせる市民主体のまち



基本目標 6 にかかわる項目は、すべての項目において満足度の上昇がみられた。

「広域行政」「住民自治」では重要度も増加している。また、「行政経営」「市民交流」について重要度は減少している。